



慶應義塾大学病院
病院年報

2020 年度

Keio University Hospital

Annual Report 2020

慶應義塾大学病院の理念

患者さんに優しく患者さんに信頼される

患者さん中心の医療を行います

先進的医療を開発し質の高い安全な医療を提供します

豊かな人間性と深い知性を有する医療人を育成します

人権を尊重した医学と医療を通して人類の福祉に貢献します

理念 実施方針

1. 患者さんの立場で

私たちは、患者さんの立場になって考え、ともに疾病の克服に努めます。

2. 質の高い安全な医療

私たちは、質の高い安全な医療を持続できるよう努めます。

3. 不断の自己点検

私たちは、不断の自己点検と評価によって、病院機能の改善に努めます。

4. 独立自尊の医療人

私たちは、独立した一個人として責任をもって社会的使命を果たします。

5. 総合的なチーム医療

私たちは、各職種が一体となった総合的なチーム医療を展開します。

6. 新しい医療

私たちは、基礎と臨床が一体となって、積極的に新しい医療に挑戦します。

7. 倫理と人権

私たちは、高い倫理性を持って、人権を尊重した医療を推進します。

目 次

I. 概要

病院概要	2
沿革	8
組織の構成	12
教職員数	13
財務	14

II. 病院としての取り組み

2020年度の主な取り組みと出来事	16
-------------------------	----

III. 統計・実績

外来患者数（科別）	21
救急外来患者数（科別）	23
入院患者延数（科別）	24
入院患者延数（病棟別）・病床稼働率	25
新入院・退院・死亡・在院患者延数・平均在院日数	25
分娩件数・出生児数・死産児数	26
手術件数（科別）	26
手術全身麻酔件数（科別）	27
薬剤・輸血関連実績	28
画像・検体・生理機能検査実績	28
公開講座・講演会・セミナー	28

IV. 診療科・部門の活動

<診療科部門>

呼吸器内科	32
循環器内科	32
消化器内科	33
腎臓・内分泌・代謝内科	36
神経内科	38
血液内科	39
リウマチ・膠原病内科	40
一般・消化器外科	41

呼吸器外科	42
心臓血管外科.....	43
脳神経外科	44
小児外科.....	46
整形外科.....	47
リハビリテーション科.....	48
形成外科.....	50
小児科.....	51
産科	53
婦人科.....	54
眼科	56
皮膚科.....	57
泌尿器科.....	59
耳鼻咽喉科	60
精神・神経科.....	61
放射線治療科.....	63
放射線診断科.....	64
麻酔科.....	64
救急科.....	65
歯科・口腔外科.....	66
総合診療科	67
臨床検査科	68
病理診断科	69
<診療施設部門>	
予防医療センター	71
血液浄化・透析センター	72
内視鏡センター.....	72
腫瘍センター.....	73
輸血・細胞療法センター	74
スポーツ医学総合センター.....	76
漢方医学センター	77
臨床遺伝学センター.....	78
免疫統括医療センター	79
緩和ケアセンター	79
手術・血管造影センター	80
集中治療センター	81

救急センター.....	81
<診療支援部門>	
看護部.....	83
薬剤部.....	84
滅菌管理部.....	85
食養管理室.....	86
医用工学室.....	87
放射線技術室.....	88
臨床検査技術室.....	89
<臨床研究・教育部門>	
臨床研究推進センター.....	91
臨床研究監理センター.....	92
卒後臨床研修センター.....	93
<管理部門>	
医療安全管理部.....	94
感染制御部.....	94
病院情報システム部.....	96
患者総合相談部.....	96
医療連携推進部.....	97
放射線安全管理室.....	98
医療保険指導部.....	99
<病院事務局>	
病院経営企画室.....	101
医事統括室.....	101
秘書課.....	102
総務課.....	103
人事課.....	103
管財課.....	104
経理課.....	105
キャリア開発室.....	105

I 概要

■ 病院概要

(2021年10月1日現在)

名称	慶應義塾大学病院					
所在地	〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35 番地 TEL (03)3353-1211 (代表)					
病院長	松本 守雄					
副病院長	大家 基嗣／佐々木 淳一／志水 秀行／陣崎 雅弘／長谷川 奉延／福永 興壱					
病院長補佐	朝倉 啓介／金子 祐子／藤澤 大介					
診療科	○内科（循環器、呼吸器、消化器、腎臓・内分泌・代謝、神経、血液、リウマチ・膠原病）○外科（一般・消化器、呼吸器、心臓血管）○脳神経外科 ○小児外科 ○整形外科 ○リハビリテーション科 ○形成外科 ○小児科 ○産科 ○婦人科 ○眼科 ○皮膚科 ○泌尿器科 ○耳鼻咽喉科 ○精神・神経科 ○放射線治療科 ○放射線診断科 ○麻酔科 ○救急科 ○歯科・口腔外科 ○総合診療科 ○臨床検査科 ○病理診断科					
許可病床数	946 床（一般病床：930 床／精神病床：16 床）					
指定医療（法令等による医療機関の指定）	○特定機能病院 ○臨床研究中核病院 ○がんゲノム医療中核拠点病院 ○エイズ拠点病院○地域がん診療連携拠点病院 ○救急病院 ○身体障害者福祉法指定（東京都） ○労災保険指定病院 ○災害拠点病院○DMAT 指定医療機関 ○地域周産期母子医療センター ○エイズ拠点病院 ○第二種感染症指定医療機関（結核モデル事業） ○臓器移植登録施設（肝臓・小腸・腎臓）					
施設基準	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">基本診療科</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料 ・ 歯科外来診療環境体制加算 ・ 特定機能病院入院基本料 ・ 救急医療管理加算 ・ 超急性期脳卒中加算 ・ 診療録管理体制加算 2 ・ 医師事務作業補助体制加算 1 ・ 急性期看護補助体制加算 ・ 看護職員夜間配置加算 ・ 療養環境加算 ・ 無菌治療室管理加算 1・2 ・ 緩和ケア診療加算 ・ 精神科身体合併症管理加算 ・ 精神科リエゾンチーム加算 ・ 摂食障害入院医療管理加算 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ・ ハイリスク妊娠管理加算 ・ ハイリスク分娩管理加算 ・ 呼吸ケアチーム加算 ・ 病棟薬剤業務実施加算 1 ・ 病棟薬剤業務実施加算 2 ・ データ提出加算 2（200 床以上） ・ 入退院支援加算 2 ・ 認知症ケア加算 1 ・ せん妄ハイリスク患者ケア加算 ・ 精神疾患診療体制加算 ・ 精神科急性期医師配置加算 2 ・ 排尿自立支援加算 ・ 地域医療体制確保加算 ・ 地域歯科診療支援病院入院加算 </td> </tr> </table>		基本診療科		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料 ・ 歯科外来診療環境体制加算 ・ 特定機能病院入院基本料 ・ 救急医療管理加算 ・ 超急性期脳卒中加算 ・ 診療録管理体制加算 2 ・ 医師事務作業補助体制加算 1 ・ 急性期看護補助体制加算 ・ 看護職員夜間配置加算 ・ 療養環境加算 ・ 無菌治療室管理加算 1・2 ・ 緩和ケア診療加算 ・ 精神科身体合併症管理加算 ・ 精神科リエゾンチーム加算 ・ 摂食障害入院医療管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ・ ハイリスク妊娠管理加算 ・ ハイリスク分娩管理加算 ・ 呼吸ケアチーム加算 ・ 病棟薬剤業務実施加算 1 ・ 病棟薬剤業務実施加算 2 ・ データ提出加算 2（200 床以上） ・ 入退院支援加算 2 ・ 認知症ケア加算 1 ・ せん妄ハイリスク患者ケア加算 ・ 精神疾患診療体制加算 ・ 精神科急性期医師配置加算 2 ・ 排尿自立支援加算 ・ 地域医療体制確保加算 ・ 地域歯科診療支援病院入院加算
基本診療科						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料 ・ 歯科外来診療環境体制加算 ・ 特定機能病院入院基本料 ・ 救急医療管理加算 ・ 超急性期脳卒中加算 ・ 診療録管理体制加算 2 ・ 医師事務作業補助体制加算 1 ・ 急性期看護補助体制加算 ・ 看護職員夜間配置加算 ・ 療養環境加算 ・ 無菌治療室管理加算 1・2 ・ 緩和ケア診療加算 ・ 精神科身体合併症管理加算 ・ 精神科リエゾンチーム加算 ・ 摂食障害入院医療管理加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 ・ ハイリスク妊娠管理加算 ・ ハイリスク分娩管理加算 ・ 呼吸ケアチーム加算 ・ 病棟薬剤業務実施加算 1 ・ 病棟薬剤業務実施加算 2 ・ データ提出加算 2（200 床以上） ・ 入退院支援加算 2 ・ 認知症ケア加算 1 ・ せん妄ハイリスク患者ケア加算 ・ 精神疾患診療体制加算 ・ 精神科急性期医師配置加算 2 ・ 排尿自立支援加算 ・ 地域医療体制確保加算 ・ 地域歯科診療支援病院入院加算 					

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養サポートチーム加算 ・ 医療安全対策加算 1 ・ 感染防止対策加算 1 ・ 抗菌薬適正使用支援加算 ・ 患者サポート体制充実加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定集中治療室管理料 2、3 ・ ハイケアユニット入院医療管理料 1 ・ 総合周産期特定集中治療室管理料 ・ 小児入院医療管理料 1
特掲診療科		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス疾患指導料 ・ 遠隔モニタリング加算（ベースメーカー指導管理料） ・ 高度難聴指導管理料 ・ 糖尿病合併症管理料 ・ がん性疼痛緩和指導管理料 ・ がん患者指導管理料イ・ロ・ハ・ニ ・ 外来緩和ケア管理料 ・ 移植後患者指導管理料（臓器移植後） ・ 移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後） ・ 糖尿病透析予防指導管理料 ・ 小児運動器疾患指導管理料 ・ 乳腺炎重症化予防ケア・指導料 ・ 婦人科特定疾患治療管理料 ・ 腎代替療法指導管理料 ・ 院内トリアージ実施料 ・ 救急搬送看護体制加算 1 ・ 外来放射線照射診療料 ・ ニコチン依存症管理料 ・ 療養・就労両立支援指導料 ・ がん治療連携計画策定料 ・ 外来排尿自立指導料 ・ ハイリスク妊産婦連携指導料 1 ・ 肝炎インターフェロン治療計画料 ・ 薬剤管理指導料 ・ 医療機器安全管理料 1 ・ 医療機器安全管理料 2 ・ 光トポグラフィー ・ 脳波検査判断料 1 ・ 神経学的検査 ・ 補聴器適合検査 ・ 黄斑局所網膜電図及び全視野精密網膜電図 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 19 に規定する手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。） ・ 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 19 に規定する手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術） ・ 輸血管理料 I ・ コーディネート体制充実加算 ・ 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 ・ 連携充実加算 ・ 歯周組織再生誘導手術 ・ 広範囲顎骨支持型装置埋入手術 ・ 歯根端切除手術の注 3 ・ 麻酔管理料（I） ・ 麻酔管理料（II） ・ 放射線治療専任加算 ・ 医療機器安全管理料（歯科） ・ 精神科退院時共同指導料 1 ・ 精神科退院時共同指導料 2 ・ 歯科治療総合医療管理料 ・ 持続血糖測定器加算 ・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 ・ 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合） ・ 遺伝学的検査 ・ 骨髄微小残存病変測定 ・ BRCA1/2 遺伝子検査 ・ がんゲノムプロファイリング検査 ・ 抗 HLA 抗体（スクリーニング検査）及び抗 HLA 抗体（抗体特異性同定検査） ・ HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジ



	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンタクトレンズ検査料 1 ・ 小児食物アレルギー負荷検査 ・ 内服・点滴誘発試験 ・ センチネルリンパ節生検（片側） ・ 有床義歯咀嚼機能検査 1 のロ及び咀嚼能力検査 ・ 有床義歯咀嚼機能検査 2 のロ及び咬合圧検査 ・ 精密触覚機能検査 ・ 画像診断管理加算 1 ・ 画像診断管理加算 2 ・ 遠隔画像診断 ・ ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影 ・ CT 撮影及び MRI 撮影 ・ 冠動脈 CT 撮影加算 ・ 血流予備量比コンピューター断層撮影 ・ 心臓 MRI 撮影加算 ・ 乳房MRI 撮影加算 ・ 全身 MRI 撮影加算 ・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 ・ 外来化学療法加算 1 ・ 無菌製剤処理料 ・ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） ・ 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） ・ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） ・ がん患者リハビリテーション料 ・ 羊膜移植術 ・ 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）） ・ 緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術） ・ 網膜再建術 ・ 人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交 	<ul style="list-style-type: none"> エノタイプ判定) ・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 ・ 検体検査管理加算（Ⅰ） ・ 検体検査管理加算（Ⅳ） ・ 国際標準検査管理加算 ・ 遺伝カウンセリング加算 ・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算 ・ 心臓カテーテル法による諸検査の血液内視鏡検査加算 ・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト ・ 胎児心エコー法 ・ ヘッドアップティルト試験 ・ 皮下連続式グルコース測定 ・ 長期継続頭蓋内脳波検査 ・ 単線維筋電図 ・ リンパ浮腫複合的治療料 ・ 歯科口腔リハビリテーション料 2 ・ 経頭蓋磁気刺激療法 ・ 通院・在宅精神療法（療養生活環境整備指導加算） ・ 救急患者精神科継続支援料 ・ 認知療法・認知行動療法 1、2 ・ 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る） ・ 医療保護入院等診療料 ・ 処置の休日加算 1、時間外加算 1 及び深夜加算 1 ・ 人工腎臓（慢性維持透析を行った場合 1） ・ 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 ・ 導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算 ・ 下肢末梢動脈疾患指導管理加算 ・ 手術用顕微鏡加算 ・ CAD/CAM 冠 ・ 歯科技工加算 ・ 皮膚悪性腫瘍切除術（悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
--	--	---

	<p>換術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術） ・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。） ・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術 ・ 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。） ・ 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。） ・ 乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。） ・ 乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）） ・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除術） ・ 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・ 内視鏡下筋層切開術 ・ 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） ・ 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） ・ 胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皮膚移植術（死体） ・ 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。） ・ 処理骨再建加算 ・ 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。） ・ 椎間板内酵素注入療法 ・ 腫瘍脊椎骨全摘術 ・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算 ・ 原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算 ・ 頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る。） ・ 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 ・ 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 ・ 治療的角膜切除術（エキシマレーザーによるもの（角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。）） ・ 角膜移植術（内皮移植加算） ・ 両室ペースング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペースング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合） ・ 腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・ 静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの） ・ 大動脈バルーンポンピング法（IABP法） ・ 補助人工心臓 ・ 腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈） ・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの） ・ 腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・ 腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器
--	---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 経カテーテル大動脈弁置換術 ・ 経皮的僧帽弁クリップ術 ・ 不整脈手術（左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）に限る。） ・ 経皮的中隔心筋焼灼術 ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー） ・ 両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室 ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合） ・ 植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極除去術 ・ 同種死体腎移植術 ・ 生体腎移植術 ・ 膀胱水圧拡張術 ・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 ・ 人工尿道括約筋植込・置換術 ・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 ・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） ・ 腹腔鏡下仙骨脛固定術 ・ 腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。） ・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。） ・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術 ・ 胎児輸血術 ・ 手術の休日加算 1、時間外加算 1 及び深夜加算 1 	<ul style="list-style-type: none"> を用いる場合) ・ バルーン閉塞下経静脈的塞栓術 ・ 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。） ・ 体外衝撃波胆石破碎術 ・ 腹腔鏡下肝切除術 ・ 生体部分肝移植術 ・ 同種死体肝移植術 ・ 体外衝撃波膵石破碎術 ・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 ・ 腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術 ・ 生体部分小腸移植術 ・ 同種死体小腸移植術 ・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 ・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） ・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 ・ 腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの） ・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） ・ 外来放射線治療加算 ・ 高エネルギー放射線治療 ・ 1 回線量増加加算 ・ 強度変調放射線治療（IMRT） ・ 画像誘導放射線治療（IGRT） ・ 体外照射呼吸性移動対策加算 ・ 定位放射線治療 ・ 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 ・ 画像誘導密封小線源治療加算 ・ 病理診断管理加算 2 ・ 悪性腫瘍病理組織標本加算 ・ 口腔病理診断管理加算 2 ・ クラウン・ブリッジ維持管理料 ・ 精神科ショート・ケア「小規模なもの」 ・ 在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
---	--

先進医療	先進医療 A	診療科
	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査／悪性脳腫瘍	脳神経外科
	先進医療 B	診療科
	バクリタキセル静脈内投与（一週間に一回投与するものに限る。）及びカルボプラチン腹腔内投与（三週間に一回投与するものに限る。）の併用療法／上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん ※新規患者受入は終了	産婦人科
	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検／早期胃がん ※新規患者受入は終了	一般・消化器外科
	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法／全身性エリテマトーデス（初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。）	リウマチ・膠原病 内科
	水素ガス吸入療法／心停止後症候群（院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。）	救急科
	テモゾロミド用量強化療法／膠芽腫（初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。）	脳神経外科
	反復経頭蓋磁気刺激療法／薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	精神・神経科
患者申出療養	イマチニブ経口投与及びペムブロリズマブ静脈内投与の併用療法／進行期悪性黒色腫（KIT 遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。）	皮膚科
	抗腫瘍自己リンパ球移入療法／子宮頸癌（切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。）	産婦人科
	名称	診療科
	リツキシマブ静脈内投与療法/難治性天疱瘡	皮膚科
トラスツズマブ エムタンシン静脈内投与療法/乳房外パジェット病（HER2 が陽性であって、切除が困難な進行性のものであり、かつ、トラスツズマブ静脈内投与が行われたものに限る。）	皮膚科	
マルチプレックス遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく分指標的治療（※通称 受け皿試験）/根治切除が不可能な進行固形がん（遺伝子プロファイリングにより、治療対象となる遺伝子異常が確認されたものに限る。）	腫瘍センター他	

■ 沿革 ～慶應義塾大学医学部・病院のあゆみ～

1835 年	福澤諭吉、大阪中津藩蔵屋敷で誕生	
		福澤諭吉
1855 年	福澤諭吉、緒方洪庵の適塾に入門	
1858 年	慶應義塾開塾 江戸築地鉄砲洲に蘭学塾を開く	
1860 年	福澤諭吉、はじめての外遊 咸臨丸で渡米	
1862 年	福澤諭吉、遣欧使節として欧州各国を巡歴	
1868 年	慶應義塾と命名	
1871 年	慶應義塾、三田に移転	
1873 年	三田山上に「慶應義塾医学所」設立（～1880 年）	
1890 年	大学部を発足し、文学・理財・法律 3 科を設置	
1892 年	北里柴三郎博士を所長とする伝染病研究所設立	
		北里柴三郎博士
1893 年	北里柴三郎博士、土筆ヶ岡養生園設立	
1901 年	2 月 3 日、福澤諭吉逝去	
1917 年	慶應義塾大学部医学科開設 4 月、医学科予科の授業を三田山上で開始 11 月、四谷区信濃町の陸軍用地を購入	
1918 年	医学科附属看護婦養成所開設（～2000 年）	
1920 年	4 月、文学・経済学・法学・医学の 4 学部からなる総合大学へ 11 月 6 日、医学部開校ならびに大学病院開院式 11 月 8 日、慶應医学会第一回総会開催 翌大正 10（1921）年『慶應医学』創刊	

	  
	<p>大学病院開院式</p> <p>開院当時の病院全景</p> <p>開院当時の病院玄関内部</p>
1922年	医学部附属産婆養成所開設
1923年	関東大震災（火災にあった病院の救済・診療を支援。32万4千人以上の患者を診療）
1924年	大学病院特別病棟竣工
1926年	食養研究所設立（～1990年）
1928年	多磨墓地に医学研究に献体されたご遺体を葬り冥福を祈るための納骨堂建設 第一回の解剖諸霊供養法会を芝増上寺で開催
1929年	ロックフェラー財団寄付により、予防医学校舎竣工
1932年	新赤倉温泉の地に三四会、赤倉山荘建設 （昭和35（1960）年焼失、平成6（1994）年再建） 病院別館竣工 （鉄筋コンクリート地下1階地上4階建、219病床）
1934年	福澤諭吉生誕100年ならびに日吉開校記念祝賀会開催
1936年	日吉第二校舎竣工、日吉キャンパスで医学部教育開始
1937年	北里記念医学図書館竣工 特殊薬化学研究所設立
1941年	月ヶ瀬温泉治療学研究所開設 昭和33（1958）年狩野川台風により流失、同年廃止
1944年	軍医不足という社会的要請を受け大学附属医学専門部 を開設し、463名の人材を輩出（～1951年）
1945年	5月24日、空襲により医学部・病院施設の約6割焼失 8月15日、終戦
1946年	基礎医学教室、武蔵野分校へ移転（～1956年春）
1948年	病院本館竣工（戦後最大の木造建築2階建、153病床）
	 
	<p>病院本館玄関</p> <p>病院本館受付</p>
1950年	エール大学ロング教授らを招聘し、CPC（臨床・病理症例検討会）開始 電子顕微鏡研究室開室

	医学部附属厚生女子学院開設
1952年	新制大学医学部発足 “The Keio Journal of Medicine”創刊 北里柴三郎博士生誕100年 三四会より第一回北里賞授与
1955年	進学課程2年、専門課程4年の戦後の医学教育体系確立
1956年	大学院医学研究科（博士課程）設置
1958年	慶應義塾創立100年記念式典
1961年	米国チャイナ・メディカル・ボードの寄付を受け、基礎 医学第二校舎竣工
1963年	病院中央棟竣工
1965年	病院1号棟竣工 「財団法人慶應がんセンター」発足（～2002年）
1967年	医学部創立50周年記念式  医学部創立50周年記念式
1969年	「医学部改革委員会」設置、臨床講堂竣工
1970年	「財団法人慶應健康相談センター」発足（～2008年）
1972年	北里記念医学図書館（1971年より医学情報センター）の情報サービス部門を独立、「財団法人国際医学情報センター」発足
1973年	病院ボランティア導入（日本病院ボランティア協会に入会）
1974年	三重県伊勢市の病院の寄付を受け、慶應義塾大学伊勢慶應病院を開院（～2003年）
1977年	月が瀬リハビリテーション・センター開設（～2011年）
1979年	医学部共同利用R.I（ラジオアイソトープ）研究棟竣工
1983年	慶應義塾創立125年記念式典
1984年	米国医科大学での学生臨床研修開始
1986年	大学病院新棟（現2号館）竣工  大学病院新棟開院当時の病院全景  大学病院正面玄関

1988年	看護短期大学開設（～2000年）
1990年	第一回自主学習成果発表会
1994年	特定機能病院として認定 大学院医学研究科（修士課程）設置
1996年	医学部新教育研究棟竣工 坂口光洋記念慶應義塾医学振興基金による第一回慶應医学賞授賞式および記念講演会開催
2001年	看護医療学部開設 総合医科学研究棟竣工・リサーチパーク発足
2007年	クリニカルリサーチセンター発足 「信濃町キャンパス改革・刷新プロジェクト」設置（～2008年3月）
2008年	共立薬科大学との合併により、薬学部開設 慶應義塾創立150年記念式典 臨床研究棟竣工
2010年	3号館（北棟）竣工
2011年	東日本大震災、慶應義塾救援医療団派遣 医療系三学部（医看薬）による合同教育開始
2012年	総合医療情報システム（電子カルテ）導入 3号館（南棟）竣工・予防医療センター開設
	
	3号館（南棟）
2015年	1号館（I期棟）竣工
2016年	臨床研究中核病院として認定
2017年	医学部開設100年 JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター（通称JKiC）開所
2018年	1号館（II期棟）竣工・1号館開院 慶應看護100年
2020年	大学病院開院100年

(2021年10月1日現在)

■ 組織の構成

病院執行部

病院長（管理者）	松本守雄
副病院長	大家基嗣 佐々木淳一 志水秀行 陣崎雅弘 長谷川奉延 福永興壹
病院長補佐	朝倉啓介 金子祐子 藤澤大介
病院事務局長	松田美紀子
看護部長	加藤恵里子

診療科部門

呼吸器内科	診療科部長(教授)	福永興壹	産科	診療科部長(教授)	田中守
循環器内科	診療科部長(教授)	福田恵一	婦人科	診療科部長(教授)	青木大輔
消化器内科	診療科部長(准教授)	中本伸宏	眼科	診療科部長(教授)	根岸一乃
腎臓・内分泌・代謝内科	診療科部長(教授)	伊藤裕	皮膚科	診療科部長(准教授)	谷川瑛子
神経内科	診療科部長(教授)	中原仁	泌尿器科	診療科部長(教授)	大家基嗣
血液内科	診療科部長(教授)	片岡圭亮	耳鼻咽喉科	診療科部長(教授)	小澤宏之
リウマチ・膠原病内科	診療科部長(教授)	金子祐子	精神・神経科	診療科部長(教授)	三村将
一般・消化器外科	診療科部長(准教授)	尾原秀明	放射線治療科	診療科部長(教授)	茂松直之
呼吸器外科	診療科部長(教授)	浅村尚生	放射線診断科	診療科部長(教授)	陣崎雅弘
心臓血管外科	診療科部長(教授)	志水秀行	麻酔科	診療科部長(教授)	森崎浩
脳神経外科	診療科部長(教授)	戸田正博	救急科	診療科部長(教授)	佐々木淳一
小児外科	診療科部長(教授)	黒田達夫	歯科・口腔外科	診療科部長(教授)	中川種昭
整形外科	診療科部長(教授)	中村雅也	総合診療科	診療科部長(准教授)	藤島清太郎
リハビリテーション科	診療科部長(教授)	辻哲也	臨床検査科	診療科部長(教授)	村田満
形成外科	診療科部長(教授)	貴志和生	病理診断科	診療科部長(准教授)	大喜多肇
小児科	診療科部長(教授)	高橋孝雄			

診療施設部門

予防医療センター	センター長(教授)	高石官均	臨床遺伝学センター	センター長(教授)	小崎健次郎
血液浄化・透析センター	センター長(教授)	大家基嗣	免疫統括医療センター	センター長(教授)	金子祐子
内視鏡センター	センター長(教授)	緒方晴彦	緩和ケアセンター	センター長(専任講師)	竹内麻理
腫瘍センター	センター長代行(教授)	大家基嗣	手術・血管造影センター	センター長(教授)	志水秀行
輸血・細胞療法センター	センター長(教授)	田野崎隆二	集中治療センター	センター長(教授)	森崎浩

スポーツ医学総合センター	センター長(教授)	佐藤和毅	救急センター	センター長(教授)	佐々木 淳一
漢方医学センター	センター長(教授)	三村 將			

診療支援部門

看護部	部長	加藤 恵里子	医用工学室	室長(教授)	大家 基嗣
薬剤部	部長(教授)	大谷 壽一	放射線技術室	室長	田原 祥子
滅菌管理部	部長(准教授)	尾原 秀明	臨床検査技術室	室長	横田 浩充
食養管理室	室長代理	大木 いづみ			

臨床研究・教育部門

臨床研究推進センター	センター長(教授)	長谷川 奉延	卒後臨床研修センター	センター長(教授)	平形 道人
臨床研究監理センター	センター長(教授)	福永 興 壱			

管理部門

病院情報システム部	部長(教授)	陣崎 雅弘	医療連携推進部	部長(教授)	大家 基嗣
医療安全管理部	部長(教授)	志水 秀行	放射線安全管理室	室長(教授)	茂松 直之
感染制御部	部長(教授)	長谷川 直樹	医療保険指導部	部長(准教授)	石井 誠
患者総合相談部	部長(教授)	福永 興 壱			

病院事務局

事務局長	松田 美紀子
------	--------

■ 教職員数

(各年度 3月1日時点)

内訳	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
臨床系医師(うち研修医)	848(70)	861(67)	863(74)	899(81)	905(88)
歯科医師(うち研修医)	46(15)	43(14)	42(15)	47(16)	39(15)
看護師	988	1,015	1,011	994	1,015
薬剤師	97	97	103	103	96
臨床検査技師	144	141	147	147	146
診療放射線技師	72	79	81	82	83
管理栄養士	14	10	13	12	13
栄養士	6	7	—	—	—
視能訓練士	15	16	17	15	14
臨床工学技士	26	26	28	27	29
理学療法士	13	13	13	13	13
作業療法士	4	4	4	4	4
言語聴覚士	5	5	6	6	5
その他技師	51	52	50	57	64
事務職員	242	240	236	235	224
技能員	109	105	82	82	84
教職員合計	2,680	2,714	2,696	2,723	2,734

■ 財務

(2020年度)(単位:千円)

	科目	医学部・大学附属病院	慶應義塾全体
教育活動収支	事業活動収入の部		
	学生生徒等納付金	2,936,375	54,619,358
	手数料	85,450	2,032,752
	寄付金	7,249,737	10,908,878
	経常費等補助金	7,521,375	17,498,294
	付随事業収入	7,879,827	14,550,374
	医療収入	56,983,350	56,983,350
	雑収入	2,317,679	4,503,833
	教育活動収入計	84,973,793	161,096,839
	事業活動支出の部		
	人件費	29,408,627	70,292,371
	教育研究経費	52,005,765	81,196,493
	(内 医療経費)	28,226,540	28,226,540
	管理経費	1,079,970	4,301,003
徴収不能額等	6,709	42,141	
教育活動支出計	82,501,071	155,832,008	
教育活動収支差額	2,472,722	5,264,832	
教育活動外収支	事業活動収入の部		
	受取利息・配当金	337,515	3,342,703
	その他の教育活動外収入	144,323	663,352
	教育活動外収入計	481,838	4,006,055
	事業活動支出の部		
	借入金等利息	0	41,447
その他の教育活動外支出	0	207,007	
教育活動外支出計	0	248,454	
教育活動外収支差額	481,838	3,757,601	
経常収支差額	2,954,560	9,022,432	
特別収支	事業活動収入の部		
	資産売却差額	0	0
	その他の特別収入	496,841	5,608,029
	特別収入計	496,841	5,608,029
	事業活動支出の部		
	資産処分差額	917,100	1,018,060
その他の特別支出	14,294	26,330	
特別支出計	931,394	1,044,391	
特別収支差額	△434,553	4,563,639	
予備費			
基本金組入前当年度収支差額	2,520,007	13,586,071	
基本金組入額合計	△7,931,203	△16,803,902	
当年度収支差額	△5,411,196	△3,217,831	
前年度繰越収支差額	△33,727,049	△157,193,680	
翌年度繰越収支差額	0	0	
(参考)		0	
	事業活動収入計	85,952,472	170,710,924
	事業活動支出計	83,432,465	157,124,853

※千円単位で表示する際に千円未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

II 病院としての取り組み

2020年度の主な取り組みと出来事

■ 病院開院 100 年

2020年に慶應義塾大学病院は100年を迎えました。当院は、北里柴三郎を初代病院長として1920年に開院しました。開院当初は外来のほかに7病棟と隔離病棟を有し、500人を収容できる病院としてスタートしました。開院から100年を経た現在では、946床の病床を有し、1日3,000人を超える外来患者さんを受け入れる病院となりました。北里柴三郎の言葉である「基礎・臨床 一体型医学・医療の実現」を医学部・病院の理念として継承し、大学病院、特定機能病院として、世界を先導できる医療人の育成とともに、高度で先進的な医療を提供する役割と責務を担っています。



当院では、1994年の特定機能病院の認定に続いて、2016年には臨床研究中核病院、2018年にはがんゲノム医療中核拠点病院に認定されました。免疫難病に対する先進的医療、がん集学的治療、移植や各分野における高難度手術、内視鏡手術や血管内治療などの低侵襲治療に加えて、がんゲノム医療にも力を入れて取り組んでいます。同じく2018年には、内閣府のAIホスピタルモデル病院に選定され、さまざまな企業と連携してAI技術を応用した医療の効率化・自動化を目指して、患者さんへのサービス向上に努めています。また、2017年には、公益財団法人日本医療機能評価機構による「病院機能評価（3rdG：Ver.1.1・一般病院2）」の認定を取得し、医療連携関連や医療感染制御体制と情報収集・分析、臨床検査関連、職員の能力開発などが高く評価されました。

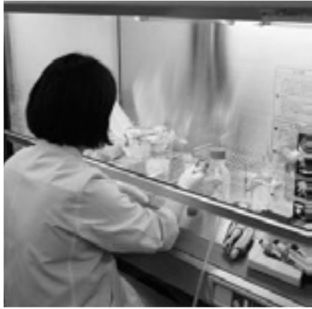
開院100年を迎えた2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、未知のウイルスとの闘いによるさまざまな困難に直面する年となりました。当院では、複数診療科によるCOVID-19救命チームをすぐに立ち上げ、重傷の患者さんの救命、中等症の患者さんの重症化防止に努めました。並行して、大学病院内でPCR検査を迅速に行う体制を整え、検査結果を活用した安全な診療体制の整備を行ってきました。また、患者さんとそのご家族、最前線で働く医療者へのメンタル・ケアを行う、こころのケアチームや、基礎研究者が、疫学調査やウイルス遺伝解析によりCOVID-19研究を多角的に推進する慶應ドンネルプロジェクトが発足しました。100年続く北里柴三郎の精神により、まさに基礎・臨床が一体化したオール慶應体制で、新型コロナウイルス感染症に挑み、どのような状況下でも高度で先進的な医療を安全に提供し続ける責務を再確認して取り組みました。

■ 救命チーム、ドンネルプロジェクト

2020年4月、当院は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に対し、中等症の患者さんの重症化を防ぎ、重症・重篤化した患者さんを一人でも多く救うため、複数診療科によるCOVID-19救命チームを結成し、医療体制を整えました。院内のゾーニングを行い治療する病棟や担当する医療従事者を分けたうえで、新宿区医師会・病院連携モデル、東京都の要請に応じて、患者さんの受け入れ、治療を行っています。

また、基礎研究部門では、COVID-19研究チーム（慶應ドンネルプロジェクト）を結成しました。

これは、初代医学部長・病院長である北里柴三郎の原点を再確認し、感染・免疫・炎症に関する研究を加速し、人材を育成する目的で作られました。“ドンネル”という名前は北里柴三郎の愛称に由来するものです。慶應ドンネルプロジェクトでは、150名を超える構成員によって、ウイルス遺伝子の解析による詳細な疫学調査、病態の解明、新しい血清診断法や抗体療法の開発にむけて研究を進めています。



■ PCR、臨床検査科

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行に対し、当院ではPCR検査を中心とした検査体制を急ピッチで構築しました。全世界的に検査機器、検査試薬が不足する状況にありましたが、2020年2月27日にはリアルタイムPCR法による院内検査の運用を開始しました。また3月25日からは全自動遺伝子検査装置によるPCR検査の運用を開始し、1日100検体を超える検査が可能な体制を整えています。

当院はがんゲノム中核拠点病院として、免疫療法や抗がん剤、高難易度手術などの患者さんにも安心して入院や手術を受けていただく必要があるため、4月6日からは全国の医療機関に先駆けて、術前や入院前の患者さんに対するPCR検査を用いた全例スクリーニングを開始しました。PCR検査の検体採取を行う専用ブースを院内に設置し、全ての診療科、看護部、医事統括室、感染制御部、臨床検査科が部門の垣根を超え一体となって運用しています。

この他にも、医学部基礎部門の協力のもと医学部施設を臨時に衛生検査所として登録し、PCR検査に関する臨床検査科の負担軽減やバックアップ体制を構築しました。また、臨床検査科の中でも複数の部門からなる混成の新型コロナウイルスPCR検査チームを結成し、検査についても微生物検査部門でのPCR検査だけではなく化学免疫検査部門での血清抗体検査の実施など、まさに社中協力の教えを生かし、病院・医学部が一丸となってCOVID-19と戦うための、もっとも重要な鍵である「検査体制」を支えています。さらに、こうした検査体制が構築できた裏には、義塾を想う多くの篤志家の方々のご寄付が活かされています。



チームコロナPCR



PCR検査装置「BDMAX」の操作風景

■ 遠隔診療開始

慶應義塾大学病院では、内閣府 AI ホスピタル事業の研究課題の一つとして、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、遠隔診療を含めた医療 IT サービスを重点的に導入しています。なかでも、データのやり取りが可能な遠隔診療システムは先進的な取り組みです。

まず 2020 年 4 月より、精神・神経科と臨床遺伝学センターの外来診察においてビデオ通話を用いた遠隔診察を開始し、5 月以降は 11 診療科で行っています。

また、6 月より、産科外来では、クラウドサービスとビデオ診療システムを活用した遠隔妊婦検診を導入しました。本サービスでは、在宅での血圧や体重のデータをクラウドにアップロードし、遠隔診察時に活用することが可能です。これにより対面での診療に劣らないクオリティの診察を提供できるようになりました。

8 月からは、産後 2～4 週の産褥期の産後うつスクリーニングを目的として、助産師による面談をビデオ通話にて開始しました。出産後や子育て中のお母さんの産後うつや育児放棄については社会的にも関心が高まっており、今後、これらの社会課題に、より深く取り組んでまいります。また、退院後数週間目の時期は、母子ともに感染症などに対して抵抗力の少ない時期でもあり外出は困難ですが、遠隔助産師面談を受けることで、母子ともに安全に面談を受けることが可能になりました。

さらに 10 月からは、セカンドオピニオン外来においてもビデオ通話システムを用いた遠隔診療を開始しました。セカンドオピニオンのために遠隔地から来院される患者さんは、多大な恩恵を受けることが期待されます。



遠隔助産師面談の様子

■ LINE を使用した待合呼び出しサービスの開始

外来診察前の待ち時間をより有効に過ごしていただけるよう、2020 年 6 月から、コミュニケーションアプリ「LINE」を使用した外来の待合呼び出しサービスを開始しました。

このサービスは、事前に「慶應義塾大学病院」の LINE 公式アカウントを友だちに追加して必要事項を登録することで、自動再来受付機にて来院の受付をすると予約内容をご案内する「本日の診察のお知らせ」の通知が、外来にて到着受付をすると診察が近づいていることをご案内する「診察が近くなっております」の通知が届く、という仕組みです。

外来待合付近が混雑している際などにおいてこのサービスを利用することで、ラウンジなどの混雑していないスペースで待つことができ、感染拡大を防ぐため密集・密接の回避対策としても有効です。10 月時点現在、約 11,000 名の幅広い年齢層の方々が登録しています。

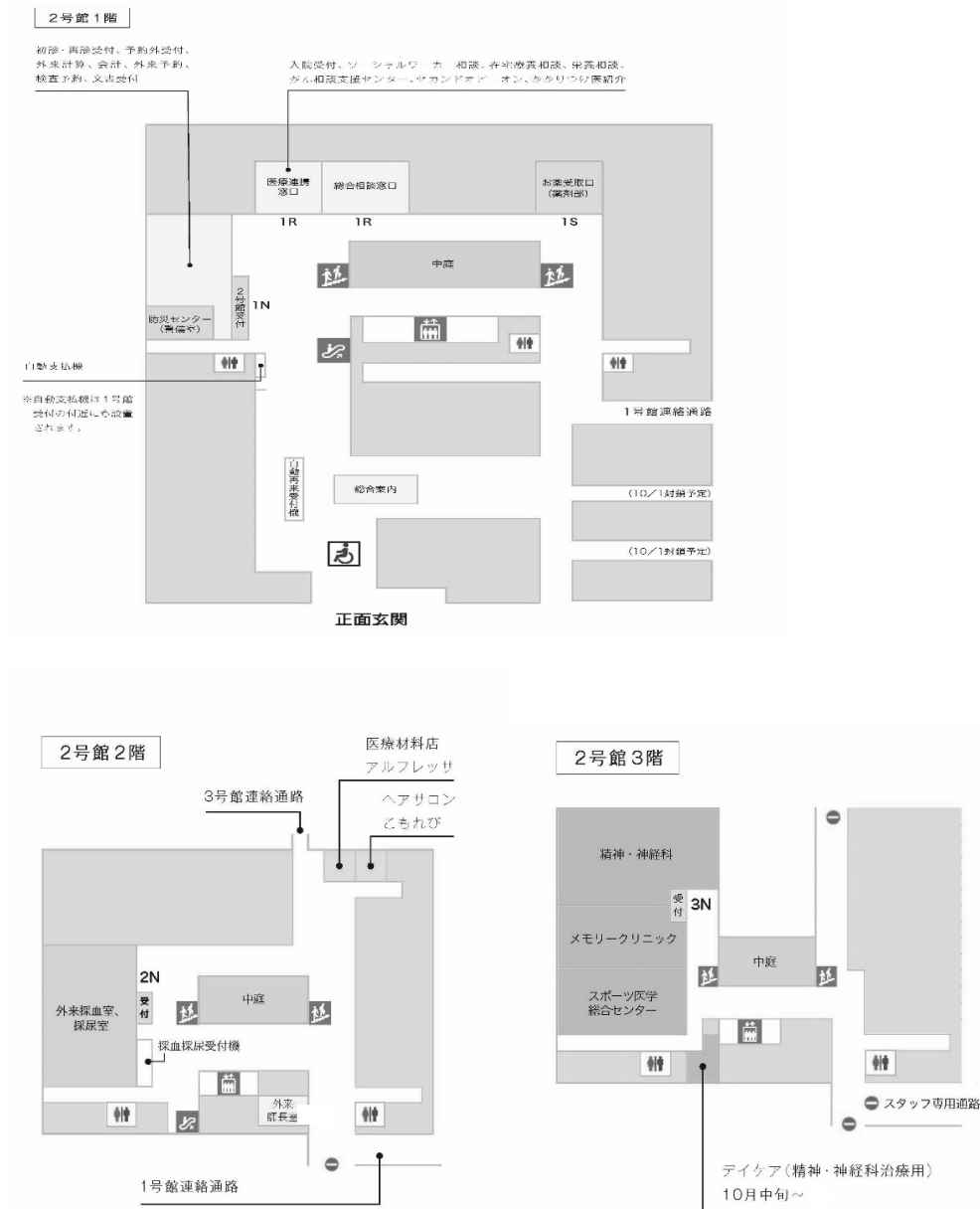
■ 医療連携推進フォーラム Web 開催

医療連携強化に向けた情報交換や交流を行うため、近隣の医師会や、各医療圏に所在する連携契約締結医療機関、産業医、関連医療機関、ならびに看護や介護に係る施設等をお招きし、2018 年 8 月より「医療連携推進フォーラム」を定期的に開催しています。2020 年 7 月 30 日には、第 7 回「医療連携推進フォーラム」を、初の試みとなる Web にて開催しました。

講演会では当院の医師より、流行している新型コロナウイルス感染症についての話を中心に、「新型コロナウイルス感染症に関する社会の動向と感染対策」や、当院で引き続き安心して診療を受けていただくため、安心してご紹介をいただけるための取り組みとして、「病院全体の診療体制」「発熱・肺炎疑い患者の診療体制」を紹介しました。ほかにも、さまざまな形で医療連携を推進するツールとして、「IT・AIを活用した診療体制」「慶應ホットライン」「医療・看護・介護コールセンターを活用した連携体制」についても紹介が行われました。多数の医療機関や、普段は参加が難しい遠方の医療機関にもご参加いただき、講演会内容について、また Web でのフォーラム開催についても、参加者の方々から強い関心が寄せられ、ご満足いただけたとの声も多数いただきました。

■ 受付移転

2020年9月23日(水)、受付や会計などの窓口、お薬受取口、外来の一部やテナントなど、多くの機能が2号館に移転しました。



Ⅲ 統計・実績

■ 外来患者数 (科別)

科目	実日数	2020年												2021年			合計	1日平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
		23	21	24	23	23	22	25	21	23	21	20	25					
呼吸器内科	初	22	13	41	63	54	53	67	86	78	65	43	51	636	2			
	再	1,440	1,604	2,377	2,655	2,317	2,637	2,734	2,318	2,681	2,395	2,264	3,012	28,434	105			
	計	1,462	1,617	2,418	2,718	2,371	2,690	2,801	2,404	2,759	2,460	2,307	3,063	29,070	107			
循環器内科	初	6	11	76	69	72	78	96	95	83	64	75	122	847	3			
	再	2,558	1,957	3,379	3,320	2,815	3,342	3,468	2,850	3,563	2,914	2,848	3,729	36,743	136			
	計	2,564	1,968	3,455	3,389	2,887	3,420	3,564	2,945	3,646	2,978	2,923	3,851	37,590	139			
消化器内科	初	10	26	97	94	83	118	170	128	138	135	131	166	1,296	5			
	再	3,229	3,048	5,179	5,748	5,205	6,033	6,628	5,541	6,368	5,434	5,271	7,077	64,761	239			
	計	3,239	3,074	5,276	5,842	5,288	6,151	6,798	5,669	6,506	5,569	5,402	7,243	66,057	244			
腎臓・内分泌・代謝内科	初	7	6	33	42	38	44	54	46	52	47	39	49	457	2			
	再	4,268	2,597	4,230	4,755	3,960	4,627	5,005	4,021	4,966	4,154	4,014	5,287	51,884	191			
	計	4,275	2,603	4,263	4,797	3,998	4,671	5,059	4,067	5,018	4,201	4,053	5,336	52,341	193			
神経内科	初	7	10	45	42	54	45	56	47	54	29	50	56	495	2			
	再	1,485	1,196	2,089	1,976	1,751	2,130	2,095	1,809	2,304	1,804	1,772	2,291	22,702	84			
	計	1,492	1,206	2,134	2,018	1,805	2,175	2,151	1,856	2,358	1,833	1,822	2,347	23,197	86			
血液内科	初	2	8	10	14	22	25	24	26	18	14	13	25	201	1			
	再	861	917	1,256	1,294	1,134	1,387	1,289	1,251	1,334	1,155	1,149	1,402	14,429	53			
	計	863	925	1,266	1,308	1,156	1,412	1,313	1,277	1,352	1,169	1,162	1,427	14,630	54			
リウマチ・膠原病内科	初	2	17	27	38	32	35	31	36	30	38	28	56	370	1			
	再	2,054	1,691	2,382	2,537	2,239	2,459	2,658	2,202	2,632	2,258	2,193	2,899	28,204	104			
	計	2,056	1,708	2,409	2,575	2,271	2,494	2,689	2,238	2,662	2,296	2,221	2,955	28,574	105			
総合内科	初	0	0	1	14	27	31	23	28	27	17	23	28	219	1			
	再	8	19	32	23	49	44	38	39	39	39	23	33	386	1			
	計	8	19	33	37	76	75	61	67	66	56	46	61	605	2			
総合診療科	初	1	0	5	5	10	17	14	16	7	6	11	17	109	0			
	再	320	254	418	430	359	424	475	349	460	353	323	461	4,626	17			
	計	321	254	423	435	369	441	489	365	467	359	334	478	4,735	17			
一般・消化器外科	初	11	18	41	41	41	66	55	51	52	49	53	80	558	2			
	再	1,263	1,586	2,693	2,633	2,451	2,756	2,821	2,455	2,694	2,204	2,407	2,983	28,946	107			
	計	1,274	1,604	2,734	2,674	2,492	2,822	2,876	2,506	2,746	2,253	2,460	3,063	29,504	109			
呼吸器外科	初	4	19	34	42	37	42	45	44	41	33	26	54	421	2			
	再	211	374	703	616	510	676	656	563	732	555	565	803	6,964	26			
	計	215	393	737	658	547	718	701	607	773	588	591	857	7,385	27			
心臓血管外科	初	4	1	12	7	9	6	11	13	12	9	10	12	106	0			
	再	364	328	642	562	511	624	516	511	602	485	400	644	6,189	23			
	計	368	329	654	569	520	630	527	524	614	494	410	656	6,295	23			
脳神経外科	初	3	8	36	33	29	37	53	48	50	40	38	54	429	2			
	再	340	452	817	859	679	746	811	665	741	630	596	832	8,168	30			
	計	343	460	853	892	708	783	864	713	791	670	634	886	8,597	32			
小児外科	初	2	3	10	13	7	14	14	3	16	13	19	18	132	0			
	再	97	150	187	252	258	237	222	196	248	194	199	258	2,498	9			
	計	99	153	197	265	265	251	236	199	264	207	218	276	2,630	10			
整形外科	初	11	57	237	225	235	286	317	239	270	223	238	324	2,662	10			
	再	1,121	1,726	3,770	4,058	3,441	4,111	4,221	3,747	4,223	3,442	3,542	4,871	42,273	156			
	計	1,132	1,783	4,007	4,283	3,676	4,397	4,538	3,986	4,493	3,665	3,780	5,195	44,935	166			
リハビリテーション科	初	0	2	8	4	8	11	7	2	4	6	8	4	64	0			
	再	33	183	355	444	366	446	482	365	475	408	423	563	4,543	17			
	計	33	185	363	448	374	457	489	367	479	414	431	567	4,607	17			
形成外科	初	3	3	42	63	75	81	83	75	74	52	72	110	733	3			
	再	115	245	586	654	756	716	782	616	888	635	659	978	7,630	28			
	計	118	248	628	717	831	797	865	691	962	687	731	1,088	8,363	31			
小児科	初	58	50	92	83	109	98	119	96	110	87	104	126	1,132	4			
	再	718	903	1,514	1,624	1,910	1,722	1,685	1,371	1,754	1,452	1,441	2,211	18,305	68			
	計	776	953	1,606	1,707	2,019	1,820	1,804	1,467	1,864	1,539	1,545	2,337	19,437	72			
産婦人科	初	21	34	163	204	180	195	231	193	181	188	165	248	2,003	7			
	再	1,583	2,199	4,245	4,625	3,845	4,422	4,441	3,802	4,470	3,769	3,872	5,094	46,367	171			
	計	1,604	2,233	4,408	4,829	4,025	4,617	4,672	3,995	4,651	3,957	4,037	5,342	48,370	178			
眼科	初	12	13	124	186	168	206	214	181	181	160	164	238	1,847	7			
	再	1,085	1,593	3,617	3,819	3,337	3,723	3,903	3,463	4,053	3,385	3,469	4,636	40,083	148			
	計	1,097	1,606	3,741	4,005	3,505	3,929	4,117	3,644	4,234	3,545	3,633	4,874	41,930	155			
皮膚科	初	12	22	102	113	116	120	143	105	87	68	83	108	1,079	4			
	再	1,705	1,917	2,806	3,174	2,989	3,288	3,504	3,106	3,475	3,008	2,910	3,817	35,699	132			
	計	1,717	1,939	2,908	3,287	3,105	3,408	3,647	3,211	3,562	3,076	2,993	3,925	36,778	136			
泌尿器科	初	9	17	45	76	53	63	72	65	94	66	68	97	725	3			
	再	1,542	1,951	3,281	3,044	2,806	3,160	2,930	2,685	3,372	2,685	2,653	3,469	33,578	124			
	計	1,551	1,968	3,326	3,120	2,859	3,223	3,002	2,750	3,466	2,751	2,721	3,566	34,303	127			
耳鼻咽喉科	初	14	26	125	179	168	166	192	163	164	129	136	207	1,669	6			
	再	752	1,009	2,822	2,823	2,457	2,933	2,783	2,443	3,035	2,402	2,527	3,692	29,678	110			
	計	766	1,035	2,947	3,002	2,625	3,099	2,975	2,606	3,199	2,531	2,663	3,899	31,347	116			
精神・神経科	初	5	12	48	57	63	63	79	64	75	45	61	64	636	2			
	再	2,169	1,687	2,392	2,686	2,527	2,739	3,063	2,744	3,043	2,751	2,645	3,258	31,704	117			
	計	2,174	1,699	2,440	2,743	2,590	2,802	3,142	2,808	3,118	2,796	2,706	3,322	32,340	119			
放射線治療科	初	0	0	10	6	2	4	5	5	11	6	4	9	62	0			
	再	1,048	699	1,211	1,503	1,143	1,114	1,141	1,158	1,489	982	1,122	1,297	13,907	51			
	計	1,048	699	1,221	1,509	1,145	1,118	1,146	1,163	1,500	988	1,126	1,306	13,969	52			
放射線診断科	初	15	29	43	61	49	53	44	42	45	53	54	67	555	2			
	再	11	12	26	35	27	47	45	31	36	31	23	47	371	1			
	計	26	41	69	96	76	100	89	73	81	84	77	114	926	3			
麻酔科	初	1	3	12	13	8	5	21	5	12	5	10	13	108	0			
	再	508	562	985	1,190	1,013	1,064	1,234	1,079	1,181	1,083	1,080	1,307	12,286	45			
	計	509	565	997	1,203	1,021	1,069	1,255	1,084	1,193	1,088	1,090	1,320	12,394	46			

Ⅲ 統計・実績

科目	初 再 計	実日数												合計	1日平均		
		2020年														2021年	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
		23	21	24	23	23	22	25	21	23	21	20	25	271			
救急科	初 再 計	3 17 20	4 34 38	8 96 104	71 100 171	183 103 286	184 118 302	186 125 311	201 112 313	213 123 336	164 96 260	200 94 294	215 152 367	1,632 1,170 2,802	6 4 10		
歯科・口腔外科	初 再 計	68 511 579	82 976 1,058	275 2,772 3,047	331 2,931 3,262	339 2,406 2,745	397 2,939 3,336	458 3,233 3,691	377 2,794 3,171	389 3,148 3,537	295 2,617 2,912	379 2,741 3,120	468 3,373 3,841	3,858 30,441 34,299	14 112 127		
血液浄化・透析センター	初 再 計	0 135 135	0 113 113	0 116 116	0 117 117	0 123 123	0 120 120	0 135 135	0 128 128	0 134 134	0 134 134	0 116 116	0 118 118	0 1,489 1,489	0 5 5		
スポーツ医学総合センター	初 再 計	1 143 144	7 188 195	22 451 473	32 475 507	35 382 417	32 499 531	38 500 538	29 416 445	32 536 568	24 374 398	23 371 394	28 518 546	303 4,853 5,156	1 18 19		
漢方医学センター	初 再 計	0 544 544	3 430 433	15 518 533	18 594 612	10 527 537	9 546 555	11 630 641	18 518 536	25 604 629	6 556 562	4 463 467	11 651 662	130 6,581 6,711	0 24 25		
感染症外来	初 再 計	3 117 120	9 227 236	9 606 615	15 693 708	15 552 567	9 684 693	14 734 748	15 641 656	14 729 743	18 692 710	11 669 680	20 798 818	152 7,142 7,294	6 26 27		
輸血・細胞療法センター	初 再 計	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 2 2	0 0 0	0 2 2	0 0 0		
内視鏡センター	初 再 計	1 7 8	0 7 7	1 7 8	11 18 29	13 11 24	18 12 30	25 14 39	21 13 34	30 23 53	27 12 39	23 12 35	25 20 45	195 156 351	1 1 1		
免疫統括医療センター	初 再 計	0 66 66	0 94 94	0 108 108	0 145 145	0 132 132	0 138 138	0 153 153	0 136 136	0 139 139	0 143 144	1 135 135	0 142 143	1 1,531 1,533	0 6 6		
腫瘍センター	初 再 計	3 628 631	17 707 724	47 1,262 1,309	55 1,571 1,626	60 1,444 1,504	82 1,509 1,591	82 1,563 1,645	67 1,408 1,475	66 1,550 1,616	70 1,342 1,412	58 1,420 1,478	101 1,821 1,922	708 16,225 16,933	3 60 62		
メモリー外来	初 再 計	0 164 164	1 134 135	9 248 257	9 316 325	6 254 260	6 298 304	20 307 327	15 244 259	11 319 330	13 258 271	5 263 268	12 332 344	107 3,137 3,244	0 12 12		
緩和ケアセンター	初 再 計	0 57 57	0 61 61	0 66 66	0 65 65	0 53 53	1 66 67	1 62 63	0 53 53	0 80 80	0 58 58	0 69 69	0 74 74	2 764 766	0 3 3		
臨床遺伝学センター	初 再 計	3 27 30	2 31 33	4 41 45	6 55 61	3 51 54	6 46 52	6 59 65	5 46 51	7 66 73	8 46 54	8 66 74	5 66 71	63 600 663	0 2 2		
予防医療センター	初 再 計	0 3 3	0 1 1	1 22 23	1 32 33	0 19 19	1 15 16	0 25 25	0 17 17	0 20 20	0 26 26	2 32 34	0 24 24	5 236 241	0 1 1		
保健管理センター	初 再 計	18 97 115	22 68 90	51 131 182	80 157 237	46 161 207	106 211 317	184 315 499	127 233 360	83 283 366	134 298 432	77 228 305	68 223 291	996 2,405 3,401	4 9 13		
その他	初 再 計	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0		
合計	初 再 計	342 33,404 33,746	555 33,930 34,485	1,961 60,438 62,399	2,416 64,608 67,024	2,459 57,073 59,532	2,813 64,808 67,621	3,265 67,485 70,750	2,777 58,139 60,916	2,836 68,612 71,448	2,407 57,259 59,666	2,516 57,071 59,587	3,357 75,263 78,620	27,704 698,090 725,794	102 2,576 2,678		
1日平均	初 再 計	15 1,452 1,467	26 1,616 1,642	82 2,518 2,600	105 2,809 2,914	107 2,481 2,588	128 2,946 3,074	131 2,699 2,830	132 2,769 2,901	123 2,983 3,106	115 2,727 2,841	126 2,854 2,979	134 3,011 3,145	102 2,576 2,678			

■ 救急外来患者数（科別）

	自力受診					救急車搬入					合計				
	受診数	初診	受け科 入院数	実入院科 患者数	転送	受診数	初診	受け科 入院数	実入院科 患者数	転送	受診数	初診	受け科 入院数	実入院科 患者数	転送
呼吸器内科	280	143	249	329	0	28	4	25	90	0	308	147	274	419	0
循環器内科	62	3	25	49	1	28	1	20	68	0	90	4	45	117	1
消化器内科	81	1	51	138	3	45	0	39	122	0	126	1	90	260	3
腎臓・内分泌・代謝内科	32	1	9	21	1	8	0	8	46	0	40	1	17	67	1
神経内科	36	3	26	58	0	16	0	13	79	0	52	3	39	137	0
血液内科	47	0	5	15	0	1	0	1	4	0	48	0	6	19	0
リウマチ・膠原病内科	11	1	9	16	0	5	0	5	17	0	16	1	14	33	0
総合内科	828	137	244	0	8	132	3	98	0	6	960	140	342	0	14
総合診療科	26	3	3	0	0	1	0	1	0	0	27	3	4	0	0
一般・消化器外科	187	3	79	100	0	39	0	36	66	1	226	3	115	166	1
呼吸器外科	82	15	24	23	0	10	5	7	10	0	92	20	31	33	0
心臓血管外科	31	0	5	6	0	7	0	7	8	0	38	0	12	14	0
脳神経外科	132	65	9	8	0	12	2	8	25	0	144	67	17	33	0
小児外科	40	1	10	14	0	4	0	3	3	0	44	1	13	17	0
整形外科	152	41	11	14	1	16	2	12	18	0	168	43	23	32	1
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	167	116	1	0	0	2	1	0	0	0	169	117	1	0	0
小児科	219	53	33	28	3	27	8	10	15	0	246	61	43	43	3
産婦人科	306	8	130	135	1	29	3	17	34	0	335	11	147	169	1
眼科	150	43	6	5	0	11	8	0	2	0	161	51	6	7	0
皮膚科	94	28	4	7	0	10	1	7	13	0	104	29	11	20	0
泌尿器科	182	25	47	46	1	17	1	11	29	0	199	26	58	75	1
耳鼻咽喉科	222	69	20	23	0	17	8	7	22	1	239	77	27	45	1
精神・神経科	15	2	4	6	1	2	0	1	4	0	17	2	5	10	1
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線診断科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	859	75	68	26	5	2,428	1,325	410	61	83	3,287	1,400	478	87	88
歯科・口腔外科	279	150	10	10	0	18	13	1	11	0	297	163	11	21	0
血液浄化・透析センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
スポーツ医学総合センター	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0
漢方医学センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染症外来	5	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5	0	3	0	0
免疫統括医療センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腫瘍センター	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
メモリー外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	4,529	986	1,087	1,079	25	2,913	1,385	747	747	91	7,442	2,371	1,834	1,826	116

■ 入院患者延数（科別）

	2020年												合計	1日 平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
呼吸器内科	1,873	1,261	1,198	1,633	1,629	1,395	1,506	1,791	2,024	1,875	1,666	1,571	19,422	53
循環器内科	385	482	910	1,281	1,191	1,331	1,381	1,174	1,398	1,227	1,134	1,283	13,177	36
消化器内科	827	1,101	1,573	1,578	1,659	1,756	2,137	1,770	1,690	1,684	1,640	2,148	19,563	54
腎臓・内分泌・代謝内科	161	229	545	553	579	531	627	624	495	512	507	579	5,942	16
神経内科	389	415	602	794	786	793	880	705	817	859	675	768	8,483	23
血液内科	1,090	1,094	1,005	1,067	1,097	1,237	1,232	1,282	1,171	1,227	1,082	1,229	13,813	38
リウマチ・膠原病内科	499	453	624	645	612	695	735	594	688	605	474	680	7,304	20
一般・消化器外科	1,893	1,654	2,365	2,691	2,737	2,842	2,817	2,902	3,005	2,821	2,497	2,957	31,181	85
呼吸器外科	286	179	412	368	524	450	683	559	647	508	470	512	5,598	15
心臓血管外科	363	326	664	705	732	663	796	834	808	709	582	689	7,871	22
脳神経外科	367	291	559	587	608	622	753	643	720	699	671	792	7,312	20
小児外科	82	152	229	249	300	263	254	166	203	219	239	294	2,650	7
整形外科	799	649	1,871	2,372	2,467	2,347	2,623	2,571	2,876	2,370	2,868	3,154	26,967	74
リハビリテーション科	61	0	45	95	99	117	109	107	90	79	88	96	986	3
形成外科	66	75	165	324	271	272	324	235	364	276	228	375	2,975	8
小児科	1,314	947	1,079	1,200	1,155	1,203	1,190	1,024	1,082	1,101	1,109	1,218	13,622	37
産婦人科	1,301	932	1,333	1,664	1,907	1,703	1,816	1,681	1,632	1,628	1,535	1,678	18,810	52
眼科	18	31	118	454	456	578	530	540	610	547	569	491	4,942	14
皮膚科	286	307	377	348	387	462	409	487	456	441	377	397	4,734	13
泌尿器科	411	615	933	1,126	1,215	1,137	1,192	983	1,019	936	956	1,179	11,702	32
耳鼻咽喉科	468	343	528	597	749	764	801	863	815	822	693	515	7,958	22
精神・神経科	249	361	374	593	548	501	502	470	378	308	370	438	5,092	14
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線診断科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0	9	0	10	0	0	2	4	25	0
救急科	221	131	54	109	178	186	224	223	218	201	129	162	2,036	6
歯科・口腔外科	62	53	117	162	168	208	200	116	155	214	159	173	1,787	5
スポーツ医学総合センター	0	4	31	26	31	27	47	35	28	33	25	29	316	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	13,471	12,085	17,711	21,221	22,085	22,092	23,768	22,389	23,389	21,901	20,745	23,411	244,268	669

■ 入院患者延数（病棟別）・病床稼働率

	2020年						9月(※)	2021年						合計
	4月	5月	6月	7月	8月	10月		11月	12月	1月	2月	3月		
2号棟 3階	266	218	149	329	319	112							1,393	
2号棟 4階	183	0	643	964	1,055	764							3,609	
3号館南棟 5階	472	2	0	543	657	695	826	762	734	769	647	637	6,744	
3号館南棟 6階	421	450	587	622	597	630	698	649	596	552	520	514	6,836	
1号館 10A	70	0	845	1,038	1,051	1,128	1,116	1,027	1,097	1,021	934	1,100	10,427	
1号館 10B	828	834	950	1,000	1,018	1,025	1,115	1,038	1,056	964	935	1,176	11,939	
1号館 10C	812	749	743	816	840	861	883	856	862	900	778	908	10,008	
1号館 10D	305	259	327	331	378	430	444	390	426	389	435	390	4,504	
1号館 9A	900	915	902	1,068	1,107	1,096	1,183	1,136	1,149	1,090	1,024	1,189	12,759	
1号館 9B	860	847	911	1,074	1,095	1,117	1,174	1,084	1,168	1,137	1,016	1,165	12,648	
1号館 9C	761	696	854	1,050	1,127	932	1,083	1,062	1,119	1,032	942	1,147	11,805	
1号館 9D	321	269	835	1,001	1,002	992	1,133	1,133	1,141	1,065	983	1,119	10,994	
1号館 8A	626	632	722	785	784	877	927	903	935	816	781	880	9,668	
1号館 8B	679	697	709	823	910	961	1,051	970	998	904	872	1,004	10,578	
1号館 8C	667	734	869	995	952	1,013	1,086	1,030	1,077	994	893	1,067	11,377	
1号館 8D	138	136	940	1,010	1,034	1,055	1,174	1,123	1,143	1,062	977	1,101	10,893	
1号館 7A	402	283	1,033	1,062	1,114	1,177	1,241	1,183	1,199	1,016	1,041	1,191	11,942	
1号館 7B	749	650	971	1,080	1,027	1,136	1,214	1,114	1,158	1,112	1,017	1,147	12,375	
1号館 7C	682	663	829	1,001	1,011	1,064	999	901	1,091	990	947	1,072	11,250	
1号館 7D	788	759	866	1,020	1,126	1,124	1,219	1,147	1,200	1,140	1,056	1,065	12,510	
1号館 6A-1	578	691	690	784	978	714	803	678	928	808	763	974	9,389	
1号館 6A-2	96	0	150	298	319	337	353	255	346	261	309	414	3,138	
1号館 6A-3	100	91	78	80	94	102	99	82	93	78	77	92	1,066	
1号館 6C	508	353	454	501	652	516	495	500	502	544	544	544	6,113	
1号館 6C MFICU	69	57	90	101	109	69	78	91	85	99	112	106	1,066	
1号館 6D GCU	474	287	289	334	275	284	333	249	225	290	358	426	3,824	
1号館 6D NICU	221	116	237	242	186	239	231	240	214	212	216	236	2,590	
1号館 4B	264	358	387	471	424	441	478	443	372	318	370	410	4,736	
1号館 4D ICU	115	161	228	262	299	288	329	315	340	322	291	345	3,295	
1号館 4C HCU	114	176	421	525	539	513	627	536	556	484	507	606	5,604	
中央棟 5C	2	2	2	11	6	6							29	
2号館 5S						315	1,230	1,185	1,230	1,110	1,070	1,222	7,362	
2号館 5N						73	140	305	340	417	327	154	1,756	
2号館 6N						6	6	2	9	5	3	10	41	
合計	13,471	12,085	17,711	21,221	22,085	22,092	23,768	22,389	23,389	21,901	20,745	23,411	244,268	
病床稼働率	46.8%	40.6%	61.5%	71.3%	74.2%	77.1%	81.0%	78.9%	79.8%	74.7%	78.3%	79.8%	平均70.3%	

※2号館改修後、病棟移転実施（9月21日付許可病床数変更：960床→946床）。

■ 新入院患者数・退院患者数・死亡患者数・在院患者延数・平均在院日数

	2020年						10月	11月	12月	2021年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月				1月	2月	3月	
新入院患者数	573	771	1,449	1,745	1,892	1,776	1,903	1,777	1,866	1,819	1,701	1,971	19,243
退院患者数	814	694	1,252	1,705	1,858	1,784	1,903	1,796	2,054	1,648	1,709	1,936	19,153
死亡患者数	14	17	15	24	24	23	19	23	27	25	27	24	262
在院患者延数	12,657	11,391	16,459	19,516	20,227	20,308	21,865	20,593	21,335	20,253	19,036	21,475	225,115
平均在院日数	17.4	15.2	12.6	11.3	11.3	12.1	12.3	12.4	11.8	12.4	12.1	12.4	年間平均 12.0

※平均在院日数は、基本診療料の施設基準において定められた対象外患者を除いた患者数で算出

■ 分娩件数・出生児数・死産児数

	2020年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月	3月	合計
分娩件数	54	38	47	44	46	42	38	30	24	36	40	33	472
(帝王切開)	36	24	25	20	21	18	16	16	5	17	20	17	235
出生児数	55	39	52	42	46	42	37	27	21	34	37	35	467
(早期産児)	7	2	15	7	8	3	5	5	5	6	3	5	71
(低出生体重児)	9	9	17	5	6	6	5	6	3	9	6	8	89
(多胎児)	4	2	12	2	0	2	0	0	0	2	0	4	28
死産児数	1	0	1	3	0	1	1	3	3	3	4	0	20

■ 手術件数 (科別)

(1) 入院

	2020年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2021年 1月	2月	3月	合計
内科	8	18	29	44	31	42	41	27	37	37	27	45	386
一般・消化器外科	45	56	116	111	114	129	137	126	140	118	105	151	1,348
呼吸器外科	22	19	41	32	42	42	51	44	52	35	46	50	476
心臓血管外科	5	21	28	39	29	30	32	32	35	30	27	29	337
脳神経外科	8	11	20	22	28	16	34	24	31	21	21	20	256
小児外科	6	6	11	13	21	10	15	17	22	14	15	19	169
整形外科	22	36	114	154	142	125	167	136	167	137	153	201	1,554
形成外科	9	11	33	48	48	45	55	32	52	44	35	70	482
小児科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
産婦人科	58	61	114	140	130	123	127	127	128	127	121	121	1,377
眼科	4	5	38	147	133	161	168	168	180	156	167	140	1,467
皮膚科	5	3	10	12	16	12	6	8	13	9	13	10	117
泌尿器科	18	31	69	85	84	85	90	78	92	78	70	96	876
耳鼻咽喉科	9	10	37	52	60	55	55	55	55	53	52	53	546
精神・神経科	0	7	15	48	41	30	35	26	34	16	25	28	305
麻酔科	1	1	4	4	4	5	2	4	4	4	4	1	38
救急科	2	3	2	7	6	15	33	21	16	36	19	22	182
歯科・口腔外科	0	2	5	10	12	11	14	12	12	13	8	18	117
その他	0	5	10	9	11	8	14	10	11	11	12	11	112
合計	222	306	696	977	952	944	1,077	947	1,081	939	920	1,085	10,146

(2) 外来

	2020年				2021年				合計				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		12月	1月	2月	3月
内科	2	4	16	18	16	18	14	16	24	14	13	26	181
一般・消化器外科	0	0	1	5	6	2	1	5	3	5	3	1	32
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
小児外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	0	1	16	15	8	18	15	18	17	18	21	34	181
形成外科	0	0	4	5	12	9	16	13	14	12	11	14	110
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科	2	0	25	42	35	52	42	29	39	44	33	42	385
眼科	2	4	90	104	86	85	86	78	88	61	68	110	862
皮膚科	2	0	4	21	12	17	20	16	15	15	14	24	160
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	3	5	2	9	4	1	5	6	8	5	48
精神・神経科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科・口腔外科	0	0	11	15	13	19	21	17	17	15	18	17	163
その他	0	0	0	2	0	4	0	2	1	2	0	0	11
合計	8	9	170	232	190	233	220	195	223	192	189	273	2,134

■ 手術全身麻酔件数 (科別)

	2020年				2021年				合計				
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		12月	1月	2月	3月
内科	2	8	13	16	15	19	17	12	19	18	13	21	173
一般・消化器外科	36	44	95	91	91	91	98	99	105	79	82	120	1,031
呼吸器外科	22	18	41	30	42	41	50	43	49	34	42	49	461
心臓血管外科	5	15	28	35	29	29	29	27	34	27	26	27	311
脳神経外科	4	6	16	17	25	16	29	19	24	16	19	17	208
小児外科	5	6	11	12	19	10	14	15	22	14	14	18	160
整形外科	19	33	112	150	139	120	163	131	164	133	151	196	1,511
形成外科	5	10	24	34	36	34	40	22	41	29	26	49	350
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産婦人科	21	27	55	76	71	62	69	58	67	57	58	59	680
眼科	1	0	5	6	8	8	6	5	8	5	6	5	63
皮膚科	5	2	5	5	9	5	3	4	6	3	4	6	57
泌尿器科	12	19	51	57	53	54	56	49	61	49	48	69	578
耳鼻咽喉科	7	9	33	46	52	47	50	51	50	51	47	44	487
精神・神経科	0	7	15	48	41	30	35	26	34	16	25	28	305
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
救急科	2	2	2	5	6	13	27	19	13	35	18	21	163
歯科・口腔外科	0	2	5	9	10	10	11	9	12	13	8	17	106
その他	0	5	10	9	11	7	14	10	10	11	12	11	110
合計	146	213	521	646	657	596	711	599	720	590	599	757	6,755

■ 薬剤・輸血関連実績

内訳	件数等
処方せん枚数（枚）	外 来： 318,421 / 入 院： 217,912
入院注射薬調製件数（件）	抗がん剤： 10,903 / 一般注射薬： 75,489
外来注射薬調製件数（件）	抗がん剤： 14,553 / 抗体製剤： 10,794 / 一般注射薬： 11,838
薬剤管理指導件数（件）	28,390
輸血用血液製剤使用数（単位）	52,748
輸血検査件数（件）	72,267

■ 画像・検体・生理機能検査実績

内訳	件数
単純撮影（健診含む）	135,362
CT（健診含む）	51,154
MRI（健診含む）	26,093
超音波検査（健診含む）	27,949
核医学 PET+SPECT	9,838
IVR（画像下治療）+血管造影	3,056
検体検査（輸血検査含まず）	7,798,255
生理機能検査	75,253

■ 公開講座・講演会・セミナー

診療科・部門	名称	開催場所	開催日
消化器内科	2020 消化管最新医療フォーラム	Web	2020/11/11
	第7回 信濃町消化器病カンファレンス	Web	2020/12/4
	第8回 信濃町リバーカンファレンス	Web	2021/1/25
	信濃町 IBD コンソーシアム	Web	2021/2/13
	信濃町 IBD WEB カンファレンス	Web	2021/3/3
	第6回 信濃町消化器病カンファレンス	Web	2021/3/5
血液内科	CAR-T Network Conference	Web	2021/2/26
心臓血管外科	第3回 MACS セミナー	Web	2020/11/17
	第15回 信濃町 CARDIOVASCULAR SURGERY 研究会	Web	2021/1/30
	Terumo Aortic Web Seminar	Web	2021/3/6
整形外科	Orthopedics network Meeting in Nakano	Web	2021/1/29
	第25回 南多摩七病院整形外科カンファレンス	Web	2021/3/18
眼科	第3回 慶應眼科臨床懇話会	Web	2021/3/11
精神・神経科	令和2年度 精神神経科連携セミナー	院内	2020/12/3
泌尿器科	透析ナビゲーション 2021	Web	2021/3/2
	前立腺がんゲノムカンファレンス	Web	2021/3/5

耳鼻咽喉科	令和2年度 第1回慶耳会総会・学術講演会	ベルサール八重洲	2020/8/1
	令和2年度 教室総会	東京オペラシティ タワー	2020/10/3
	第19回 ENT 病診連携カンファレンス	グランドハイアット 東京	2020/11/18
救急科	第42回 慶應外傷症例検討会プログラム	Web	2020/8/21
	第43回 慶應外傷症例検討会プログラム	Web	2020/12/4
	第1回 Tokyo Emergency Medical Conference	Web	2020/12/16
	第22回 慶應義塾大学医学部救急医学教室 協力施設 懇談会	Web	2021/1/15
	第44回 慶應外傷症例検討会プログラム	Web	2021/2/19
	第2回 Tokyo Emergency Medical Conference	Web	2021/2/26
皮膚科	第30回 関東臨床皮膚疾患研究会	Web	2020/10/16
	東京皮膚疾患セミナー2021	Web	2021/2/4
	患者さんのための天疱瘡・類天疱瘡セミナー	Web	2021/2/27
婦人科	ジェミーナ配合錠 オンライン講演会	Web	2020/10/19
	Takeda Expert Web Seminar	Web	2020/11/30
	Ovarian Cancer Online Seminar 2021	Web	2021/3/3
産科	第72回 日本産婦人科学会 生涯研修プログラム 14	Web	2020/4/23
	新潟県ジェミーナ講演会	ホテルオークラ新潟	2020/9/2
	第56回 日本周産期・新生児医学会学術集会 DOHaD 学会	Web	2020/11/28
	第65回 日本生殖医学会 教育講演 5	京王プラザホテル	2020/12/3
	ART Round Table 談話会	Web	2020/12/6
	JSUOG 日本産婦人科超音波研究会 第1回教育セミナー	Web	2021/2/1
	第5回 ACRC	Web	2021/2/5
	第5回 Art Clinical Research Conference	Web	2021/2/5
	わたしたちのヘルシー ～心とからだの話をはじめよう～	Web	2021/3/7
	ホルモンエキスパートセミナー	Web	2021/3/12
		Web	2021/3/23
リハビリテーション科	脳卒中リハビリテーション医療 UpToDate	Web	2021/3/24
腫瘍センター	Erbitux CRC Expert Webinar	Web	2020/4/22
	がん治療公開セカンドオピニオン 2020	院内	2020/6/6
	第8回 慶應義塾大学病院市民講座	Web	2020/9/26

	中野運動器 WEB カンファレンス	旭化成ファーマ株式会社	2020/11/26
	冬季消化器疾患学術講演会	Web	2020/12/1
	第9回 慶應義塾大学病院市民講座	Web	2020/12/19
	がんと共に生きる道～家で暮らしたいあなたへ～	院内	2021/1/16
	第14回 区西部がん医療ネットワーク研究会	Web	2021/2/17
	第10回 慶應義塾大学病院市民講座	Web	2021/3/13
	Takeda Expert Web Seminar	Web	2021/3/18
緩和ケアセンター	がん診療に携わる医師等に対する欄環ケア研修会	院内	2020/11/7
	第11回 城西緩和ケア講演会	Web	2020/11/12
	がん診療に携わる医師等に対する欄環ケア研修会		2020/12/19
	第5回「Supportive Care Conference」	Web	2021/2/17
看護部	第1回 がん看護研修（がんサバイバーシップから繋がるACP）	院内	2020/9/1
	第2回 がん看護研修（緩和ケア①呼吸困難・鎮静・悪液質）	院内	2020/9/28
	第3回 がん看護研修（緩和ケア②看護師だから実践できる疼痛マネジメント）	院内	2020/10/9
	応用編 第1回 がん看護研修	院内	2020/10/26
	第4回 がん看護研修（がん薬物療法の安全な投与における習得すべき知識）	院内	2020/11/4
	応用編 第2回 がん看護研修	院内	2020/11/9
	第5回 がん看護研修（がん薬物療法を受ける患者を支援するための知識）	院内	2020/12/2
	第6回 がん看護研修（がんサバイバーへの生活の視点からの支援）	院内	2020/12/25
	応用編 第3回 がん看護研修	院内	2021/1/20

IV 診療科・部門の活動

< 診療科部門 >

呼吸器内科

1 診療体制

■ 対象疾患

慢性閉塞性肺疾患 (COPD) / 肺癌 / 気管支喘息 / 間質性肺炎 / 睡眠時無呼吸症候群 / 非結核性抗酸菌症 / 結核症 / 胸膜中皮種 / 肺血栓塞栓症 / インフルエンザ / ニコチン依存症

■ 検査

スパイログラム (肺活量・フローボリュームカーブ) / ガス拡散能力 (DLCO) / 終夜睡眠無呼吸検査 / 気管支鏡 / CT ガイド下生検 / 呼気一酸化窒素 (NO) 測定 / モストグラフ / 超音波気管支鏡ガイド下リンパ節生検 (EBUS-TBNA)

■ 専門外来

禁煙外来 / 腫瘍センター外来 / 睡眠時無呼吸症候群外来 / 呼吸感染症外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	1名
専任講師	2名
助教(専修医を除く)	8名

* 専任・常勤のみ (有期を含む)

< 院内役職者 >

診療科部長	福永 興彦
診療科副部長	石井 誠
外来担当医長	川田 一郎
病棟担当医長	安田 浩之
保険担当医長	石井 誠
研修医担当主任	川田 一郎

2 主な診療実績

肺癌化学療法入院	約 500 件
在宅酸素療法・在宅持続陽圧呼吸療法導入	約 200 件
気管支鏡検査	約 300 件
CT ガイド下針生検	約 100 件

3 その他の活動実績・取り組み等

本年度は、COVID-19 が蔓延し、その診療の中心となる当科では、臨床のみでなく、研究、教育全てに大きな影響を受けた。診療面においては、COVID-19 患者を診療するチームを新たに構築し、COVID-19 患者とそれ以外の呼吸器疾患患者を分けて診療する体制の構築を行った。

COVID-19 患者以外の呼吸器疾患患者に対しては、COVID-19 流行前より、様々な呼吸器疾患分野の専門家をそろえ多様な医療ニーズにこたえる診療体制を整えている。

特に、肺癌患者、難治性喘息患者等に対して、先進的な医療を提供するための取り組みを積極的に行った。

肺癌患者に対しては、「がんゲノム中核拠点病院」である強みを生かし、次世代シーケンサーを用いた遺伝子変異検索と治療標的の有無評価を積極的に行う体制の構築を行った。さらに、呼吸器外科、放射線治療科と緊密な連携を行い、手術や放射線治療など適切な医療を迅速に提供できる体制を構築した。

気管支喘息患者のうち、吸入薬などでコントロールが難しい難治性喘息患者に対しては、近年使用できるようになった生物学的製剤を用いた治療を積極的に導入した。また、アレルギーセンターの枠組みを通じて他科との緊密な連携を行うことで、喘息以外に複数のアレルギー疾患を合併している場合の最適な生物学的製剤の選択やアレルギー免疫療法の導入なども行った。

循環器内科

1 診療体制

■ 対象疾患

虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞) / 不整脈 / 心筋症 / 心不全 / 肺高血圧症 / 肺性心 / 感染性心内膜炎 /

心膜疾患/心アミロイドーシス/心ファブリー病/
サルコイドーシス/ブルガダ症候群/失神/弁膜症
/先天性心疾患/大動脈疾患/高コレステロール血
症/遺伝性心疾患

■ 検査・手術

12 誘導心電図(安静時、マスター運動負荷)/心エ
コー/経食道心エコー図(TEE)/心臓CT/心筋シン
チ/心臓 MRI/遺伝子検査/心臓カテーテル検査/
カテーテルアブレーション/心房中隔欠損症治療
/閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼
灼術/弁膜症に対するカテーテル治療/慢性肺血
栓塞栓症に対するカテーテル治療/心臓電気生理
学的検査/ペースメーカー・植込み型除細動器
(ICD)/カルジオフォン(携帯型心電図記録伝送装
置および伝送心電図ネットワーク)

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	2名
専任講師	6名
助教(専修医を除く)	11名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	福田 恵一
診療科副部長	佐野 元昭
外来担当医長	高月 誠司
病棟担当医長	湯浅 慎介
保険担当医長	金澤 英明
研修医担当主任	藤澤 大志

2 主な診療実績

TAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)	150件
経皮的冠インターベンション	226件
カテーテルアブレーション	294件
ペースメーカー・植込み型除細動器手術	125件
バルーン肺動脈形成術	79件
経皮的中隔心筋焼灼術	6件
経胸壁心エコー検査	9,624件
経食道心エコー検査	285件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 心臓カテーテル班

冠動脈治療においてロボットPCI、FFR-CTをは
じめとする先進的治療をおこなっている。近年急速
に発展している心構造疾患治療として、大動脈弁狭
窄症に対するTAVI、僧帽弁閉鎖不全症に対するMitra
Clip、心房細動に対する左心耳閉鎖、心房中隔欠損、
動脈管開存、卵円孔開存に対する閉鎖術、閉塞性肥
大型心筋症に対する経皮的心筋焼灼術など積極的な
治療を行い、high volume center となっている。

■ 不整脈班

従来の経静脈リードのペースメーカーに加え、リ
ードレスペースメーカーやヒス束ペースメーカーなど、
またICDではWCDやSICDなども最適な症例に適
応している。カテーテルアブレーションでは
Marshall 静脈に対する高周波通電やエタノール注入
なども行っている。

■ 心機能班

経胸壁心エコー、経食道心エコー、3次元エコー解
析により、心臓外科の弁膜症手術、構造的な心疾患に
対するカテーテル治療の高度な術前適応診断、術中エ
コー検査等を実施している。

■ 難治性稀少疾患班

ファブリー病を含むライソゾーム病の酵素補充療
法、心アミロイドーシスにおいては診断・治療の拠点
病院となっている。肺動脈性肺高血圧症、慢性血栓
性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術の実
績は国内有数である。

消化器内科

1 診療体制

■ 対象疾患

<食道疾患>

逆流性食道炎/食道癌/好酸球性食道炎(EoE)/食
道アカラシア/食道けいれん/機能的胸焼け

<胃・十二指腸疾患>

ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎/急性胃粘膜病
変(AGML)/胃潰瘍/胃腺腫/胃癌/胃粘膜下腫瘍/

機能性ディスぺプシア(FD)/好酸球性胃腸症/十二指腸潰瘍/十二指腸腺腫/十二指腸癌/十二指腸乳頭部腫瘍/オッディ括約筋弛緩不全/消化管粘膜下腫瘍/特発性胃不全麻痺/蛋白漏出性胃腸症

<小腸・大腸疾患>

大腸ポリープ/大腸腺腫/大腸癌/大腸ポリポシス/潰瘍性大腸炎(UC)/クローン病/腸管ペーチェット/好酸球性胃腸症/過敏性腸症候群(IBS)/腸閉塞(イレウス)/小腸癌/非特異性多発性小腸潰瘍/腸結核/出血性大腸炎/虚血性腸炎/大腸憩室炎/便秘症

<肝疾患>

肝機能障害/ウイルス性肝炎/非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)/肝硬変/肝細胞癌/薬剤性肝障害/自己免疫性肝炎(AIH)/原発性硬化性胆管炎(PSC)/原発性胆汁性肝硬変(PBC)/肝膿瘍/肝移植

<胆膵疾患>

総胆管結石/胆管炎/胆管癌/IgG4 関連胆管炎/原発性硬化性胆管炎/胆嚢ポリープ/胆石症/胆嚢腺筋症/胆嚢腫瘍/急性膵炎(重症膵炎含)/慢性膵炎/膵癌/膵内分泌腫瘍/膵嚢胞性疾患(IPMN、MCN、SCN)/自己免疫性膵炎

<その他腫瘍性疾患>

消化管間葉系腫瘍(GIST)/消化管悪性リンパ腫/MALT リンパ腫/粘膜下腫瘍/原発不明癌/軟部組織肉腫肝細胞癌/膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)/神経内分泌腫瘍(NET)

■ 検査

上部消化管内視鏡/下部消化管内視鏡(大腸内視鏡)/膵胆道内視鏡(ERCP)/小腸内視鏡(バルーン小腸内視鏡、カプセル内視鏡)/超音波内視鏡(EUS)/EUS を用いた消化管外臓器腫瘍の針生検(EUS-FNA)/腹部超音波・CT・MRI/CT コロノグラフィ/MR エンテログラフィー/上部消化管 X 線造影/注腸造影/小腸造影/尿素呼気試験/食道 pH インピーダンスモニタリング/食道内圧測定/肝生検

■ 専門外来

IBD(潰瘍性大腸炎、クローン病)外来/肝臓専門外

来/胆道・膵臓専門外来/内視鏡治療(ESD)外来/機能性消化管疾患外来/オンコロジー(腫瘍)外来/便秘外来/ピロリ菌外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授 1名
准教授 1名
専任講師 7名
助教(専修医を除く) 5名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長 金井 隆典
診療科副部長 中本 伸宏
外来担当医長 岩崎 栄典
病棟担当医長 正岡 建洋
保険担当医長 中本 伸宏
研修医担当主任 谷木 信仁

2 主な診療実績

潰瘍性大腸炎外来患者数	2,147 人
クローン病外来患者数	700 人
ペーチェット病外来患者数	90 人
急性肝不全患者数	6 人
上部消化管内視鏡	9,174 件
下部消化管内視鏡	4,820 件
バルーン小腸内視鏡	159 件
カプセル内視鏡	44 件
内視鏡的胆管膵管逆行性造影(ERCP)関連処置 (うち時間外緊急)	636 件 102 件
超音波内視鏡(EUS)検査	643 件
超音波内視鏡下生検(EUSFNA)	102 件
内視鏡的乳頭切除(EP)	24 件
食道 ESD	71 件
胃 ESD	121 件
十二指腸 ESD	98 件
大腸 ESD	103 件
肝癌マイクロ派焼灼療法	117 件
外来化学療法件数	3,253 件
入院化学療法件数	327 件
経口抗癌剤処方	836 件

3 その他の活動実績・取り組み等

当科は上部消化管、下部消化管、消化器腫瘍、肝臓、胆膵、消化器内視鏡の6つの臨床診療の柱で構成されている。また、一般消化器外科、腫瘍センター低侵襲療法研究開発部門、放射線科、病理診断科との横断的な“クラスター診療”を特色とし、大学病院全体、関連病院、また基礎系教室とも緊密に連携を取り臨床・研究・教育に邁進している。

2020年はCOVID-19パンデミック元年でもあり、診療、研究や教育の全ての面においても大きく影響を受けた。塾内や院内の指導体制のもと、金井隆典教授を中心に綿密にスタッフや教室員の方々と連絡、連携を取りながら、入院や外来診療のチーム制の再構築や感染防御しながら内視鏡診療の維持、医療安全と倫理を守りながら遠隔会議や授業などの導入で若手専修医、医学生教育の質および量の維持、色々な制限があるからこそ質の高い臨床や基礎研究の発展など、「With コロナ」時代における当診療科のNew Normalが構築されつつある。初診患者や再診患者数の回復だけでなく、近隣施設、関連施設に限らず、全国より紹介患者が集まり、高度医療を提供する診療体制を維持している。慶應義塾医学部内科学を筆頭に様々な研究分野から日本を代表する科学者が横断的に結集した「コロナ制圧タスクフォース」は、世界最大のCOVID-19のゲノムワイド関連解析のプロジェクトに参加し、COVID-19の重症化に関わる遺伝子多型の同定と更なる臨床応用やシステムの構築を目指しているところである。

■ 上部消化管グループ

特色：食道内圧測定や24時間pHインピーダンスモニタリングなどの上部消化管機能性疾患の診断と治療；機能性ディスペプシアや過敏性腸症候群；好酸球性消化管疾患；多剤耐性ピロリ菌の治療

実績：当グループは良性疾患診療をメインとし、外来診療に重心を有しているという特性上、COVID-19パンデミックコントロールを目的とした自粛期間中、診療への影響を受けたが、外来受診者数も従来の患者数に戻りつつある。

■ 下部消化管グループ

特色：炎症性腸疾患（IBD）をはじめとする難治性消化管疾患；IBD診療に欠かせない高難度内視鏡精査と治療；IBD関連発癌の診断と低侵襲から標準治療まで幅広い治療対応；既存の治療法で効果が不十分な難治のIBD患者様に対する新規治療の開発と応用実績；下部消化管グループの外来診療は、週19枠を開き、初診・再診の幅広い患者様に対応する体制を整えており、特に、土曜日外来は7名の専門医師が、就労・学業のため平日受診できない患者様に専門診療を提供している。2020年度に当グループでは潰瘍性大腸炎に対するFC22製剤の安全性試験、抗IL-23/p19製剤のrisankizumabのPhase III試験、クローン病に対する抗フラクタルカイン抗体(E6011)の早期第II相臨床試験、OCH臨床第I/II相試験などの治験を実施した。

■ 消化器腫瘍グループ

特色：各種消化器関連腫瘍、神経内分泌腫瘍の診断と治療；クラスター横断的集学的治療；がんゲノム医療；新規治療の開発や複数の医師主導治験や介入研究の遂行

実績：消化器内科における外来化学療法件数は順調に増加し、院内1位で推移している。COVID-19流行中につき、必要な診療は継続するという病院の方針のもと、緊急事態宣言の間も15%程度の診療縮小で乗り切ることができた。ゲノム診療元年(2019年)から一年経過し、ゲノム診療の普及とともに患者申し出療養制度による薬物提供や、がんゲノム医療中核拠点病院、がん診療連携拠点病院（高度型）に指定されている当院においても大きい役割を担っている。

■ 肝臓グループ

特色：原発性硬化性胆管炎や自己免疫性肝炎をはじめとする難治性自己免疫性肝疾患；外科移植班と連携した急性・慢性肝不全治療；次世代マイクロ波焼灼療法による肝細胞癌治療；肝移植の適応外である重症型急性アルコール性肝炎の新規治療開発

実績：次世代マイクロ波システムを使用した肝細胞癌の局所療法において引き続き年間150例程度の症

例数を維持している。COVID-19 流行によって入院が制限されている時期もあったが、本年では手術数・アブレーション数・血管内治療を合わせた肝細胞癌の治療症例数は全国 11 位と高い水準を維持している(『手術数でわかるいい病院2021(朝日新聞出版)』より)。

■ 胆膵グループ

特色:各種胆膵関連内視鏡診断治療;膵炎後膿瘍ネクロセクトミーに必要な Lumen apposing metallic stent (Hot Axios) の認定施設;細経胆道鏡であるスパイグラス DS・水圧破碎装置 EHL の導入;小腸内視鏡を用いた水平脚、空腸への十二指腸ステント留置;放射線透視装置の更新によって被曝の軽減と視認性の向上が可能になった。内視鏡的乳頭切除術(EP)や急性膵炎に関連する複数の全国レベルの臨床研究の主導。

実績:胆膵関連内視鏡検査は2019年では超音波内視鏡検査(EUS)、ERCP 関連処置を中心に合計1466件までに至った。2020年 COVID-19 流行の影響によりやや低調となって以降、回復傾向にある。

■ 消化器内視鏡グループ

特色:各種内視鏡検査と処置;低侵襲消化管癌の治療および開発;バルーン小腸内視鏡・カプセル内視鏡;内視鏡挿入や画像診断・人工知能を利用する新規技術の応用

実績:2020年3月末から COVID-19 流行により内視鏡検査を一時中断していたが、再開後は昨年とほぼ同様の検査件数となっている。

腎臓・内分泌・代謝内科

1 診療体制

■ 対象疾患

<腎臓部門>

検尿異常/ネフローゼ症候群/腎臓機能障害/急性腎障害(薬剤性腎障害、急性糸球体腎炎、急速進行性糸球体腎炎など)/慢性腎臓病(糖尿病性腎症、IgA 腎症、高血圧性腎硬化症、膠原病関連腎症、

炎症性腸疾患関連腎症、血液透析・腹膜透析患者を含む)/シャント不全/電解質異常/代謝性アシドーシス・アルカローシス/遺伝性腎疾患(多発性嚢胞腎、アルポート症候群、ファブリティ病)

<代謝部門>

1型糖尿病/2型糖尿病/妊娠糖尿病/高尿酸血症/脂質異常症

<内分泌部門>

副腎疾患(原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、バラガングリオーマなど)/下垂体疾患(下垂体腫瘍、下垂体機能低下症など)甲状腺疾患(バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍など)/原発性副甲状腺機能亢進症/膵内分泌腫瘍(インスリノーマ、ガストリノーマ、グルカゴノーマなど)

■ 検査

<腎臓部門>

腎臓生検/内シャントエコー/腹部超音波・CT・MRI/下肢静脈エコー

<代謝部門>

75g ブドウ糖負荷試験/持続血糖モニタリング/RR 間隔検査(心拍数変動検査) /AB(I Ankle Brachial Pressure Index)検査/PWV (Pulse Wave Velocity, 脈波伝播速度)/頸動脈エコー/グルコースクランプ検査/CGM(Continuous Glucose Monitoring デックスコム G4) /FGM (フリースタイルリブレプロ)

<内分泌部門>

ホルモン検査/副腎静脈サンプリング(AVS) /甲状腺穿刺吸引細胞診/選択的動脈内 Ca 刺激下サンプリング検査(SACI)

■ 専門外来

シャント外来/腹膜透析外来/多発性嚢胞腎外来/内分泌外来/甲状腺外来/1型糖尿病・インスリンポンプ外来/フットケア外来/糖尿病・肥満外来/摂食障害外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	1名

専任講師 6名

助教（専修医を除く） 11名

*専任・常勤のみ（有期を含む）

<院内役職者>

診療科部長 伊藤 裕

診療科副部長 脇野 修

外来担当医長 目黒 周

病棟担当医長 徳山 博文

保険担当医長 栗原 勲

研修医担当主任 神田 武志（内科統括）

2 主な診療実績

■ 腎臓部門

腎臓病（原発性、二次性）、高血圧、透析患者の定期チェックの通院患者数は約4,000人。腎生検数は年間46例、年間透析導入患者数は血液透析患者数60例、腹膜透析導入患者数8例、維持腹膜透析患者数42名。バスキュラーアクセス診療に関しては、バルーン拡張術193症例、長期留置型カテーテル15症例。年間入院患者数は約300症例。

■ 内分泌代謝部門

内分泌代謝疾患（1型糖尿病、2型糖尿病、甲状腺疾患、副腎疾患、視床下部・下垂体疾患、副甲状腺疾患、性腺疾患など）として通院継続中の患者数は約4,800人、うち糖尿病患者数は約3,400人（1型220人、2型2,930人、その他250人）、年間入院患者数は約250症例（2型糖尿病62%、1型糖尿病12%、内分泌疾患10%、他感染症の合併例など）。他科の入院患者の診療（併診）も多く、年間併診患者数も上記に加えてさらに約400症例に達する。手術前後の血糖管理はもちろんのこと、専門性を要求される妊娠糖尿病管理についても産科と連携し、きめの細かい治療を行っている。

3 その他の活動実績・取り組み等

当科は慢性腎臓病、高血圧、腹膜透析、血液透析、原発性アルドステロン症、甲状腺疾患、糖尿病など、多岐面にわたる臨床や新規の研究分野を扱っており、各領域の経験豊富な専門医が診療にあたっている。

当科は生活習慣病の診療に従事していることから本年度はコロナ禍の影響を大きく受けたが、従来の臨床水準を維持するべく診療を行った。

■ 腎臓部門

本年度前半はCOVID-19の感染拡大により、外来は電話診療を中心とした診察に変更した。緊急性の低い症例の腎生検が延期となり、慢性腎不全による透析導入に関しても4-6月の当院の混乱のため他院に紹介する症例もあった。事前にサテライトクリニックを選定するなど外来での診療を充実させることによって円滑に血液透析導入を行い、後半は昨年度と同様の症例数を維持した。一方、透析患者のシャント管理外来、PTA、パーマネントカテーテルを用いた血液透析、腹膜透析は例年通りの症例数を維持した。

■ 内分泌部門

本年度はCOVID-19感染拡大のため、通院での外来診療が困難となったが、電話診察を丁寧に行うことで、大きな混乱なく患者フォローを続けることができた。入院は、紹介患者の検査入院が多いため、コロナによる紹介数減少の影響を受けたが、紹介された患者については、コロナ前と同様の対応を行った。当院を含む国内8施設で治験を行った、機能性副腎腫瘍の低侵襲治療である、ラジオ波焼灼術が保険適用の見込みとなったため、放射線診断科との協力体制のもと、当院での導入に向けた作業を開始している。

■ 代謝部門

本年度前半はCOVID-19のため外来は可能な限り電話診療となり、入院もほぼ停止状態となった。年度後半には外来診療はかなり回復したが、入院数は最終的に前年度の約30%にまで落ち込んだ。こうしたことも背景にAIホスピタル事業におけるMeDaCaシステムを利用した遠隔診療の導入も検討し、特に妊娠糖尿病やパーソナルCGM機能を搭載したインスリンポンプ療法（SAP: Sensor Augmented Pump療法）中の1型糖尿病患者におけるリモート診療を開始した。

神経内科

1 診療体制

■ 対象疾患

脳血管障害(脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血、ウィリス動脈輪閉塞症、頸動脈狭窄、頭蓋内動脈狭窄) /パーキンソン病/進行性核上性麻痺/多系統萎縮症(脊髄小脳変性症)/その他の運動障害/晩発性小脳皮質萎縮症/遺伝性小脳失調症(SCA1, SCA2, SCA3, SCA6)/アルツハイマー病/レビー小体型認知症/前頭側頭葉型認知症/クロイツフェルト・ヤコブ病/その他の認知症/重症筋無力症/多発筋炎/進行性筋ジストロフィー/筋強直性ジストロフィー/その他の筋疾患/多発ニューロパチー/ギラン・バレー症候群/フィッシャー症候群/シャルコー・マリー・トゥース病/緊張型頭痛/片頭痛/群発頭痛/髄膜炎/脳炎/肥厚性硬膜炎/その他の神経感染症/多発性硬化症/急性散在性脳脊髄炎/進行性多巣性白質脳症/副腎白質ジストロフィー/てんかん/筋萎縮性側索硬化症/痙性対麻痺/脊髄性進行性筋萎縮症/ハンチントン病/ウィルソン病/ミトコンドリア脳筋症/その他の遺伝性神経疾患/顔面神経麻痺/動眼/神経麻痺/滑車神経麻痺/外転神経麻痺/その他の脳神経麻痺/顔面痙攣/眼瞼痙攣/痙性斜頸/書痙/本態性振戦/周期性四肢麻痺/脊髄空洞症/平山病/三叉神経痛

■ 検査

脳・脊髄 MRI/頭部 CT/頸動脈エコー/骨格筋 CT・MRI/脳波/脳血流 SPECT/脳血管造影/MIBG 心筋シンチ/DAT スキャン/PET/腰椎穿刺(脳脊髄液検査) /筋電図/筋生検

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	2名
専任講師	3名
助教(専修医を除く)	5名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	中原 仁
診療科副部長	鈴木 重明
外来担当医長	伊東 大介
病棟担当医長	伊澤 良兼
保険担当医長	關 守信
研修医担当主任	西本 祥仁

2 主な診療実績

■ 主要疾患別入院件数

脳梗塞	108件	脳出血	19件
重症筋無力症	82件	てんかん	23件
多発性硬化症/視神経脊髄炎など			68件
運動ニューロン疾患			42件
パーキンソン病			29件
脊髄小脳変性症/多系統萎縮症など			24件
ギラン・バレー症候群/末梢神経疾患			32件
その他			151件

3 その他の活動実績・取り組み等

当科では、内科学教室の一員として、中枢神経系(脳・脊髄)、末梢神経、筋肉を侵す様々な内科疾患を担当している。本年度も積極的に新規治療法の臨床開発に取り組み、当院倫理委員会の審査承認のもと、脳血管障害、多発性硬化症、重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、アルツハイマー病などに対する様々な治験・臨床試験を実施した。

■ 脳血管障害

脳梗塞や脳出血など脳卒中の診療としては、2020年6月に脳卒中センターを開設し、血栓回収術(カテーテル治療)、血栓溶解(rt-PA)療法からリハビリテーションに至るまで、複数の診療科と連携して治療に注力している。また、循環器内科を中心とした卵円孔直接閉鎖術、左心耳閉鎖術などの先端治療も開始し、これまでの治療件数は国内で屈指の症例数となっている。

■ 重症筋無力症

重症筋無力症は380人程度の患者を治療しており、

日本で最も患者数が多い施設である。患者の QOL を重視した治療を最優先し、可能な限り外来で治療できるようにしている。新たな治療選択となった分子標的薬も積極的に導入し、多くの臨床研究を当院から発表した。

■ 多発性硬化症・視神経脊髄炎

当院では多数の多発性硬化症・視神経脊髄炎の患者を診療している。新規治療薬による診療のほか、従来の MRI よりも髄鞘の評価に優れた画像技術であるミエリンマップの開発を進めた。

■ 認知症

認知症専門外来では、2018 年より AMED 事業としてアミロイドイメージングとタウ PET を導入、認知症の長期コホート研究を進めている。PET 診断された認知症患者の体液バイオマーカー（リン酸化タウ、Neurofilament Light Chain）の検討を行い、アルツハイマー病の診断に有用であることを報告した。現在、MRI、神経心理検査に加えて、体液バイオマーカー、アミロイド/タウ PET を組み合わせた診断アルゴリズムの構築を進めている。

■ パーキンソン病

専門外来を複数設置し、最新の知見に基づくテーラードな医療を提供している。多職種連携チーム医療の推進のため、院内勉強会の開催などコメディカルの教育、多施設共同の臨床研究にも参加した。

■ 頭痛

頭痛外来では多くの片頭痛患者、群発頭痛、特殊な頭痛の診断や治療を行っている。

■ 筋萎縮性側索硬化症 ALS

ALS は難治性として挙げられる代表的疾患であるが、その診断には多くの疾患との鑑別が求められる。ALS に対する治験を行ったほか、家族性 ALS を疑う症例については、慎重な検討の上で遺伝子検査も施行している。

血液内科

1 診療体制

■ 対象疾患

急性骨髄性白血病/急性リンパ性白血病/慢性骨髄性白血病/慢性リンパ性白血病/骨髄異形成症候群/真性赤血球増加症/本態性血小板血症/骨髄線維症/悪性リンパ腫/多発性骨髄腫/キャスルマン病/再生不良性貧血/発作性夜間ヘモグロビン尿症/鉄欠乏性貧血/特発性血小板減少性紫斑病/POEMS 症候群/成人 T 細胞白血病リンパ腫/骨髄増殖性腫瘍/自己免疫性溶血性貧血/血友病/凝固因子欠乏症/血球貪食症候群

■ 検査

骨髄検査/腰椎穿刺/HLA タイピング/リンパ節生検/CT・エコーガイド下生検

■ 専門外来

造血幹細胞移植外来

■ スタッフ構成（2021 年 3 月時点）

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	3 名
助教（専修医を除く）	4 名
*専任・常勤のみ（有期を含む）	

<院内役職者>

診療科部長	片岡 圭亮
診療科副部長	森 毅彦
外来担当医長	清水 隆之
病棟担当医長	菊池 拓
保険担当医長	加藤 淳
研修医担当主任	加藤 淳

2 主な診療実績

同種造血幹細胞移植件数	27 件(2020/1月~12月)
自家造血幹細胞移植件数	27 件(同上)
CAR-T 細胞療法件数	4 件(同上)
CAR-T 細胞製造件数	5 件(同上)
入院化学療法	約 1,600 件/年
外来化学療法	約 3,400 件/年
(経口抗がん薬処方を含む)	

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 造血幹細胞移植

難治性造血器疾患に対して根治療法として行われる造血幹細胞移植は、病状から治療の延期が困難で適切なタイミングに実施することが重要な治療である。COVID-19 の拡大に伴い、病床確保が困難となったが、移植の準備期間に実施する治療を紹介元医療機関と綿密に連携を行いながら実施することで治療計画の変更なく、例年に近い移植実績を維持した。

■ CAR-T 細胞療法

2019 年 12 月に再発難治性の急性リンパ芽球性白血病および再発難治性のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫に対する CD19 抗原に対する本邦初の CAR-T 細胞療法製品であるキムリア® (チサゲンレクルユーセル) の施設承認を取得した。適応患者数に比して実施施設が少なく、病状の進行も早いことが多いため、施設連携の強化が多くの方に治療が届くため必要であった。これを優先課題として取り組み、下半期以降は治療件数が安定的に増加した。

■ 臨床治験・臨床試験

悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、急性骨髄性白血病、移植片対宿主病、キャッスルマン病、再生不良性貧血に対する臨床治験、および、悪性リンパ腫、骨髄異形成症候群、移植片対宿主病予防、移植前処置、移植後 B 型肝炎再活性化予防に関する前向き介入臨床試験を実施した。

リウマチ・膠原病内科

1 診療体制

■ 対象疾患

関節リウマチ/全身性エリテマトーデス/全身性強皮症/多発性筋炎・皮膚筋炎/混合性結合組織病/シェーグレン症候群/顕微鏡的多発血管炎/結節性多発動脈炎/高安動脈炎/巨細胞性動脈炎/リウマチ性多発筋痛症 (PMR; polymyalgia rheumatica) /成人発症スティール病 (AOSD; adult-onset Still's disease) /乾癬性関節炎/強直性脊椎炎/ベーチェット病/IgG4 関連疾患/痛風/偽痛風/若年性特発

性関節炎(若年性関節リウマチ)/再発性多発軟骨炎/RS3PE 症候群/回帰性リウマチ/サルコイドーシス/抗リン脂質抗体症候群/悪性関節リウマチ/多発血管炎性肉芽腫症(旧名ウエゲナー肉芽腫症)/好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(旧名チャグ・シュトラウス症候群)/アレルギー性肉芽腫性血管炎/IgA 血管炎(旧名ヘノッホ-シェーンライン紫斑病)/クリオグロブリン血管炎/過敏性血管炎/コーガン症候群/反応性関節炎/炎症性腸疾患に伴う関節炎/SAPHO 症候群/自己炎症性疾患/びまん性筋膜炎(好酸球性筋膜炎)/フェルティ症候群/カプラン症候群/リウマチ熱/骨粗鬆症/アミロイドーシス

■ 検査

関節 MRI/骨シンチグラフィ/ガリウムシンチグラフィ/腎生検/レーザー血流計・サーモグラフィ/筋生検/キャピラロスコピー

近年は関節リウマチなどの関節疾患において、関節超音波検査を使用することが多くなってきた。当科では最新の関節超音波機器を用いて、担当医師が診断や治療効果判定を行っている。週 4 日の関節エコー検査日を設定し、必要な患者に速やかにエコー検査が行える体制を整えている。

■ 専門外来

関節リウマチなどで生物学的製剤を使う患者には「免疫統括医療センター」での診療も行っています。レミケード(インフリキシマブ)やアクテムラ(トシリズマブ)の使用実績は国内最大規模となっている。

■ スタッフ構成 (2021 年 3 月時点)

准教授	1 名
専任講師	3 名
助教 (専修医を除く)	6 名

*専任・常勤のみ (有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	金子 祐子
診療科副部長	鈴木 勝也
外来担当医長	鈴木 勝也

病棟担当医長 花岡 洋成
 保険担当医長 大友 耕太郎
 研修医担当主任 仁科 直

2 主な診療実績

■ 主要疾患別外来患者数 (2021年3月時点)

関節リウマチ	2,431人
シェーグレン症候群	708人
全身性エリテマトーデス	482人
全身性強皮症	250人
リウマチ性多発筋痛症	176人
皮膚筋炎/多発筋炎	148人
IgG4 関連疾患	129人
脊椎関節炎	128人
ベーチェット病	123人
混合性結合組織病	111人
乾癬性関節炎	106人
SAPHO 症候群	106人

3 その他の活動実績・取り組み等

本年度、COVID-19 に対して関節リウマチの治療薬が承認されつつあり、リウマチ・膠原病内科も積極的にその診療に関わってきた。また電話診療などを幅広く導入し、患者の安心・安全に配慮した診療を進めている。

当科はリウマチ・膠原病全般を診療対象とし、20名の経験豊かな日本リウマチ学会認定リウマチ専門医が診療に従事している。2017年より APLAR Center of Excellence (アジア太平洋リウマチ学会認定リウマチ診療研究施設)に認定され、国際的にも幅広く患者を受け入れてきた。日本リウマチ学会登録ソノグラファーによる関節超音波専門外来や、膠原病の診断に重要なキャピラロスコーピー(爪毛細血管鏡)専門外来を開設し、多角的に疾患をとらえる取り組みをしている。さらに日本腎臓学会指導医による腎生検や、経験豊かな施行医による筋生検も診療科内で施行しており、他診療科とも密にコミュニケーションを取りながら患者に最適な医療を提供する体制を整えている。科学的根拠に基づきながら、全人的な医療

を提供できる診療科を目指して日々診療にあたっている。

一般・消化器外科

1 診療体制

■ 対象疾患

<上部消化管班>

胃癌/食道癌/逆流性食道炎/食道アカラシア/胃悪性リンパ腫/胃 GIST/その他の胃粘膜下腫瘍/難治胃・十二指腸潰瘍など

<大腸班>

大腸癌(結腸、直腸、肛門の癌)/大腸ポリープ/炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病など)/肛門疾患(痔核、痔瘻、裂肛)など

<肝胆膵・移植班>

肝癌(肝細胞癌、転移性肝癌)/胆道癌(肝門部胆管癌、胆嚢癌、遠位胆管癌、乳頭部癌)/膵癌(浸潤性膵管癌、膵内分泌腫瘍(PNET)、膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)、粘液性嚢胞腫瘍(MCN)/肝移植対象疾患(急性肝不全、肝癌、肝硬変、PBC、PSC、胆道閉鎖症など)/良性疾患(胆石症、総胆管結石、胆嚢炎、肝嚢胞、急性膵炎、慢性膵炎など)

<乳腺班>

乳癌/遺伝性乳癌/卵巣癌症候群/乳房の再建/乳腺疾患(乳腺症(嚢胞症を含む)・線維腺腫・乳管内乳頭腫・男性乳癌・女性化乳房症など)/若年性乳癌患者の妊孕性(妊娠する力)の温存/乳癌に対する放射線治療

<血管班>

下肢閉塞性動脈硬化症/腹部大動脈瘤/腹部内臓動脈瘤(脾動脈瘤、腎動脈瘤など)/糖尿病性足病変/下肢静脈瘤/深部静脈血栓症など

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	3名
専任講師	7名
助教(専修医を除く)	13名

*専任・常勤のみ（有期を含む）

<院内役職者>

診療科部長	尾原 秀明
診療科副部長	川久保 博文
外来担当医長	川久保 博文
病棟担当医長	北郷 実
保険担当医長	北郷 実
研修医担当主任	堀 周太郎（外科統括）

2 主な診療実績

■ 主要疾患別手術件数

食道癌	34 件	胃癌	64 件
結腸癌	88 件	直腸癌	46 件
乳癌	238 件	膵癌	33 件
肝細胞癌	21 件	胆道癌	39 件
腹部大動脈瘤	34 件	末梢動脈疾患	93 件
肝胆膵高難度手術			134 件
肝移植			10 件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 上部消化管班

COVID-19 感染拡大により、食道癌・胃癌手術ともに一時的には予定手術を停止したものの、治療優先順位の高い進行癌を中心に、一定の病床稼働率を維持した。週 1 日の使用枠の制限はある中、ロボット支援下手術の割合を食道癌、胃癌ともに増加させたことは、コロナ禍における一定の患者数維持に寄与したと考えている。内視鏡センターにおいては、原則 Full personal protective equipment 対応に変更としながらも、手術前精査・術後評価目的の内視鏡診療を継続した。

■ 腸班

COVID-19 感染拡大のため良性疾患中心に手術が一部延期された時期があったものの、悪性腫瘍に対する低侵襲手術を積極的に行った。直腸癌手術の半数以上にロボット支援下手術が施行され、当院の特徴である潰瘍性大腸炎に対する reduced port surgery も例年並みの件数を施行した。小児外科、消化器内科と連携して腸管機能リハビリセンター立ち上げにも

力を注ぎ、2021 年 3 月には成人に対する脳死小腸移植を施行した。

■ 肝胆膵・移植班

COVID-19 感染拡大により 4-5 月に手術延期など診療に影響が出たものの、肝胆膵領域の難治癌に対し外科的治療として腹腔鏡下手術による低侵襲治療、大血管および多臓器合併切除を伴う拡大手術、生体・脳死肝移植術をほぼ例年通り施行することができた。新スタッフ 3 名を加え、さらにカンファレンスを全て web 開催にして状況は一変したが、他科とも連携をさらに深めながら安全に診療を行うことができた。

■ 血管班

COVID-19 感染拡大のために一部の手術が延期となる時期はあったが、同時期においても大動脈瘤切迫破裂や急性動脈閉塞などの緊急性の高い疾患については、十分な感染対策のもとに対応を図った。また拡大腫瘍切除や肝移植・小腸移植など、血管合併切除、再建を要するような拡大手術にも積極的に参画した。末期腎不全に対する内シャント造設術は年々症例数が増加しており、腎臓内科、透析センターとの連携も強化しつつある。

■ 乳腺班

4-5 月は COVID-19 感染拡大のため手術制限がかかったが、乳癌の中でも悪性度の高い腫瘍の手術を優先し、悪性度の低い腫瘍は術前内分泌療法を併用するなど柔軟な対応を行い、その後は段階的に手術件数の回復を認めた。また、2020 年 4 月より乳癌、卵巣癌の既発症患者に対する遺伝性乳癌卵巣癌の BRCA1 / 2 遺伝子検査についても保険適用が拡大されたことを受け、臨床遺伝学センターとの密な連携のもと、診療の質の向上に努めた。

呼吸器外科

1 診療体制

■ 対象疾患

肺癌/転移性肺腫瘍/縦隔腫瘍/自然気胸(嚢胞性肺疾患)/漏斗胸/胸膜中皮腫/良性肺腫瘍/甲状腺腫

瘍/重症筋無力症/肺結核/肺非定型抗酸菌症/膿胸/胸部外傷/胸壁腫瘍/横隔膜疾患/その他のあらゆる呼吸器外科疾患

■ 検査

胸部単純 X 線/胸部 CT/PET-CT/気管支鏡検査/CT ガイド下生検/肺動脈造影検査/肺シンチグラフィ/気管支動脈造影検査/胸部 MRI/呼吸機能検査/精密肺機能検査

■ 専門外来

漏斗胸外来/気胸ホットライン

■ スタッフ構成 (2021 年 3 月時点)

教授	1 名
准教授	1 名
専任講師	3 名

*専任・常勤のみ (有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	浅村 尚生
診療科副部長	菱田 智之
外来担当医長	菱田 智之
病棟担当医長	朝倉 啓介
保険担当医長	政井 恭兵
研修医担当主任	加勢田 馨

2 主な診療実績

■ 主要手術件数

肺癌	173 件
縦隔腫瘍	40 件
転移性肺腫瘍	45 件
気胸	65 件
漏斗胸	88 件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 診療全般

4-5 月は COVID-19 感染拡大の影響で待機可能な手術は原則延期し、悪性腫瘍あるいは当院以外では施行できない手術を中心に行った。手術制限の影響もあって上半期は手術数が減少したが、下半期に持ち直して年間では 508 件 (前年度比 12%減) の呼吸

器外科手術を行った。当科が行っている小開胸低侵襲手術 Minimally Invasive Open Surgery (MIOS) は、少人数かつ短時間で施行可能であり、スタッフの人員制限や手術室の使用制限下においても、手術数を維持することに寄与した。

■ 外来診療体制

5 名のスタッフ医師が外来診療を担当した。コロナ禍以降は電話診療、オンライン診療を導入し、悪性腫瘍患者のフォローアップに支障が生じないように留意した。

■ 入院診療体制

外来担当医が主治医となって、その下で専攻医が主担当医になる患者受け持ち体制をとり、平日は毎朝 7:30 より全医師による回診を行って個々の医師が全症例を把握するよう努めた。コロナ禍の 4-5 月には 2 チーム制をとって、交代出勤により互いのチームが接触しないようにした。また、当科として初めて WEB カンファレンスを導入し、2 チーム間で診療情報を共有できるようにした。

■ カンファレンス等

入院症例カンファレンス (月曜)、手術症例カンファレンス (木曜)、肺癌カンファレンス (呼吸器内科・放射線治療科・病理診断部と合同、水曜) 等を通じてチーム医療を実践した。このうち他診療科が関与する肺癌カンファレンスはコロナ禍以降、WEB 開催に移行した。

心臓血管外科

1 診療体制

■ 対象疾患

胸部大動脈瘤/腹部大動脈瘤/急性大動脈解離/解離性大動脈瘤/大動脈弁輪拡張症/狭心症/心筋梗塞/心筋梗塞後合併症(左室破裂、心室中隔穿孔、乳頭筋断裂など)/大動脈弁狭窄症/大動脈弁閉鎖不全症/僧帽弁狭窄症/僧帽弁閉鎖不全症/三尖弁閉鎖不全症/肺動脈性肺高血圧症/心臓腫瘍/心房中隔欠損症/心室中隔欠損症/動脈管開存症/大動

脈縮窄症

■ 専門外来

特殊診療施設：大動脈先進医療センター/心臓血管低侵襲治療センター

ペースメーカー外来：ペースメーカー植え込み後の患者のフォローアップ

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	1名
専任講師	2名
助教(専修医を除く)	6名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	志水 秀行
診療科副部長	伊藤 努
外来担当医長	木村 成卓
病棟担当医長	伊藤 努
保険担当医長	山崎 真敬
研修医担当主任	山崎 真敬

2 主な診療実績

弁膜症手術	65件
冠動脈手術	41件
大動脈手術(末梢血管を除く)	125件
先天性	61件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 診療全般

4-5月は高度狭窄を伴う冠動脈疾患などの緊急度の高い疾患への手術以外は延期とした。また、その後も手術室の制限により手術数の回復はゆっくりとしたものとなったが、最終的には症例数は持ち直し、年間426件(前年比86.1%)となった。また、当科では、通常の開心術に加えて、低侵襲心臓手術(MICS)や、ステントグラフトや経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)といった経カテーテル治療を積極的に施行することにより、比較的短期間での集中治療室退室が可能となり、コロナ禍でのICU bed使用を抑制する事に寄与した。

■ 外来診療体制

6名のスタッフを外来担当とし、診療を行った。患者の外来受診が難しい時期は、電話診療や診察日のフレキシブルな曜日変更により、患者の状態把握に漏れがないよう留意し、一定の効果を得ることができた。

■ 入院診療体制

当科では直接コロナ患者を診察する機会は多くなかったが、大動脈班、後天性心疾患班、先天性心疾患班のチーム制を維持しつつ、各メンバーの接触もなるべく控えるよう、WEBによる回診なども導入した。

■ カンファレンス等

当科では週2回の術前カンファに加え、各チームでのカンファレンス等が複数行われていたが、手術数の増減に合わせて開催頻度を調整し、また、WEBの導入も行い円滑な診療を行えるよう留意した。

脳神経外科

1 診療体制

■ 対象疾患

<脳腫瘍>

髄膜腫/神経鞘腫/神経膠腫(グリオーマ)/下垂体腺腫/転移性脳腫瘍/脳原発悪性リンパ腫/血管芽腫/血管周皮腫/脊索腫/軟骨肉腫/類上皮腫/類皮腫/髄芽腫/上皮腫/胚細胞腫瘍/頭蓋咽頭腫/頭蓋骨腫瘍

<脳血管障害>

脳動脈瘤/脳動静脈奇形/硬膜動静脈瘻/海綿状血管腫/もやもや病/頸動脈狭窄/脳動脈狭窄・閉塞症/頭頸部脊髄血管奇形/くも膜下出血/脳出血/脳梗塞

<機能的疾患>

三叉神経痛/顔面けいれん/パーキンソン病/本態性振戦/ジストニア/正常圧水頭症

<先天性疾患>

キアリ奇形/水頭症/二分脊椎/二分頭蓋/くも膜のう胞/脊髄髄膜瘤/脊髄脂肪腫/脊髄空洞症/脊

髄系留症候群/頭蓋骨縫合早期癒合症

<頭部外傷>

慢性硬膜下血腫/急性硬膜下血腫/急性硬膜外血腫

<遺伝性疾患>

神経線維腫症/Von Hippel-Lindau 病/遺伝性出血性末梢血管拡張症

■ 検査

頭部レントゲン/CT/MRI/MRA/機能的MRI/脳・脊髄血管撮影/CT アンギオ/頸動脈エコー/脳血流検査/SPECT/PET/脳波検査/誘発電位検査/血液検査/ホルモン検査/神経膠腫の遺伝子解析

■ 専門外来

免疫療法/脳腫瘍/定位放射線/脳血管障害/脳血管内治療

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
専任講師	6名
助教(専修医を除く)	6名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	戸田 正博
診療科副部長	佐々木 光
外来担当医長	堀口 崇
病棟担当医長	秋山 武紀
保険担当医長	三輪 点
研修医担当主任	堀口 崇

2 主な診療実績

脳腫瘍摘出術 (グリオーマ、髄膜腫、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍など)	121件
広範囲頭蓋底腫瘍摘出術 (髄膜腫、神経鞘腫、脊索腫など)	20件
脳血管障害開頭術 (クリッピング、バイパス、頸動脈内膜剥離術など)	29件
神経内視鏡手術 (水頭症、脳出血、脳腫瘍など)	14件
脳血管内手術 (コイル塞栓、ステント留置術、血管奇形塞栓術など)	44件

3 その他の活動実績・取り組み等

当科では脳腫瘍、脳血管障害、機能的疾患、小児脳外科疾患など幅広い脳神経外科疾患に対して診療を行っており、一般的な脳神経外科治療はもちろんのこと、高度な治療や先進的な治療も提供できる体制を整えている。

本年度には頭蓋底センターが発足した。脳神経外科学教室は歴史的に長年にわたり頭蓋底手術の成績向上と技術発展に取り組んできた。当科だけでなく、耳鼻咽喉科、形成外科、眼科、歯科口腔外科、下垂体疾患では内分泌内科、さらに放射線治療科、放射線科など、それぞれの専門分野の知識と高度な技術の科を超えた統合を行い、全ての頭蓋底疾患に対応できる診療体制を整えている。

脳卒中分野においては、救急から手術、血管内治療、内科治療といった多くの科が関わる多岐にわたる診療内容の連携を強化し治療効果を最大限高める目的で、救急科、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、精神神経科、放射線科が共同となり脳卒中センターの設立を行った。診療体制の充実に向けて、本年度は後方連携病院の選定や早期転院のフローの作成を行った。また近年、急激に需要が増加している急性期脳梗塞に対する血栓回収術へ常に対応できるように脳神経外科、神経内科オンコールとは別に脳血管内治療オンコールを作り独自に脳卒中对応可能な体制を整えた。

脳血管内(カテーテル)治療においては、従来手術室で行っていた全身麻酔下の治療を麻酔科の協力のもと、血管造影室での全身麻酔手術を行える体制を進めた。より描出能に優れたバイプレーンの機器を使用することでより高難易度の血管内治療を行う体制が整った。

他院から患者紹介をいただく体制を整えるため、より広域での前方連携を医療連携推進部とともに進め、外来、入院、手術件数の増加を図った。

COVID-19蔓延に伴いCOVID-19感染した脳卒中患者への対応フローを作成するなどCOVID-19蔓延下での診療体制の強化を行った。

小児外科

1 診療体制

■ 対象疾患

胆道閉鎖症/(先天性)胆道拡張症(総胆管拡張症-総胆管のう腫)/小児の顔面・頸部疾患(正中頸嚢胞・側頸嚢、梨状窩嚢など)/小児悪性固形腫瘍(神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、横紋筋肉腫、胚細胞腫瘍等)/その他小児固形腫瘍(卵巣嚢腫、脂肪腫など)/先天性横隔膜ヘルニア/先天性食道閉鎖症/十二指腸閉鎖・狭窄症/腸閉鎖症/腸回転異常症(中腸軸捻転症)/臍帯ヘルニア・腹壁破裂/先天性嚢胞性肺疾患(CCAM、CPAM)/リンパ管疾患(リンパ管腫、リンパ管腫症等)/ヒルシュスプルング病/ヒルシュスプルング病類縁疾患/鎖肛/総排泄腔外反、遺残症/肥厚性幽門狭窄症/鼠径ヘルニア/陰嚢水腫/停留精巣/臍ヘルニア/急性虫垂炎/腸重積症/漏斗胸/メッケル憩室/胃食道逆流症/便秘症/包茎/異物誤飲/腸管不全(短腸症候群など)/肝臓移植・小腸移植 など

■ 検査

直腸肛門反射/食道 pH モニタリング/胃排出時間検査(アセトアミノフェンテスト)/食道内圧検査/上部消化管内圧検査/下部消化管内圧検査(肛門管内圧検査、HAPC 測定)/直腸粘膜生検/D-キシローステスト/上部消化管(食道・胃・十二指腸)内視鏡/小腸内視鏡/大腸内視鏡/消化管造影検査/瘻孔・膿瘍造影検査/超音波検査/CT/MRI/シンチグラフィ(胆道・肝・リンパ管・肺など)/リンパ管腫(リンパ管奇形)の検査

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
専任講師	1名
助教(専修医を除く)	2名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長 黒田 達夫

診療科副部長	山田 洋平
外来担当医長	山田 洋平
病棟担当医長	加藤 源俊
保険担当医長	加藤 源俊
研修医担当主任	加藤 源俊

2 主な診療実績

呼吸器疾患手術	6.0件
(先天性嚢胞性肺疾患・気管切開など、小児腫瘍を除く)	
上部消化管疾患手術	8.8件
(先天性食道閉鎖症、十二指腸閉鎖、肥厚性幽門狭窄症、腹腔鏡下噴門形成術など)	
下部消化管疾患手術	30.5件
(ヒルシュスプルング病、直腸肛門奇形、人工肛門造設術など)	
門脈胆道系疾患	16.5件
(胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、脾摘、胆道系IVR治療など、肝移植を除く)	
胸壁・腹壁疾患	3.2件
(横隔膜ヘルニア、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、漏斗胸など)	
肝移植・小腸移植(脳死・生体)	4.0件
小児腫瘍(良性・悪性、肝移植を除く)	10.5件
リンパ管疾患	11.7件

*以上、過去6年間の年間平均件数

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 新生児外科

本年度前半は産婦人科・小児科(新生児)と共に、周産期クラスターとして緊急を要する新生児外科疾患に対応した。12月には第56回日本周産期・新生児医学会学術集会を黒田達夫教授が主催し、Web開催ながら多くの参加者を集めた。

■ 小児固形腫瘍

腫瘍専門の小児科医と経験の深い小児外科医や整形外科、脳外科、そして放射線治療・診断ならびに小児癌を専門とする病理医が小児癌の治療のためのチーム(Pediatric Oncology Board)にて、患者を中心とした活動を行っている。本年度はWebカンファレンスに変更し、治療方針などの情報の共有を行った。

また、小児固形腫瘍に関する専門医の育成を目的と

した「未来がん医療プロフェッショナル養成プラン小児がんコース」が開催され、各分野のエキスパートによる講義が行われた。

3月に「第11回信濃町小児がんクラスターWeb講演会」を開催した。

■ リンパ管腫

リンパ管腫は外科的切除、硬化療法が有効で病変を縮小もしくは消失させることが出来るが、約20%は難治性とされる。当科ではリンパ管腫を含むリンパ管疾患に対する治療に力を入れている。

難治性リンパ管疾患、脈管腫瘍に対するシロリムス治療に関する医師主導治験、特定臨床研究を継続して行っている。

■ 小児肝移植・小腸移植

2020年末までに成人と合わせて300例以上の生体・脳死肝臓移植を行い、良好な成績を納めている。小児肝移植においては、術後定期的な画像検査・肝組織検査・抗ドナー抗体検査などを含めた包括的なフォローアップを専門外来で行っている。成長の過程にあわせて、社会支援復帰プログラムやワクチン接種、妊娠時対応・並存疾患の管理など生涯にわたっての管理が可能となっている。

3月には当院初例となる脳死ドナーによる小腸移植を実施した。

整形外科

1 診療体制

■ 対象疾患

<脊椎脊髄外科>

脊髄腫瘍/脊椎腫瘍/脊椎後弯症/側弯症/椎間板ヘルニア(頸椎・胸椎・腰椎)/腰部脊柱管狭窄症/腰椎椎間板ヘルニア/後縦靭帯骨化症(OPLL)/頸椎症性脊髄症/脊椎炎

<肩関節>

反復性肩関節脱臼/腱板損傷/変形性肩関節症/野球肩/上肢の脱臼・骨折

<手肘の外科>

上肢スポーツ障害/関節リウマチ/変形性肘関節症/末梢神経障害/手の先天異常/野球肘/上肢の脱臼・骨折/腱損傷と靭帯損傷

<股関節>

変形性股関節症/急速破壊型股関節症/股関節唇損傷/骨盤骨折/大腿骨頸部骨折/関節リウマチ/特発性大腿骨頭壊死症と寛骨臼形成不全症

<膝関節>

変形性膝関節症/膝靭帯・半月板損傷/骨壊死/反復性膝蓋骨脱臼/下肢骨折/関節リウマチ

<腫瘍>

骨軟部腫瘍(悪性・良性)(原発性・転移性)

■ 検査

骨塩定量検査(BMD; Bone Mineral Density)/椎間板造影・椎間板ブロック/神経根造影・神経根ブロック/関節造影検査/脊髄造影/CT/MRI/PET-CT

■ 専門外来

粗鬆症外来/スポーツ医学総合センターアスリート外来/腫瘍センター骨転移外来/免疫統括医療センター整形部門

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	2名
准教授	2名
専任講師	9名
助教(専修医を除く)	18名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	松本 守雄
診療科副部長	中村 雅也
外来担当医長	岡田 英次朗
病棟担当医長	八木 満
保険担当医長	中山 ロバート
研修医担当主任	鈴木 拓

2 主な診療実績

■ 手術件数

脊椎・脊髄	755件
肩関節・肘関節・手	392件

股関節・膝関節・足	467 件
腫瘍	248 件
四肢骨盤外傷手術	143 件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 膝班

4-5 月は COVID-19 感染拡大の影響で待機可能な慢性疾患手術は原則延期とし、外傷や壊死に対する切断の手術のみを行った。6 月以降は予定手術を再開し最終的には年間 238 件の膝関節手術を行い、前年比-68 件であった。

特徴的な取り組みとしてロボット支援による人工膝関節置換術を実施しており、前十字靭帯を温存した解剖学的な人工膝関節の再建を行っている。若年者には自家培養軟骨を併用した高位脛骨骨切り術等の関節温存手術も行っている。

■ 股関節班

4-5 月は COVID-19 感染拡大の影響で待機可能な慢性疾患手術は原則延期とし、外傷や待機不能な感染の手術のみを行った。6 月以降は予定手術を再開し最終的には年間 270 件の股関節手術を行い、前年比-60 件であった。

人工股関節置換術は一般的な手術として広く行われているが、当院では初回手術ではほとんどの手術に対し筋腱切離を伴わない筋間進入での手術を実施している。また、変形の高度な症例やインプラントの不具合に対する再置換術も多く行っている。

特徴的な取り組みとして前方筋間進入による低侵襲な寛骨臼回転移動術(SPO)を導入し主に若年者に対し関節温存手術を行っている。

■ 脊椎脊髄班

今年の総手術件数は 714 件であった。コロナ禍で前年の 770 件より減少したが、夏以降に手術件数を伸ばし、その影響を最小限にした。その一つの原動力は逆紹介の徹底、地域との WEB 講演会を中心としたコミュニケーションであった。小児から高齢者までの脊柱側弯症を幅広く治療し、186 例の手術を行った。今後、側弯症臨床センターを立ち上げる予定。

脊髄腫瘍に関しては、コロナ禍においても例年と同

等の年間 100 例の手術を行った。脊椎変性疾患に対して低侵襲手術、人工椎間板、椎間板内酵素注入療法などの新しい治療法を取り入れ、331 例の手術を行った。外来部門では遠隔地に在住の患者様に対して、オンライン診療を立ち上げ、今後も有効利用している予定である。

■ 腫瘍班

本年度の合計手術件数は 248 件、初診患者は 429 件であった。COVID-19 感染拡大に伴い、手術件数、初診件数ともに昨年よりも 20%の減となった。しかしながら 6 月以降は予定手術を再開し、コロナの影響を最小限に食い止めることができた。また、外来での取り組みとして、多診療科との連携を積極的に行っている。腫瘍センターでは外来での薬物療法やがんゲノム医療を、母斑症センターでは NF1 や血管奇形の治療、骨転移診療センターでは骨転移の包括的な治療を他科と協力し行っている。

■ 上肢班

COVID-19 の影響により外傷手術が減少し、手術数総数は例年より大きく減少したが、関節リウマチによる上肢機能障害に対する再建手術、上肢人工関節置換術、外傷後変形治療、胸郭出口症候群等の症例数の少ない特殊な疾患に対する治療を精力的に行った。また末梢神経障害に対する内視鏡を用いた低侵襲手術を導入した。外来診療は火曜日および木曜日に手肘専門外来、肩関節専門外来を行っている。関連施設との連携として web カンファレンスを取り入れ、症例検討や勉強会を行った。

リハビリテーション科

1 診療体制

■ 対象疾患

脳卒中/脊髄損傷/神経・筋疾患/悪性腫瘍(癌)/リンパ浮腫/小児疾患/切断/骨関節疾患/心疾患/慢性閉塞性肺疾患/嚥下障害/高次脳機能障害/外傷性脳損傷/関節リウマチ

■ 検査

神経伝導検査、針筋電図/運動誘発電位(MEP)、体性感覚誘発電位(SEP)/ビデオ嚙下造影検査(VF)、ビデオ嚙下内視鏡検査(VE)/蛍光リンパ造影検査

■ 専門外来

装具外来/ボツリヌス療法外来(上下肢痙縮・脳性麻痺・痙性斜頸)/嚙下障害外来/高次脳機能障害外来/痛み診療センター運動療法外来(痛み診療センター)/がんリハビリテーション外来(腫瘍センター)

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
専任講師	2名
助教(専修医を除く)	4名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	辻 哲也
診療科副部長	川上 途行
外来担当医長	石川 愛子
病棟担当医長	川上 途行
保険担当医長	川上 途行
研修医担当主任	森 直樹

[訓練部門]

課長	山澤 美樹
主任	阿部 薫
	上迫 道代

理学療法士	14名
作業療法士	4名
言語聴覚士	3名

*人数に主任を含む

2 主な診療実績

筋電図検査	213件
ビデオ嚙下造影検査	121件
ボツリヌス注射	300件
リハビリテーション実施件数	
心大血管疾患	3,553件
脳血管疾患等	11,647件
廃用症候群	7,995件
運動器	10,886件

呼吸器	2,963件
がん患者	10,166件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ ニューロリハビリテーション

脳卒中の代表的な後遺症として手の麻痺がある。かつては発症後6か月以上経過すると回復が難しいと考えられていたが、近年、治療方法の進歩により、慢性期患者においても、機能回復の報告が増えている。当院では、HANDS療法を行っている。HANDS療法は、随意運動介助型電気刺激装置(IVES)と手関節固定装具を1日8時間装着する治療法で、一般的に三週間の入院で治療を行う。IVESとは、特殊な電気刺激の装置で麻痺した筋肉の微弱な活動を電極で感知し、その活動に応じた電気刺激を麻痺した筋肉に与える携帯型の装置で、手関節固定装具は手首を固定して手を機能的に良い位置に保つことで、麻痺した上肢の筋緊張を弱め、より一層動かしやすくする働きがある。また、HANDS療法以外にも、運動イメージと電気刺激を組み合わせた新たな治療方法や、日常生活での麻痺手の使用をより促進するための修正CI療法など、上肢に対する先進的なリハビリテーション治療を行っている。

本年度は、上肢リハビリテーションの新しいロボット、CoCoroe PR2を導入した。

■ 東京都高次脳機能障害者支援普及事業-専門的リハビリテーション充実事業

当科では、東京都からの委託をうけ、区西部圏域(新宿区・中野区・杉並区)において、高次脳機能障害の理解と支援の充実を目指す事業を行っている。高次脳機能障害に対しては、医療・行政・福祉・介護、多くの分野からの支援が必要である。それぞれの支援者が、より深い高次脳機能障害の理解のもと、強い連携で支援できるよう、研修会や地域支援者との連絡会を定期的に行っている。

本年度は、言語聴覚士の講師を招き、高次脳評価の勉強会を開催した。

形成外科

1 診療体制

■ 対象疾患

きずあと・ケロイド・瘢痕拘縮/褥瘡・難治性潰瘍
/顎顔面の変形/口唇口蓋裂/頭蓋縫合早期癒合症
/眼瞼下垂/耳介の形態異常/外鼻変形/顔面の外傷や骨折/顔面神経麻痺/頭頸部再建/腫瘍切除後再建/乳房再建/巨大色素性母斑/血管腫・血管奇形/リンパ浮腫/多指症・合指症

■ 専門外来

ケロイド外来/レーザー外来/口蓋裂機能外来/歯列・咬合外来/頭蓋顎顔面変形外来/血管腫・血管奇形外来/リンパ浮腫外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
専任講師	4名
助教(専修医を除く)	2名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	貴志 和生
診療科副部長	矢澤 真樹
外来担当医長	岡部 圭介
病棟担当医長	矢澤 真樹
保険担当医長	荒牧 典子
研修医担当主任	酒井 成貴

2 主な診療実績

■ 手術件数

外傷	19件
先天異常	146件
腫瘍	239件
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	46件
難治性潰瘍	21件
炎症・変性疾患	31件
美容	26件
その他	31件

3 その他の活動実績・取り組み等

当科は、主に患者 QOL を良好にすることを旨とする科であるので、予定手術と待機可能な手術が多い。本年度は、新型コロナ蔓延の影響で病院として入院制限、手術制限を行わざるを得ず、既に手術が予定されていた患者への医師からの直接の事情説明でご納得、ご協力いただき、乗り切ることができた。また、科としても軽症者診察・ワクチン投与への協力を行った。

■ 頭頸部再建・顔面神経麻痺

コロナ禍で診療は制限されたが、進行癌となって再建を要する手術は増加した。顔面神経麻痺の再建については、もともと急ぐケースが少なく、マスク生活であることもあって、待機するケースが多かった。

■ 母斑

切除術、植皮術、培養表皮移植術など、症例に応じ、整容面を重視した治療を行っている。血管腫：血管腫・血管奇形外来の患者数は、初診・再診とも増加傾向であり、症例に応じて、手術治療・血管内治療(硬化療法・塞栓療法)を行い、治療件数も増加している。

■ 唇顎口蓋裂

新型コロナ感染症の流行に伴う2020年4月7日の緊急事態宣言発出により形成外科の予定手術の大部分は延期としたが、口唇口蓋裂、特に口唇裂の初回手術については、手術時期が術後の傷あとに大きく影響すること、また予定通りに手術を行うことが患者やご家族の精神的負担を軽減するためには必須であると考えられることから、厳密な感染対策のもと極力予定通りに手術を行った。病院からの度々のご連絡や予定の調整など、患者ご家族にはご迷惑・ご心配をおかけしたが、皆様のご協力により大きな問題なく治療を進めることができた。

■ 頭蓋顎顔面

コロナ禍による外出自粛により顔面外傷は激減した。手術室も手術を制限する中、適正手術時期のある頭蓋縫合早期癒合症はその時期を逃すことなく治療を遂行できた。

■ 眼窩形成

眼窩・眼瞼の周囲は整容面に直結する重要な部位である。当科では小児から高齢者に至るまで幅広く加

療を行っている。本年は手術制限のため延期を余儀なくされたが、その後はテレワークが進むにつれて、ダウンタイムが取れることもあり患者の数も増加傾向にある。これまで以上に注力していきたい。

■ 四肢体幹

コロナ禍において皮膚良性腫瘍やケロイド、乳房再建など待機可能な手術は延期した。一方、緊急性の高い骨軟部及び皮膚悪性腫瘍切除後の再建や重症虚血肢の切断・再建は関係各科と連携し治療に当たった。

■ リンパ浮腫

先進医療・臨床研究への取り組みとして、光超音波イメージングを用いた特定臨床研究に関わる活動を行った。

小児科

1 診療体制

■ 対象疾患

<神経>

けいれん/てんかん/発達遅滞/頭痛/神経痛/中枢神経系の感染症/脳血管障害/末梢神経疾患/筋疾患

<内分泌・代謝>

低身長/高身長/性分化異常/原発性無月経/小陰茎/停留精巣/尿道下裂/ターナー症候群/クライソフェルター症候群/先天性骨疾患/先天性代謝異常/小児生活習慣病

<遺伝性疾患>

先天異常症候群/未診断疾患

<精神保健>

神経性食欲不振症/神経症/心身症/小児期うつ病/統合失調症/虐待・育児不安・心的外傷後ストレス障害

<腎臓>

学校検尿異常(血尿、蛋白尿)/腎炎/ネフローゼ/腎不全/先天性腎尿路異常/尿路感染症/尿細管疾患/水腎症/嚢胞性腎疾患/高血圧/夜尿症/全身性エリテマトーデス

<新生児>

早産児/低出生体重児/合併症のある新生児

<心臓>

先天性心疾患/後天性心疾患/不整脈/肺動脈性肺高血圧症/川崎病

<血液>

白血病/リンパ腫/神経芽腫/骨肉腫/横紋筋肉腫/ユーイング肉腫/肝芽腫/再生不良性貧血/血小板減少性紫斑病/血友病 A/血友病 B/脳腫瘍

<呼吸>

長引く咳・鼻汁/喘息/先天性喘鳴/喉頭軟化症/気管狭窄・軟化症/気管支分岐異常/副鼻腔炎/気管支炎・肺炎/誤嚥/閉塞性睡眠時無呼吸症候群/嚢胞性肺疾患/慢性呼吸不全

<感染>

小児感染症一般/当院での肝移植前後のワクチン接種

<外来総合>

便秘/夜尿等の日常的な健康問題/思春期の健康問題/予防接種・成長・発達・育児・集団生活等に関する相談

<アレルギー>

食物アレルギー/アトピー性皮膚炎/アレルギー疾患全般

<急性期集中治療>

呼吸・循環・神経等主要臓器の機能不全がある、または起こる可能性が高い患者(原因疾患を問わず)

■ 検査

長時間ビデオ脳波/頭部画像検査/性の決定・分化に関与する疾患および小児副腎疾患を含む小児期発症内分泌疾患の遺伝子解析/尿ステロイドプロファイルによる性ホルモンの一括分泌動態評価および各種内分泌負荷試験/エクソーム解析・全ゲノム解析・RNA解析を含む各種遺伝学的検査/発達検査/知能検査/腎生検/24時間血圧モニタリング/心エコー検査(出生前を含む)/心臓カテーテル検査/心臓電気生理学検査/運動負荷試験/心

臓 MRI 検査/心臓核医学検査/喉頭・気管支内視鏡検査/食物負荷試験/皮膚検査/超音波検査/CT 検査/MRI 検査/喉頭・気管支内視鏡検査/ビデオ脳波検査など（他チームと連携して実施）

■ スタッフ構成（2021年3月時点）

教授	3名
准教授	2名
専任講師	5名
助教（専修医を除く）	17名

*専任・常勤のみ（有期を含む）

<院内役職者>

診療科部長	高橋 孝雄
診療科副部長	山岸 敬幸
外来担当医長	石井 智弘
病棟担当医長	嶋田 博之
新生児担当医長	飛弾 麻里子
保険担当医長	武内 俊樹
研修医担当主任	新庄 正宜

2 主な診療実績

■ 外来受診患者延べ人数

神経	2,026人
内分泌・代謝	3,063人
心臓	3,442人
新生児	1,309人
感染症	203人
血液	584人
精神保健	2,796人
外来総合	791人
アレルギー	1,057人
腎臓	630人
呼吸	295人
小児科一般	2,582人
COVID-19 PCR 検査外来	1,156人

3 その他の活動実績・取り組み等

当科は、すべての子どもたちの健康のため、包括的・全人的な医療を提供することを目標としている。小児科医は子どもの総合医であり、子どもの代弁者で

ある、という理念のもとに、疾病や障害を抱えながら生きる子どもたちを、家庭や社会との関わりの中で、ひとりの人間（ひと）としてとらえ、疾病だけでなく子どもと家族の“こころ”も診る医療を実践している。当院小児科には全国でも有数の13のサブスペシャリティー領域の専門診療班があり、その連携を通じて、複数の病態を有する子どもから移行期の成人までの包括的な医療を提供している。以下に、本年度の各専門診療班の実績を報告する。

■ 神経班

遺伝性神経疾患の診療では、脊髄性筋萎縮症患者に対して最新の核酸医薬品および遺伝子治療薬による治療を行った。さらに、母斑症センターにおける神経皮膚症候群、小児頭蓋顔面（クラニオ）センターにおける頭蓋縫合早期癒合症の診療を推進している。

■ 内分泌・代謝班

外来新規患者は500余名で、入院患者は100余名であった。前半はパンデミックの影響を受けたが、後半は診療実績を回復できた。また、前年度より我が国初の性分化疾患(DSD)センターを運営し、診療科横断的な医療を提供している。

■ 遺伝班

小児遺伝性疾患の患者と家族に対し、臨床遺伝専門医資格を有する医師による国際水準の専門的医療を提供している。倫理的問題に配慮し、必要に応じて、最新・最先端の検査および包括的な医療管理を提供している（臨床遺伝学センターの項参照）。

■ 精神保健班

医師3名、心理士2名の診療体制で、コロナ禍を念頭に置いた周産期・他科小児領域を含む子どもと家族の包括的な精神診療、児童虐待防止のための地域連携を強化した。また、コロナ禍における医療従事者に対するメンタルヘルスケアを行った。

■ 腎臓班

長らく常勤医師が不在であったが、本年度から常勤医師1名が勤務するようになり、腎生検等の専門的な検査を再開した。引き続き尿路感染症やネフローゼ症候群、慢性腎炎、慢性腎臓病患者等の小児腎臓疾

患の外来・入院診療を行っていく予定である。

■ 新生児班

周産期病棟 COVID-19 マニュアル初版を2月に作成した。病院の面会制限に伴いオンライン面会を4月に開始した。母子感染率の情報が不十分な中、罹患母体の新生児の入院管理を安全に行った。体重297gの超低出生体重児がNICUに入院し、7か月後元気に自宅に退院した。

■ 心臓班

あらゆる小児循環器疾患を診療し、コロナ禍で制限されたが、心臓カテーテル85件(治療20件)、心エコー1800件、心疾患の術前術後を含む病棟管理100件以上を数えた。当院特有の先進治療として、心疾患術後の難治性蛋白漏出性胃腸症に経皮的肝内リンパ塞栓術を行い、全例で良好な結果を得た。

■ 血液・腫瘍班

本年度は血液腫瘍15例、固形腫瘍7例、脳脊髄腫瘍9例の治療、同種造血細胞移植1例、CART療法3例の診療実績があった。JCCGの多施設共同臨床研究に参加した。関東甲信越地域小児がん連携病院、東京都小児がん診療病院として小児がん診療を行った。

■ 呼吸器班

喘鳴の原因精査、気管切開患者の管理などを目的に積極的に内視鏡検査を行っている。なお下気道の検査は、小児集中治療医と協力し小児ICUで実施している。本年度における内視鏡検査の件数はのべ84件であった。

■ 感染班

専門診療医が2名に増員された。各班・部門と協力し、換気システム等を改造した小児病棟で当初からCOVID-19の患者を収容しつつ、一般病棟への感染持ち込みを防止した。小児重症感染症、手術関連感染症、肝移植患者へのワクチン接種等も継続する。

■ 外来総合診療班

夜尿症、便秘症の外来を新たに開設し、力を入れている。日常的な症状(発熱、咳、鼻汁、腹痛、頭痛など)、予防接種、育児、発達など、様々な健康問題の相談窓口として、各分野専門家や医療/教育/福祉資

源と連携を取り、広い視点で診療を進めている。

■ 免疫・アレルギー班

当初はCOVID-19感染拡大の影響で、食物経口負荷試験入院患者の縮小を余儀なくされた。慶應アレルギーセンターとして、成人を含めた院内の食物アレルギー患者のコンサルテーションを担当している。前年度に引き続き小児科関連病院と共同で臨床研究を行っている。

■ 急性期集中治療班

小児ICUの本格稼働開始から2年目を迎えた。担当医師が2名から3名に増員され、診療体制が強化された。他の班や診療科と協働し、前年度を上回る年間230余名のICU管理をおこない、この中にはCOVID-19小児例も含まれたが、治療成績は全例良好だった。

産科

1 診療体制

■ 対象疾患

ハイリスク妊娠、胎児異常、出生前診断、着床前診断、不育症、不妊症、月経異常、正常分娩

将来妊娠を考えている方に対する子宮内膜症や子宮筋腫等の治療まで、幅広い分野を対象としている。産科麻酔の専門の医師も加入し、無痛分娩のサポートにも力を入れている。

内科・外科合併症を有する方のみならず、健康な方の妊娠分娩管理も積極的に受け入れている。

■ 検査

不妊症・不育症関連検査/内分泌検査/子宮鏡・子宮卵管造影/超音波・CT-MRI検査(胎児含む)/着床前診(PGT)/出生前診断(NIPT、羊水検査)

■ スタッフ構成 (2021年度3月時点)

教授	1名
准教授	2名
専任講師	5名
助教(専修医を除く)	16名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

*助教は産婦人科

<院内役職者>

診療科部長	田中 守
診療科副部長	浜谷 敏生
外来担当医長	内田 浩
病棟担当医長	落合 大吾
保険担当医長	内田 明花
研修医担当主任	水口 雄貴

2 主な診療実績

■ 不妊症治療

体外受精	633 件
人工授精	318 件

■ 分娩

分娩件数	472 件
うち帝王切開	235 件
出生児数	467 人
うち早期産児	71 人
低出生体重児	89 人
多胎児	28 人
死産児数	20 人

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 無痛分娩施行体制の整備

安全・安心な無痛分娩施行体制を整備し、総分娩件数の増加を図るため、2020年7月に産科麻酔担当の専従麻酔医を採用した。無痛分娩枠の増設のほか、ある程度の時間外対応や、事前設定枠超過分の無痛分娩も、可能な範囲で対応可能となった。実際に2021年1月以降の分娩予定者では毎月約20名の無痛分娩希望患者が来院しており、今後さらなる拡充を検討している。

■ 遠隔妊婦健診の導入

COVID-19感染拡大に伴い、妊婦健診に通院することによる感染リスク回避のため、MeDaCa/ビデオ通話機能、宅内健康情報サービス(中電クラウド)、遠隔胎児心拍数モニタリング(iCTG)を用いて、患者問診、血圧管理、胎児管理を行う妊婦健診システムを導入した。

■ 精神科との連携

産科、精神科、小児科母子保健班で協議の上、周産期メンタルヘルス外来が開設され(精神科、月曜午後)、精神疾患合併妊娠への対応強化を行った。また助産師による妊娠中のメンタルヘルススクリーニングや産後2週間健診を開設した。

■ 体外受精の中止・再開と三密回避

4-5月はCOVID-19感染拡大の影響で生殖外来の診療を制限したため、卵巣刺激中の患者の採卵や胚移植を急遽中止するなどの影響が生じた。再開後は外来での三密回避のため、卵巣刺激注射薬の自己注射の導入や、体外受精学級のオンライン動画配信を行った。

■ がん・生殖外来の拡充

専門外来としてがん・生殖外来を拡充し、悪性腫瘍加療前の生殖細胞採取保存につき院内体制を構築し、これまで他院に流れていた患者へのサービス向上基盤を整備した。

■ 着床前胚染色体異数性検査(PGT-A)実施体制の整備

日本産科婦人科学会主導の特別臨床研究「着床前胚染色体異数性検査(PGT-A)の有用性に関する多施設共同研究」へ参画するための医学部倫理委員会の倫理審査を2020年10月に完了し、PGT-A実施体制の整備を行った。

婦人科

1 診療体制

■ 対象疾患

<婦人科悪性腫瘍>

子宮頸癌/子宮体癌/卵巣癌/卵管癌/腹膜癌/絨毛癌/外陰癌/膣癌/その他の悪性腫瘍

<婦人科良性腫瘍>

子宮筋腫/卵巣嚢腫

<その他>

不正子宮出血/月経困難症/更年期障害/各種感染症/骨盤腹膜炎/クラミジア感染症/子宮内膜症/

子宮脱/子宮奇形

■ 検査

コルポスコープ診/細胞診/組織診/子宮鏡検査/超音波検査

■ 専門外来

健康維持外来/子宮頸部腫瘍外来/子宮体部腫瘍外来/卵巣腫瘍外来/子宮鏡外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	1名
専任講師	6名
助教(専修医を除く)	16名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

*助教は産婦人科

<院内役職者>

診療科部長	青木 大輔
診療科副部長	阪埜 浩司
外来担当医長	山上 亘
病棟担当医長	森定 徹
保険担当医長	富永 英一郎
研修医担当主任	野上 侑哉(教室統括)

2 主な診療実績

子宮頸部悪性腫瘍(治療件数)	91件
子宮体部悪性腫瘍(治療件数)	108件
卵巣・卵管・腹膜悪性腫瘍(治療件数)	61件
腹腔鏡下手術件数(良性・悪性含む)	712件
レーザー蒸散術(子宮頸部異形成・日帰り手術)	144件

3 その他の活動実績・取り組み等

4-5月はCOVID-19感染拡大の中でも、電話診療も導入し、感染予防に努めながら悪性腫瘍に関しては待機することなく積極的に取り組む体制を維持できた。

■ 低侵襲手術

従来の腹腔鏡下手術に加え、2018年よりロボット支援下手術が保険収載され、当科でも導入を進めている。年間100例以上のペースで実績を積んでいる。また、高難度新規医療技術である腹腔鏡下広汎子宮

全摘出術および腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術を行える診療体制を整備している。

■ 子宮体癌

低侵襲手術として腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術を積極的に行い(年間60例程度)、患者への負担の小さい治療をすすめている。また、初期子宮体癌における妊孕性温存療法も当院では積極的に行い、年間30-40例程度の全国でも有数の治療数の実績を積んでいる。

■ 子宮頸癌

子宮頸部異形成に対し、レーザー蒸散術を積極的に施行している。この治療は外来手術・無麻酔・また流産のリスクを上げない治療であり、他院からも多くの患者を紹介いただいている。また、初期子宮頸癌に対する広汎子宮頸部摘出術も年間15例程度行い、妊孕性に配慮した治療を行っている。

再生医療である腫瘍浸潤リンパ球療法(TIL療法)が先進医療Bとして2021年1月に認可された。従来、治癒不可能とされてきた進行再発子宮頸癌に対して長期の無病生存が期待できる治療法であり、我が国で唯一の施行可能施設として、被験者募集を行っている。

■ 卵巣癌

卵巣癌では薬物療法の選択肢が近年増加しており、PARP阻害薬であるニラパリブが2020年9月に保険収載された。従来のBRCA1/2遺伝子変異の有無に加え、HRD(homologous recombination deficiency)の検査が治療方針にかかわることとなり、その検査であるmyChoice検査の体制や、臨床遺伝センター外来との連携による診療体制を整えている。また遺伝性乳癌卵巣癌症候群センターとも連携し、卵巣癌の患者へ、複数科で連携した多方面からの診療を行っている。

■ がんゲノム診療

2019年6月よりがん遺伝子パネル検査が保険収載され、他院の紹介患者も含めて積極的ながん遺伝子パネル検査を導入している。当院ではがんゲノム医療中核拠点病院として、エキスパートパネルも定期

的に行い、進行再発癌に対する有効な薬剤を探し、治療や患者申し出療養に積極的に組み入れするようにし、従来治療選択がない方にも様々な提案ができるように努めている。

■ 健康維持外来

当外来では閉経期女性の骨量減少/骨粗鬆症治療に重点を置いており、骨粗鬆症管理に有用な TBS (Trabecular bone score) の導入を進めている。骨質の評価として期待されている TBS は骨折リスクを詳細に検討する点において有用であり、導入による今後の正確な診断・管理が期待されている。

■ 臨床研究・治験

通称受け皿試験と呼ばれる、患者申し出療養制度の下、がん遺伝子パネル検査後の既承認薬を適応外使用する治療を積極的に 2021 年 3 月より当院で開始した。これにより従来の保険治療や治験がない患者への治療選択肢の提案を行っている。また、JCOG (日本臨床腫瘍研究グループ) JGOG (婦人科悪性腫瘍研究機構) といった国内の臨床研究グループや海外との国際共同臨床研究に参加し、多数の臨床試験を当院婦人科で行っている。

■ セカンドオピニオン

当科ではセカンドオピニオンに力を入れており、特に子宮体癌や子宮頸癌の妊孕性温存についてのご依頼を多数いただいている。本年度は年間約 40 件行っており、他院の患者に、最新の知見に基づいた診療や治療方針の提案を行っている。

眼科

1 診療体制

■ 対象疾患

屈折異常/白内障/ドライアイ/緑内障/水疱性角膜症/円錐角膜/涙道閉塞症/網膜剥離/糖尿病網膜症/黄斑疾患/流行性角結膜炎/近視(進行抑制)/眼瞼下垂/眼瞼腫瘍/眼窩腫瘍/加齢黄斑変性/アレルギー性結膜炎/眼感染症全般/斜視/弱視/小児先天性疾患

■ 検査

視野検査(ハンフリー視野計、ゴールドマン視野計)/OCT(光干渉断層計)検査(前眼部、後眼部)/蛍光眼底造影検査(FAG、ICG)/眼圧検査(非接触型、接触型、アイケア手持眼圧計)/広角眼底写真検査(オプテス社製カリフォルニア)/電気生理検査(VEP、ERG)

■ 専門外来

網膜硝子体外来/角膜外来/ドライアイ外来/神経眼科外来/アレルギー外来/緑内障外来/屈折矯正外来/白内障外来/近視外来(学童近視外来、強度近視外来)/眼形成眼窩外来/メディカルレチナ外来/網膜変性外来/コンタクト外来/円錐角膜外来/小児眼科/セカンドオピニオン外来

■ スタッフ構成 (2021 年 3 月時点)

教授	2 名
准教授	1 名
専任講師	7 名
助教 (専修医を除く)	7 名

*専任・常勤のみ (有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	根岸 一乃
診療科副部長	坪田 一男
外来担当医長	結城 賢弥
病棟担当医長	篠田 肇
保険担当医長	内田 敦郎
研修医担当主任	内野 裕一

2 主な診療実績

水晶体再建術 (白内障手術)	1,417 件
網膜硝子体手術	323 件
緑内障手術	292 件
網膜光凝固術	80 件
角膜移植術	47 件

3 その他の活動実績・取り組み等

当科では、大学病院としてすべての眼疾患に対応できる診療体制を整えている。外来診療は眼科一般診療と特殊外来があり、COVID-19 対策を十分に取り

ながら検査及び診察を行っており、定期開催される症例検討カンファレンスもすべて Web に移行した。

また、網膜剥離、角膜穿孔、緑内障発作などの緊急疾患には専門医が即時対応している。手術、薬治などは必要に応じて入院の上で治療が行なわれている。病診連携を主軸とし、手術加療後は紹介元の医師と連携を取りながら、患者様の外来通院負担をできるだけ軽減し、適切な治療を継続している。

大学病院としての先進医療としての取り組みとしては、「水疱性角膜症に対する iPS 細胞由来角膜上皮代替細胞移植の安全性及び有効性を検討する探索的臨床研究」に関する臨床研究を今後実施する予定である。また、遺伝性網膜変性症に対する遺伝子導入治療の臨床応用を目指し、準備を進めている。

皮膚科

1 診療体制

■ 対象疾患

天疱瘡・類天疱瘡・後天性表皮水疱症など/皮膚悪性腫瘍(悪性黒色腫、乳房外パジェット病、有棘細胞癌、メルケル細胞癌、血管肉腫、菌状息肉症、皮膚リンパ腫など)/薬疹/脱毛症/アトピー性皮膚炎/乾癬/皮膚膠原病(皮膚エリテマトーデス、シェーグレン症候群、皮膚筋炎、皮膚血管炎など)/遺伝性皮膚疾患/爪の異常/しみ・あざ

■ 検査

薬剤内服チャレンジテスト/皮膚生検/プリックテスト/パッチテスト/ダーモスコピー検査/光線過敏試験/超音波検査/発汗試験/センチネルリンパ節生検(SPECT)/遺伝子検査(様々な遺伝性疾患、腫瘍)

■ 専門外来

静脈外来/薬疹・アレルギー外来/アトピー外来/パッチテスト外来/皮膚膠原病外来/爪外来/光線外来/腫瘍外来/アトピー指導外来/免疫病外来/遺伝外来/真菌外来/しみ・あざレーザー治療外来/毛髪外来/ダーモスコピー外来/乾癬外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	2名
専任講師	5名
助教(専修医を除く)	8名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	谷川 瑛子
診療科副部長	久保 亮治
外来担当医長	種瀬 啓士
病棟担当医長	船越 建
保険担当医長	齋藤 昌孝
研修医担当主任	齋藤 昌孝

2 主な診療実績

初診患者数	1,079人
再診患者数	35,699人
手術件数	277件
うち皮膚悪性腫瘍手術	83件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ アトピー(性皮膚炎専門)班

アトピー性皮膚炎に対しては2018年に承認された抗IL-4/13受容体抗体製剤であるデュピルマブに続き、2020年に外用JAK阻害薬のデルゴシチニブ軟膏と内服JAK阻害薬であるバリシチニブが相次いで承認され、治療の選択肢の幅が大きく広がった。内服JAK阻害薬を投与できる診療体制を整え、適応のある患者に導入した。また、慶應アレルギーセンターに所属する診療科として、他科との連携を意識した診療も行った。同センターでは3ヶ月に一度のカンファレンス(勉強会)を開催している。

■ 乾癬班

乾癬およびその類縁疾患に対しては、2010年に抗TNF α 阻害薬であるインフリキシマブが承認されてから毎年のように新しい薬剤が承認されており、現時点で全身療法として治療に使える薬剤は生物学的製剤11種類、内服薬4種類にまで増加し、治療の選択肢の幅も大きく広がった。これら全ての薬剤を投

与できる体制を維持し、患者の病態やニーズにあわせた薬剤を選択して治療導入を行った。また、乾癬患者は関節症状や代謝異常等、他診療科が関与する合併症を持つ方が多く、該当者はリウマチ膠原病内科や内分泌代謝内科と連携して総合的に治療をするを進めることを意識した診療体制の構築に努めた。

■ 腫瘍班

悪性黒色腫や乳房外パジェット病をはじめとした皮膚悪性腫瘍に迅速かつ適切に対応できるよう取り組んだ。標準治療の提供とそのための体制整備がなされている。新規治療法の開発としての治験など、臨床試験に積極的に取り組み、悪性黒色腫を対象とした先進医療、乳房外パジェット病を対象とした先進医療・患者申出療養、有棘細胞癌などを対象とした治験を実施した。

■ 汗チーム

汗外来は2019年10月に開設された、専門外来としては最も新しい外来である。汗外来は、原発性局所多汗症および、多汗症を合併する腋臭症を対象疾患としている。外用治療・外科的治療を含めた集学的治療を横断的に検討し、腋臭症・多汗症患者のための最善の治療の提示・提供を行っている。汗外来開設にあたり、マイクロ波を利用した腋窩多汗症の治療機器を導入した。腋窩の多汗の原因となる汗腺の大部分が存在する真皮深層から皮下組織浅層をマイクロ波で加熱し、汗腺を焼灼・凝固し、発汗を抑制する。汗腺を焼灼・凝固するため、高い効果が得られ、長期的に効果が持続する。汗外来における臨床研究として、外来で得られた知見をもとに、腋臭症の発症機序に即した新規治療を開発することを目指している。患者の腋臭スコアと微生物プロファイル及び腋臭物質の評価、並びに患者内の経時変化の評価を行い、腋臭症に対する皮膚常在細菌叢、各種腋臭物質の寄与を探索的に検討している。

■ 毛髪チーム

毛髪外来は、主に円形脱毛症・瘢痕性脱毛症・男性型脱毛症・女性型脱毛症を対象としている。各疾患の病勢・重症度を多角的に評価し、最適な治療法の提

示・提供を行っている。特に円形脱毛症では、脱毛面積の広い重症患者が数多く受診され、ステロイド外用療法・ステロイド局注療法・ステロイドパルス療法・局所免疫療法・エキシマライト療法などを組み合わせ治療に当たっている。本年度の当初は、コロナ感染の拡大に伴い、外来患者数が半減した。しかし緊急事態宣言下でも、脱毛面積が広範囲にわたる重症の円形脱毛症患者の受診は増加し、重症の円形脱毛症患者の治療のニーズを強く感じた。

重症度の円形脱毛症患者の治療成績は現在良くないが、海外では病態に即した生物学的製剤が開発され、高い治療効果が示されている。特にJAK阻害剤の治療成績は良好であり、今後、円形脱毛症に対する治療戦略も変化して行くと感じている。

■ 薬剤・食物アレルギー班

アナフィラキシーや蕁麻疹といった即時型アレルギーや、いわゆる薬疹といった遅延型アレルギーの診療を行っている。2021年2月より始まった新型コロナウイルスワクチン接種に関連した副反応に対応すべく、院内での対応チームの一員としても対応に当たった。

■ 自己免疫水疱症班

難治性の天疱瘡、類天疱瘡を中心に診療を継続している。本年度はステロイド治療抵抗性の天疱瘡患者を対象としたリツキシマブの医師主導治験が終わり、患者申出療養制度でリツキサン投与を行うなど、最先端の治療を患者に届けてきた。市民向けの公開講座「天疱瘡・類天疱瘡セミナー」を年に1回実施しており、2021年2月27日にweb開催した。

■ 遺伝性皮膚疾患チーム

遺伝外来では、遺伝性皮膚疾患を疑う患者の精査、加療、フォローアップをしている。また、当院母斑症センターの連携科として各種神経皮膚症候群の診療を行っている。本年度は、71症例(両親を含めて125サンプル)について遺伝学的解析を行い、必要症例には遺伝カウンセリングを施行した。また、2019年に表皮水疱症に対して保険適応となったジェイスの培養表皮を用いて、当科通院中の最重症表皮水疱症の

患者に対し、復帰回帰変異を起こした皮膚による培養表皮移植術を施行した。

■ 爪疾患チーム

爪外来では、爪疾患に関する知識と臨床経験が豊富な医師が中心となって、巻き爪や陥入爪などのフットトラブルに対するケアや治療、グロムス腫瘍などの良性腫瘍やメラノーマなどの悪性腫瘍の診断と治療、さらには爪乾癬や爪扁平苔癬などの炎症性疾患の診断と治療に特に力を入れている。国内他施設では診断に至らず、適切な治療を受けられなかった患者の紹介が年々増加している。本年度は、我々が開発に深く関わった巻き爪の矯正具（巻き爪マイスター®）の販売開始直後であったが、全国の病院ならびにクリニックでの採用が徐々に拡大していった。なお、近々予定されている爪軟化剤の治験が順調に進めば、矯正具との併用によって巻き爪治療は大きな進化を遂げることになり、来年度以降も我々が中心となって積極的に取り組んでいきたい。

■ 皮膚膠原病チーム

様々な膠原病に伴う難治性皮膚症状の診断と治療に取り組んでいる。皮膚症状の改善だけでなく、患者の QOL 向上を目指して、病態に最も適した既存治療法の工夫と生物学的製剤を含む最新治療を積極的に導入して良好な結果を得ている。本年は COVID-19 感染拡大の影響を受け、患者数の減少が見られた。現在血管炎を含む皮膚疾患の非侵襲的診断法の開発を目指して新たな臨床研究に取り組んでいる。今後難治性 SLE/CLE の皮膚病変に対する新規治療薬の治験に参加予定である。

■ 今後の目標

世間のニーズに応えるべく、多汗症治療機器として新規に導入したミラドライによる治療提供体制の拡充を行いたい。また、皮膚悪性腫瘍や爪疾患の患者の紹介受診が増えており、これらに対応できるよう専門外来を増設し、受診しやすい体制の構築に努めたい。そして、次年度も安全・安心な医療の提供を第一に心がけていきたいと考えている。

泌尿器科

1 診療体制

■ 対象疾患

腎癌/腎盂癌/尿管癌/膀胱癌/前立腺癌/精巣癌/副腎腫瘍/腎不全(腎移植含)/尿路感染症/尿路結石/神経因性膀胱/前立腺肥大症/尿失禁/骨盤臓器脱/不妊症/勃起不全/男性更年期障害/先天性水腎症/膀胱尿管逆流/尿道下裂/停留精巣/性分化疾患/総排泄腔遺残/総排泄腔外反/精巣捻転症/尿道外傷

■ 検査

静脈性尿路造影検査/逆行性腎盂尿管造影検査/排尿時膀胱尿道造影検査/逆行性尿道造影検査/尿流動態検査/膀胱尿道鏡検査/前立腺超音波検査/前立腺針生検

■ 専門外来

腎移植外来/膀胱腫瘍外来/前立腺腫瘍外来/排尿機能外来/下部尿路機能外来/生殖機能外来/男性機能外来/小児泌尿器・尿路再建外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	2名
専任講師	4名
助教(専修医を除く)	11名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	大家 基嗣
診療科副部長	浅沼 宏
外来担当医長	小坂 威雄
病棟担当医長	水野 隆一
保険担当医長	森田 伸也
研修医担当主任	武田 利和

2 主な診療実績

前立腺摘出術(全てロボット支援)	82件
前立腺小線源療法	50件
腎部分切除術	29件

うちロボット支援	22 件
副腎摘除術（全て腹腔鏡下）	22 件
経尿道的前立腺手術 （TURP・HoLEP・TUEB・CVP）	54 件
尿道形成術	44 件

3 その他の活動実績・取り組み等

当科では、泌尿器癌症例、排尿障害症例、小児泌尿器科疾患症例等に対して高度な医療を提供するための取り組みを行っている。

■ 泌尿器癌

泌尿器癌症例に対しては、ロボット支援手術、腹腔鏡手術といった低侵襲治療を提供している。ロボット支援下の前立腺摘除術、腎部分切除術、膀胱全摘除術など多くの疾患に施行可能となっている。また、最新の抗癌剤や分子標的薬を用いた治療、あるいは遺伝子パネル検査などを積極的に行っている。進行性腎細胞癌に対するアベルマブ、ペンブロリズマブ、カボザンチニブの使用が可能になった。また、多くのグローバル治験に参加していることから幅広い治療選択肢が可能となっている。

■ 排尿障害

CVP レーザー機器の導入によってより低侵襲な前立腺蒸散手術を迅速に提供できる体制が構築された。抗凝固薬内服中の方への治療が可能となっている。

■ 小児泌尿器科

小児科と連携した小児泌尿器科疾患への対応が確立されている。ロボット支援下の腎盂形成術を導入し、より繊細な手術が可能となった。

■ その他

慢性腎臓病に対する腎移植術など、COVID-19 下であっても多様な泌尿器疾患に対応できる専門家が先進的な医療を提供できる体制を構築している。

耳鼻咽喉科

1 診療体制

■ 対象疾患

中耳炎/耳硬化症/側頭骨腫瘍/聴神経腫瘍/頭頸部癌/唾液腺腫瘍/声帯の病気/めまい/副鼻腔炎/アレルギー性鼻炎/先天性耳瘻孔/小児の顔面・頸部疾患(正中頸嚢胞・側頸嚢、梨状窩嚢)/外耳炎/耳小骨奇形/外耳道閉鎖症/耳管開放症/突発性難聴/低音障害型感音難聴/メニエール病/騒音性難聴/遺伝性難聴/先天性難聴/聴器癌/鼻出血/鼻中隔彎曲症/肥厚性鼻炎/術後性頬部嚢胞/嗅覚障害/鼻副鼻腔腫瘍/アデノイド増殖症/扁桃肥大/急性咽頭炎/急性扁桃炎/扁桃周囲炎/習慣性扁桃炎/扁桃周囲膿瘍/急性声帯炎/急性喉頭蓋炎/喉頭浮腫/喉頭蓋嚢胞/喉頭肉芽腫/反回神経麻痺/痙攣性発声障害/喉頭癌/喉頭白板症/喉頭血管腫/喉頭奇形/喉頭狭窄/喉頭異物/喉頭外傷/嚥下障害/咽喉頭異常感症/上顎癌/舌癌/口腔底癌/上咽頭癌/中咽頭癌/下咽頭癌/原発不明癌頸部転移/甲状腺癌/耳下腺癌/顎下腺癌/頭頸部悪性リンパ腫/副咽頭間隙腫瘍/頸動脈小体腫瘍/頸部神経鞘腫/ガマ腫/外リンパ嚢/前庭神経炎/ベル麻痺/ラムゼイ・ハント症候群/睡眠時無呼吸症候群/喉頭乳頭腫

■ 検査

聴覚機能検査/補聴器適合検査/平衡機能検査/電気眼振検査/VEMP/新生児聴覚スクリーニングとその後の精密検査/耳鳴検査/喉頭内視鏡検査と発声機能検査/ABLB テスト/SISI テスト/Bekeesy 検査/プロモントリーテスト/側頭骨 3D-CT/内耳・内耳道 MRI/中耳 MRI(プロペラ法含む)/ENoG/難聴の遺伝子診断/言語発達検査/下咽頭ファイバースコープ/超音波検査/CT/シンチグラム(ガリウム・甲状腺・唾液腺・骨)/穿刺吸引細胞診(cFNA)/頭頸部 MRI-MRA/RAST/基準嗅力検査/静脈性嗅覚検査電気味覚検査/鼻腔通気度検査/PSG

■ 専門外来

難聴耳鳴外来/中耳外来/副鼻腔炎外来/頭頸部腫瘍外来/喉頭外来/気管食道外来/アレルギー嗅覚外来/音声外来/めまい外来/聴覚外来/補聴器外来

/人工内耳外来/小児言語聴覚外来/側頭骨外科外来/難聴遺伝外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
専任講師	5名
助教(専修医を除く)	10名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	小川 郁
診療科副部長	小澤 宏之
外来担当医長	大石 直樹
病棟担当医長	藤岡 正人
保険担当医長	神崎 晶
研修医担当主任	関水 真理子

2 主な診療実績

耳科手術 (鼓室形成術、アブミ骨手術、人工聴覚器手術など)	203件
鼻副鼻腔手術 (内視鏡下鼻副鼻腔手術など)	64件
頭頸部悪性腫瘍手術 (舌・口腔・咽頭悪性腫瘍手術など)	109件
唾液腺手術 (耳下腺腫瘍手術、顎下腺腫瘍手術など)	42件
音声・嚥下改善手術 (喉頭微細手術、喉頭形成術など)	142件
頭蓋底手術 (聴神経腫瘍手術、経鼻的内視鏡頭蓋底手術など)	66件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 腫瘍班

4-5月にはコロナ感染拡大の影響で待機可能な良性腫瘍手術は延期とし、悪性腫瘍の手術を中心に行った。本邦で頭頸部咽頭悪性腫瘍に対する経口的ロボット手術(Trans oral robotic surgery: TORS)が2018年に薬機承認、2019年よりトレーニングプログラムが策定された。当科の頭頸部癌専門医2名でこのプログラムを履修し、術者・助手としての資格を取得している。保険収載され次第、適応症例に対するTORS

手術を進めていく予定である。

■ 耳班

COVID-19感染拡大の影響は大きく、5月末まではほぼすべての耳科手術を延期とした。しかし、6月からは聴神経腫瘍、聴器癌などの側頭骨頭蓋底手術を開始し、下半期には感染対策を徹底した上で、中耳手術も行うことができた。引き続き、中耳手術、人工内耳などの人工聴覚器手術、側頭骨外科手術、聴神経腫瘍手術などのあらゆる耳科手術加療だけでなく、補聴器などを中心とした外来診療や臨床研究にも注力していきたい。

■ 喉頭班

年度の当初はCOVID-19感染拡大の影響で待機可能な良性腫瘍手術は延期とし、気道閉塞を来たしうる緊急疾患や悪性腫瘍の手術を中心に行った。外来においては、今まで通りの音声・嚥下に関する専門外来に加え、新たに赴任した富里医師による吃音外来を開設し、言語聴覚士との連携のもと専門診療を始めている。

■ 鼻アレルギー領域

鼻アレルギー領域では2019年3月に季節性アレルギー性鼻炎に抗IgE抗体製剤が、2020年3月に鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に抗IL-4/13受容体抗体製剤が相次いで適応追加となり、治療法の選択の幅が広がった。本年度はこれら生物学的製剤による診療体制を整え、適応のある患者に導入した。また、コロナの影響は見られたものの、鼻副鼻腔関連の手術治療も継続して行われた。

慶應アレルギーセンターに所属する診療科として連携して診療を行いつつ、センターでは3ヶ月に一度のカンファレンス(勉強会)も開催され、7月は耳鼻科主催で行い、70名を超える参加者があった。

精神・神経科

1 診療体制

■ 対象疾患

気分障害(うつ病、双極性障害)/統合失調症/不安

障害(社会恐怖や特定の恐怖症などの恐怖症、全般性不安障害、パニック障害、強迫性障害、外傷後ストレス障害(PTSD)、急性ストレス障害/発達障害(自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症など)/心身症・身体表現性障害・自律神経失調症/摂食障害(神経性無食欲症、拒食症、過食症)/睡眠障害(不眠症、過眠症、睡眠・覚醒リズム障害など)/身体疾患に伴う精神的問題/てんかん/物質関連障害/思春期・青年期精神障害/認知症/せん妄/老年期精神障害/器質性精神障害/家庭・学校・職場のメンタルヘルス/高次脳機能障害/頭部外傷後遺症/脳器質疾患

■ 検査

一般血液検査/心理検査/神経心理学的検査(認知機能検査)/頭部 MRI、頭部 CT 検査/脳波検査/光トポグラフィー検査/脳血流シンチ検査

■ 専門外来

うつイメージング外来/グループセラピー外来/クロザピン外来/高次脳機能障害外来/睡眠外来/認知リハビリテーション外来/児童思春期外来/消化器・心身症/てんかん/働く人のメンタル/精神療法/Seizure/摂食障害/認知行動療法(うつ・不安)/マインドフルネス/むずむず脚外来/発達障害外来/治療抵抗性うつ病に対する経頭蓋磁気刺激(r TMS)療法外来/森田療法外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	2名
専任講師	8名
助教(専修医を除く)	5名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	三村 将
診療科副部長	村松 太郎
外来担当医長	佐渡 充洋
病棟担当医長	前田 貴記
保険担当医長	新村 秀人
研修医担当主任	竹内 啓善

2 主な診療実績

外来初診件数/再診件数は、年間でそれぞれ約1,000~1,500件と30,000~40,000件で推移している(本年度はCOVID-19の影響により減少)。初診時の診断としては、不安障害や適応障害などの神経症圏が最も多く、続いてうつ病や双極性障害といった気分障害圏、認知症やせん妄といった症状性を含む器質性精神障害が占めている。当院では、難治性のうつ病などに対して実施される修正型電気けいれん療法にも力を入れている。

外来初診患者数	636人
外来再診患者数	31,704人
入院患者数	5,092人

3 その他の活動実績・取り組み等

当科では、気分障害・統合失調症・不安障害・摂食障害・睡眠障害・認知症・脳器質疾患・てんかん、発達障害、など全ての精神・神経疾患の診断・治療を行っている。診断のため、血液検査・画像検査だけでなく、さまざまな心理検査・神経心理学的検査を受けることも可能となっている。実績に示したとおり器質障害・気分障害・神経症の初診患者が多いが、全ての領域の精神疾患患者が来院されている。また、電気けいれん療法や精神疾患に伴う身体合併症の管理・治療のための入院を目的として外来受診される患者もいる。

専門性の高い治療として、認知症を含む器質性精神障害の精査、難治性うつ病などに対する電気けいれん療法や磁気刺激療法、難治性統合失調症に対するクロザピン治療の導入、強迫性障害や摂食障害などに対する認知行動療法、発達障害の精査、などを目的とした入院診療を積極的に行っている。

地域連携の試みとして、毎年12月に、病診連携セミナーを開催し、最新のトピックを提供している。

以下のような多岐にわたるような研究室があり、世界最先端の臨床研究を進めている。

精神薬理学、精神病理学、生物学的精神医学、精神生理学、司法精神医学、社会精神医学、神経心理学、

心理学、Integrated Innovation Lab for Psychiatry、児童精神医学、Multidisciplinary Translational Research Lab、計算論的精神医学、認知行動療法。

放射線治療科

1 診療体制

■ 対象疾患

口腔腫瘍/肺癌/頭頸部癌/前立腺癌/子宮頸癌/脊髄腫瘍/転移性脳腫瘍/脳原発悪性リンパ腫/髄膜腫/神経膠腫/脳腫瘍/縦隔腫瘍/食道癌/胃癌/膵癌/胆道癌(肝外胆管癌、胆嚢癌)/肝臓癌(肝細胞癌、胆管細胞癌)/乳癌/多発性骨髄腫/悪性リンパ腫/悪性腫瘍一般(脳腫瘍、頭頸部癌、食道癌、乳癌、肺癌、肝臓癌、胆道癌、胃癌、膵臓癌、直腸癌、子宮頸癌、前立腺癌、白血病、悪性リンパ腫、各種悪性肉腫、小児癌、転移性腫瘍など)/良性脳腫瘍(髄膜腫、下垂体腺腫など)/一部の良性疾患(ケロイドなど)

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	1名
専任講師	3名
助教(専修医を除く)	5名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	茂松 直之
診療科副部長	大橋 俊夫
外来担当医長	深田 淳一
病棟担当医長	小池 直義
保険担当医長	吉田 佳代
研修医担当主任	吉田 佳代

2 主な診療実績

放射線治療患者実人数(新患+再患)	863人
強度変調放射線治療(IMRT)	277件
定位放射線治療(脳+体幹部)	72件
腔内照射	40件

ヨウ素125密封小線源永久挿入療法 47件

3 その他の活動実績・取り組み等

本年度は放射線治療専門医9名のほか、医学物理士2名、放射線技師8名(放射線治療専門技師1名、医学物理士2名、放射線治療品質管理士1名の有資格者を含む)、看護師3名(がん放射線療法認定看護師1名含む)のチームで診療にあたった。

外部放射線治療では、放射線を病変にピンポイントに照射する「定位放射線治療」のうち、寡数個の遠隔転移に対する体幹部定位放射線治療や骨転移に対する定位放射線治療が保険適応となったことにより従来の肝臓、肺に加えて体幹部定位放射線治療の新たなバリエーションとして実施件数が増加した。

放射線治療は全身のあらゆる腫瘍が対象となるため、臓器別の各診療科との連携が必要不可欠である。従前より各診療科と定期的にカンファレンスを行い、一人一人の患者に最も合った最適な治療が提供できるよう密にコミュニケーションを取りながら診療に当たってきたが、新型コロナウイルス感染症による対面カンファレンスの制限により、一部ではウェブカンファレンスが行われるようになった。

新たな取り組みとして放射線治療機器の品質管理のために計画検証や治療機器精度についてのミーティングを放射線物理士、放射線技師で行い、同会議での議事は医師にも共有・承認されるよう取り決めがなされた。

治療機器の精度管理は、リニアックはAAPM TG142、腔内治療装置はJASTROの診療・物理QAガイドラインに準拠した項目を従前より実施している。日次、月次品質管理は担当者を決めて行った他、年次項目に関しては年間スケジュールを策定して取り組んだ。

国立がん研究センターがん対策情報センターによる訪問第三者評価、医用原子力技術研究振興財団による出力線量測定事業、日本臨床腫瘍研究グループ放射線治療グループ医学物理ワーキンググループによる郵送第三者評価の3種類の外部評価を受け承認を得た。

放射線診断科

1 診療体制

■ 対象疾患

あらゆる領域のがん・腫瘍などの診断/動脈瘤(腎・脾臓等)/血管腫/動静脈奇形(肺・腎等)

■ 検査

消化管 X線造影/超音波一般/MRI/CT/血管内治療/PET 検査/SPECT 検査

■ 専門外来

画像診断外来/IVR 外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	2名
専任講師	7名
助教(専修医を除く)	17名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	陣崎 雅弘
診療科副部長	中塚 誠之
外来担当医長	中塚 誠之
病棟担当医長	山田 祥岳
保険担当医長	井上 政則
研修医担当主任	鈴木 達也

2 主な診療実績

CT(ドック・健診含)	51,154件
MRI(ドック・健診含)	26,093件
超音波(ドック・健診含)	27,949件
SPECT	4,464件
PET(ドック含)	5,374件
血管造影 IVR	1,132件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ CT

COVID-19感染拡大のため、感染者・疑い患者の導線を分けて検査するよう運用を変更した。

■ MRI

AI ホスピタル事業の一環で、クリニカル・パフォーマンス・マネージメント(CPM)を導入し、検査部位ごとの需要を可視化し、検査枠の最適化を実施した。これにより、より多くの患者に適切なタイミングで検査を実施できることが可能となった。

■ IVR

COVID-19感染拡大により、4-5月は不要不急の検査・治療を延期した。7月以降は感染対策を徹底し、通常診療体制に戻した。結果的に年間1,132件のIVR手技を実施した。

■ 核医学

9月に3台目となるPET-CTを導入し、増加するPET-CTの需要に対応できる機器体制を整えた。

■ 超音波

キャンセル待ちシステムの運用を開始し、入院患者の至急検査を最適化できる体制を整えた。

■ AI・IT

AIを用いた胸部CTの肺結節の検出支援、骨差分画像の自動生成機能を搭載したSAI viewerの本格運用を開始した。これにより読影業務の効率化、負担軽減が期待される。

麻酔科

1 診療体制

■ 対象疾患

<手術センター>

全身麻酔・監視下鎮静を必要とする手術・処置・検査全般

<痛み診療センター>

腰痛症/坐骨神経痛/腰部脊柱管狭窄症/腰椎椎間板ヘルニア/腰椎椎間板症/圧迫骨折/頸椎症/頸椎症性神経根症/頸椎ヘルニア/慢性腹痛/緊張性頭痛/非定型顔面痛/三叉神経痛/带状疱疹・带状疱疹後神経痛/複合性局所疼痛症候群(CRPS)/閉塞性動脈硬化症/バージャー病/顔面神経麻痺

<集中治療センター>

集中的治療を必要とする重症病態のすべて

<緩和ケアセンター>

緩和ケアを必要とする苦痛

■ 検査

血液検査/レントゲン検査/CT・MRI 検査/仙骨硬膜外造影検査/サーモグラフィ検査

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	1名
専任講師	3名
助教(専修医を除く)	23名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	森崎 浩
診療科副部長	橋口 さおり
外来担当医長	山田 高成
病棟担当医長	長田 大雅
保険担当医長	小杉 志都子
研修医担当主任	御園生 与志

2 主な診療実績

<手術麻酔>

全身麻酔	7,209件
術後PCA管理	3,080件

<無痛分娩>

症例数	108例
-----	------

3 その他の活動実績・取り組み等

■ COVID-19 対応

4-5月はCOVID-19の影響が非常に大きかった。医療資材の供給不足により予定手術を大幅に縮小せざるを得なかったが、延期のできない症例や当院でしかできない治療を限られたリソースを駆使して継続診療した。感染症例の手術では陰圧手術室を活用し、スタッフ教育も拡充して安全な体制で診療を実施できた。6月以降は徐々に診療体制も整い、通常通りの手術診療が可能となった。

■ 高難度手術の増加

一般の他施設では対応困難な高難度の手術症例が増加した。複数診療科が関与して協同で治療に当た

る機会が大幅に増加したが、Webカンファレンスを活用して事前協議を綿密に実施することができるようになり、難度の高い手術も安全に実施できる体制が整った。

■ 新規麻酔薬の登場

静脈麻酔薬の新薬が発売され、麻酔管理の幅が広がった。術中の生理学的検査への影響を低減することが可能で、繊細な手術を支援する術中検査の精度を上げることにより、一層正確で安全な手術診療が実施されている。

■ 他施設からの研修受入れ

特色ある症例、高度な麻酔の研修のために、他院からの麻酔科医の研修や見学を継続して受入れた。

■ 集中治療センター

ICU専従医として常駐し予定手術患者、救急患者、院内重症患者を受け入れている。10床のICUは9月からは2床増床し、コロナ重症患者を含め、重症患者の受け入れ体制を強化した。延べ1,171名、内コロナ重症患者を46名受け入れた。呼吸ケアチームでは一般床における人工呼吸器装着患者72名の呼吸管理を行った。Rapid Response Team(医師、看護師、医用工学技士で構成)を立ち上げ、一般床入院患者の急変リスクを検知し、早期対応を行うことで院内急変の予防に取り組んでいる。

■ 疼痛診療部門

4-5月はCOVID-19感染拡大の影響で外来を閉鎖し、電話診察の対応を取った。6月以降は通常診療を再開した。慢性疼痛疾患を対象として、薬物療法、神経ブロック、硬膜外腔癒着剥離術、および脊髄刺激法を行った。また、他診療科と連携を取り、運動療法や心理療法など集学的痛み治療介入の発展に注力した。

救急科

1 診療体制

■ 対象疾患

院外心肺停止/ショック/意識障害/外傷/熱傷/敗血症/一過性意識障害(失神など)/体温異常(熱

中症または偶発性低体温症) /急性冠症候群/脳血管障害/大動脈疾患/急性中毒/急性腹症/上気道閉塞/吐血/咯血/めまい/不整脈/呼吸困難/消化管異物/尿閉/高血圧緊急症/軟部組織感染症/鼻出血/電撃傷/化学損傷/溺水

上記を中心として、内因性、外因性を問わず対応している。

■ 検査

採血/レントゲン/超音波検査/CT/MRI/血管造影/培養検査

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授 1名
専任講師 1名
助教(専修医を除く) 10名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長 佐々木 淳一
診療科副部長 本間 康一郎
外来担当医長 上野 浩一
病棟担当医長 佐藤 幸男
保険担当医長 山元 良
研修医担当主任 吉澤 城

2 主な診療実績

救急車搬入件数	総件数	3,228 件
	3次救急	114 件
救急車応需率	2次	72%
	3次	45%
入院患者数		182 件
うち非外傷		53 件
体幹部外傷		19 件
頭部外傷		18 件
骨盤四肢外傷		62 件
手術件数		182 件
うち体幹部		3 件
骨盤四肢		161 件
非外傷		18 件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 慶應ホットライン

近隣のクリニックや産業医からの救急車を呼ぶほどではないが当日診療が必要な場合の診療依頼ホットラインに当科医師が直接対応する運用を継続した。

■ 院内救急

院内急変患者が発生すると救急センターに連絡が入り、常駐する救急医が現場に駆けつけ対応する体制が整っている。本年度には124件の院内救急に対応した。

■ COVID-19 診療チーム

COVID-19 診療において、集中治療室への入室が必要な重症症例は全て当科が主診療科となり診療を担った。

■ 医師主導治験

重症 COVID-19 に対する医師主導治験を実施した。

■ 東京2020オリンピック・パラリンピック医療支援の準備

オリンピックスタジアムの直近施設としての責任を担うため、会場医療責任者の当科佐々木淳一教授のリーダーシップのもと、準備を行った。

歯科・口腔外科

1 診療体制

■ 対象疾患

顎口腔腫瘍・口腔癌/顎変形症/顎口腔インプラント/小児口腔外科疾患/口腔粘膜疾患/顎骨骨髄炎/薬剤関連顎骨壊死/顎骨嚢胞/顎口腔外傷/歯周病/顎補綴/歯性感染症/埋伏歯/う蝕/歯列不正/顎関節症/口腔機能ケア

■ 検査

SPECT/CT(口腔癌、薬剤関連顎骨壊死、顎骨骨髄炎)/唾液腺造影法/唾液分泌機能検査(唾液腺シンチグラフィ)/唾液量検査(ガム試験)/味覚検査/口腔腫瘍検査/咬合異常検査/歯周病検査/う蝕検査/歯列不正検査/口腔内細菌検査/歯科金属補綴物分析検査/口臭検査

■ 専門外来

歯周病外来/顎関節障害外来/口腔顔面痛外来/口腔腫瘍外来/口腔粘膜疾患外来/口蓋裂外来/矯正外来/補綴外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
専任講師	6名
助教(専修医を除く)	9名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	中川 種昭
診療科副部長	筋生田 整治
外来担当医長	堀江 伸行
病棟担当医長	宮下 英高
保険担当医長	加藤 伸
研修医担当主任	角田 和之

2 主な診療実績

<初診患者数>

歯科	680人
口腔外科	1,850人
口腔褥瘡ケア	1,328人

<症例数>

悪性腫瘍	35件
良性腫瘍	102件
顎変形症	53件
デンタルインプラント埋入手術	104件
インプラント関連顎骨再建術	16件
骨折	17件
嚢胞	54件
炎症	10件

3 その他の活動実績・取り組み等

年度当初は、COVID-19感染拡大の影響で、外来歯科診療や入院および外来手術の大幅な制限が必要な状態であったが、徹底した感染対策を講じ徐々に診療実績が回復した。コロナ禍における取り組みとしては、慶應ドンネルプロジェクトの一環として、唾液検体を用いたPCR解析を外来通院患者に対し実施した。

口腔外科分野では、口腔に生じる腫瘍性疾患、骨格異常、および炎症性疾患等に対し標準的な手術を行うと共に、コンピュータ支援下手術、サージカルガイド下手術、口腔癌の全周迅速診断などを積極的に取り入れ、低侵襲で精度の高い治療を提供できる体制を整えている。また、腫瘍や外傷で生じた欠損に対する形態や機能の回復を重視しており、口腔インプラントを応用した咀嚼機能や咬合の回復に力を入れている。

また、歯周病、口腔粘膜疾患、補綴(入れ歯)、および顎関節症などで専門的な治療を必要とする患者に向けた専門外来を設けており、地域の歯科医院と積極的に病診連携を深めている。腫瘍センター内に口腔機能ケア外来を設置し、臨床各科との密接な連携のもと、基礎疾患を有する患者の一般歯科治療を行いながら、手術、がん化学療法、および造血幹細胞移植術等を他科で実施する患者に対し、看護部と協働した口腔機能ケアを行っている。

総合診療科

1 診療体制

■ 対象疾患

原因不明の発熱、体重減少、全身倦怠感、原因の特定が難しい各種症状/受診すべき診療科の特定が難しい諸症状/救急車で受診するほどではない体調不良

■ 検査

各種採血検査/尿検査/心電図検査/X線検査/超音波検査/CT・MRI検査/各種生理機能検査

■ スタッフ構成(2021年3月時点)

准教授	1名
専任講師	3名
助教(専修医を除く)	1名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	藤島 清太郎
診療科副部長	平橋 淳一

外来担当医長 新井 康通
 保険担当医長 平橋 淳一
 研修医担当主任 平橋 淳一

2 主な診療実績

初診患者数 218人
 再診患者数 4,517人

3 その他の活動実績・取り組み等

当科は、1号館1階1Eエリア内において主として再診および初診患者の外来診療を行っている。月・火・木午前には初診専門外来を別途設け、初診患者の診察に十分な時間をかけられるよう配慮している。

再診外来では、高齢者を主として多疾患併存の患者を中心に診療している。また、当院の専門診療科に通院する患者において、併存する慢性疾患を包括的に診る役割も担っている。

初診外来では、様々な急性・慢性の症状・徴候を呈する患者を診療している。COVID-19 パンデミック以前に行った分析では、不明熱、易疲労感、体重減少、食思不振、頭部・体幹・四肢の痛み、四肢のむくみ・腫れ、皮疹、めまい、動悸、息切れ、咳嗽など多岐に渡っていた。診察の結果、緊急性が高い・専門的診療が必要と判断した場合は、速やかに適切な診療科に繋ぐが、感染症やアレルギー疾患など、当科で診療を継続する場合も多かった。また、健診で発見された検査異常に対する精査の依頼や生活習慣病の全身的管理の要望にも柔軟に対応した。院内紹介では専門診療科に通院中の患者において新規に出現した各種症状の原因精査を行い、診断に基づいて適切な治療へと繋げている。

COVID-19 アウトブレイク後には、COVID-19の後遺症としての、不明熱、倦怠感、四肢の痛み、しびれ、めまいなど慢性疲労症候群に類似した症状の患者の診察対応が新たに加わったことが特徴である。また当科は院内の感染制御にも積極的に参画し、大学病院におけるCOVID-19院内感染の疫学調査結果について他科と共同で論文発表を行った。(Open Forum Infect Dis. 2020)

臨床検査科

1 診療体制

■ 対象疾患

すべての診療科から依頼される臨床検査を集中して行っている。がんを含む悪性腫瘍、脂質異常症、高血圧、糖尿病といった生活習慣病から、各種感染症、膠原病などの自己免疫疾患、心血管病、血液疾患、呼吸器疾患、腎臓病、肝臓病や膵臓病を含む消化器病、神経筋疾患、運動器疾患のほか、先天性や後天性の代謝異常症や内分泌疾患、手術に関係する検査、妊娠出産に関係する検査、薬物検査、健康診断、人間ドックにおける検査も行う。これらは血液、尿、便、体液などを分析する検体検査と、心機能、肺機能・神経機能、血管検査などの生体機能検査(生理機能検査)に分けられ、365日24時間対応している。

■ 検査

検体検査(血液・尿・便・喀痰・その他)/生理機能検査(心・肺・神経・代謝・血管)/画像検査(超音波)

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	1名
専任講師	3名
助教(専修医を除く)	4名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	村田 満
診療科副部長	菊池 春人
保険担当医長	武井 茂樹
研修医担当主任	三ツ橋 雄之

2 主な診療実績

<検体検査>

院内検体検査	7,480,031件
微生物検査	118,349件

外部委託検査	199,875 件
<生理機能検査>	
心機能	55,071 件
小児心機能	4,874 件
肺機能	6,386 件
神経機能	5,636 件
代謝	3,286 件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 検体検査

4-5 月は COVID-19 感染拡大により各診療科で行われる検査が少なく、検体数が顕著に減少したが、年度後半にかけて徐々に回復し、コロナ禍前とほぼ同等の依頼水準に戻った。

COVID-19 に対する検査需要に対応するため、Light Cycler 96, BD MAX, Roche Cobas Liat システムといった全自動検査装置の新規導入と、GeneXpert, FilmArray システムの増設を行い、病院内の PCR 検査需要に応需する体制を構築した。さらに、iFlash 3000 システムを導入し、新型コロナウイルス抗体価の院内測定を開始し、慶應ドンネルプロジェクト等の COVID-19 に対する研究に積極的に協力を行なった。

■ 生理機能検査

COVID-19 の流行に伴う患者数の減少に伴い、生理機能検査は全体の件数が落ち込んだ、しかしながら、病院診療機能の回復とともに、徐々に件数は回復し、最終的には前年度比 10%減程度に留まった。

エアロゾル発生のリスクのある肺機能検査は COVID-19 に伴い大きな制限を受けた。4-5 月には、肺機能検査を実質停止していたが、その後、検査前に PCR 検査を実施することにより、徐々に検査の受け入れを再開した。

病理診断科

1 診療体制

■ 対象疾患

当科では各診療科から提出される検体から標本を作製し、肉眼や顕微鏡で形態的に観察し最終診断を行っている。診断対象は全臓器にわたり、生検組織や手術で摘出された臓器の組織診断、体から剥離した細胞や吸引された細胞を診断する細胞診の診断結果に基づいて臨床各科の治療方針が決定される。

■ スタッフ構成 (2021 年 3 月時点)

准教授	1 名
専任講師	4 名
助教 (専修医を除く)	2 名

*専任・常勤のみ (有期を含む)

<院内役職者>

診療科部長	大喜多 肇
診療科副部長	三上 修治
保険担当医長	眞杉 洋平
研修医担当主任	眞杉 洋平

2 主な診療実績

組織診	18,944 件
うち術中迅速組織診	1,223 件
細胞診	19,764 件
病理解剖	35 件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 病理組織診ならびに細胞診

4-5 月は COVID-19 感染拡大により各診療科で行われる手術や検査が少なく、病理組織診断や細胞診に供する検体数が顕著に減少したが、年度後半にかけて徐々に回復し、最終的な病理組織診ならびに細胞診の年間検体数はそれぞれ 2019 年度比で 20.9%減、13.3%減となった。

診断支援のための部門システムについては、導入後 9 年が経過し、現代の病理診断システムに求められる機能 (過誤防止のための一貫したバーコード管理、業務の電子記録やみえる化、未読による医療事故防止のためのシステム等) が十分でないことから、2021 年 1 月に病理部門システムの更新を行った。今後、更新されたシステムを基盤とした検体取り違い防止

策を講じた標本作製工程の構築、未読診断レポートの適切な管理体制の構築を進めていく予定である。また、当院における AI ホスピタルプロジェクトの一環として、病理画像を解析する AI ソフト開発の基盤となるデータベース構築を進めた。2020 年 3 月に Philips 社製イメージスキャナーを導入し、スライドスキャンテストを段階的に行い、サーバー設置、部門システム等々の連結を行った。

日本臨床細胞学会が認定する資格として、本年度に医師 3 名が細胞診専門医資格、臨床検査技師 1 名が細胞検査士資格を取得した。

■ 病理解剖

COVID-19 の拡大に伴い、2020 年 4 月から感染制御部と連携して病理解剖可否を判断する独自の指針『新型コロナウイルス感染症症例(疑いを含む)および肺炎症例の病理解剖の取り扱いについて』を作成し、スタッフへの感染拡大防止に注力した。さらに、高精細カメラと相互会話装置が導入された病理解剖見学室を活用することで剖検室入室人数制限を実施し、個人防護具の消費をできるだけ抑えるように努めた。部門システムの更新に伴い、剖検受付から診断までの一連の操作がシステム上で処理・管理されるようになり、業務のより効率的な運用が可能になった。今後も、感染防御とスタッフの安全を意識した病理解剖業務を推進していく予定である。

< 診療施設部門 >

予防医療センター

1 診療体制

■ 検査

<基本コース>

標準ドック(X線)(内視鏡)/消化器・肺がん検診ドック/スーパーがん検診ドック

<専門ドック>

心臓血管ドック/脳画像ドック/レディースドック/レディース画像ドック/メタボリックシンドローム・腎臓ドック/運動器ドック

<セット検査>

乳がん検査セット/子宮頸がん検査セット/腫瘍マーカーセット/甲状腺セット/睡眠時無呼吸検査セット

<オプション検査>

脳MR・IMRA/上腹部MR(IMRCPを含む)/骨盤MRI/腰椎MRI/PET-CT/ホルター心電図/胃がんリスク(ピロリ抗体)検査/乳房超音波/頸動脈超音波/甲状腺超音波/マンモグラフィ/脈波測定(ABI-baPWV)/骨密度・体組織測定/大腸内視鏡

■ 設備・機器

多列CT装置(64列)2台/MRI装置(3T/1.5T)各1台/PET-CT装置2台/消化管X線装置(FPD-Cアーム式)2台/消化管内視鏡装置(NBI装備)3台/乳房X線撮影装置1台/全身用骨塩測定装置1台/婦人科コルポスコピーおよび経膈エコー1セット/超音波装置(腹部・乳腺・血管用)3台/超音波装置(心臓用)1台

■ スタッフ構成(2021年3月時点)

教授	1名
准教授	1名
専任講師	3名
助教(専修医を除く)	20名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

センター長 高石 官均

副センター長 百島 祐貴

2 主な診療実績

受診者数	4,902人
上部消化管内視鏡件数	4,299件
下部消化管内視鏡件数	716件
MRI実施件数	4,419件
CT実施件数	5,987件
超音波実施件数	9,855件
PET-CT実施件数	694件
各診療科へのコンサルテーション件数	1,214件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ COVID-19への対応

当センターでは、厚生労働省・COVID-19対策である「健康診断実施時における新型コロナウイルス感染症対策」の遵守に加えて、受診者の方に安心してドックを受けていただくために、受診者の方全員を対象として事前に唾液PCR検査を行い陰性であることを確認してから受診していただいている。さらに受診者の方全員のプログラムに入っている低線量胸部CTを来院後最初の検査として受けていただき、読影上COVID-19関連肺炎が疑われる場合は当院呼吸器内科にコンサルテーションを行っている。また慶應義塾教職員を対象とした迅速PCR検査も行っている。

■ 部門としての目標と振り返り

当センターではハード面、ソフト面ともに、最先端の診断技術による精度の高い健診・検診を提供し、専門性が高くきめ細かな結果説明と健康指導によるフォローアップを行うことを目標としている。2023年10月に当部門が虎麻ヒルズへ移転拡張することが決定し、今年度はそれに向けた新たな先進的なプログラム開発や体制づくりに注力していく。

■ 臨床研究への取り組み

当センターでは多岐にわたる臨床研究が行われて

いるが、一例として、これまでに蓄積した健診データを機械学習含め網羅的に解析することで、これまで明らかにされてこなかった健康維持に重要な生活習慣を同定し、健康指導による介入の効果予測モデルを作成する臨床研究を行っている。

■ 他部門・他職種との連携

当センターで行う健診で発見された病気の治療にあたっては、各診療科の専門医と一致協力して当院における高度医療、先進医療へのスムーズな橋渡しを実現し、また管理栄養士やスポーツ医学研究センターとの緊密な連携を通じての包括的な健康サポートを提供している。

■ 対外的な活動

当センターで行った健診で指摘された軽微な生活習慣病などのフォロー目的での地域の医院・診療所への逆紹介および日常地域医療患者の高度な診断技術・機器を用いた精度の高い健診・検診を行うための当センターへの紹介を活発に行うために地域の医院・診療所との地域連携を活発に行っている。さらに地域連携を強化するため交流の場として定期的なウェビナーを行っている。

血液浄化・透析センター

1 診療体制

■ 対象疾患

急性腎不全/慢性腎不全/重症筋無力症/ギラン・バレー症候群/天疱瘡/炎症性腸疾患/難治性ネフローゼ症候群/閉塞性動脈硬化症

■ 専門外来

血液透析/血液ろ過透析/血漿交換/白血球除去/免疫吸着/LDL 吸着

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

准教授 1名

助教 (専修医を除く) 1名

*専任・常勤のみ (有期を含む)

<院内役職者>

センター長 大家 基嗣

副センター長 吉田 理

2 主な診療実績

入院患者血液透析	323例
血液透析導入	69例
血漿交換	34例
直接血液吸着灌流・血漿吸着	8例
白血球除去	6例

3 その他の活動実績・取り組み等

本年度も腎不全治療としての血液透析療法を中心として、血液ろ過透析療法、血漿交換療法、LDL 吸着療法、エンドトキシン吸着療法、免疫吸着療法、白血球除去療法、腹水濃縮還元療法といった様々な血液浄化療法を実施した。

上記治療は主に入院患者に対して行われたが、血液透析療法、白血球除去療法に関しては外来通院患者に対しても実施した。

本年度は社会において、COVID-19 の感染拡大があった。末期腎不全のために血液透析療法を受けるなど、継続した血液浄化療法が必要な患者に対して必要十分な治療を提供するために、感染対策に重点的に取り組んだ。

まず、高い手指衛生遵守率を保持できるように医療者の作業の見直しに取り組んだ。マスク、ガウンなどが不足する中でも感染拡大を引き起こさないように、業務手順を修正した。

COVID-19 への対策として、4月から8月にかけては外来通院患者と入院患者の治療日を分けて実施した。9月以降は、外来通院患者エリアと入院患者エリアを空間的に分離して血液浄化療法を施行した。

慢性腎不全による血液透析導入患者に対して実施する指導内容を見直した。指導マニュアルの修正と改善を行った。

内視鏡センター

1 診療体制

■ 対象疾患

吐血・下血/大腸癌/食道癌/胃癌/逆流性食道炎/炎症性腸疾患/胃潰瘍と十二指腸潰瘍/小腸腫瘍、小腸出血/炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病など）/膵腫瘍/胆道腫瘍/胆道結石/小児の消化管病変（全身麻酔下での内視鏡検査を当センターで施行）/中下咽頭腫瘍/肺癌/肺炎、肺結核

■ 検査

上部内視鏡検査/下部内視鏡検査/膵・胆道内視鏡/小腸内視鏡検査(バルーン内視鏡)/小腸内視鏡検査(カプセル内視鏡)/大腸カプセル内視鏡/気管支鏡検査/小児内視鏡検査(全身麻酔下での内視鏡検査を当センターで施行)/気管支鏡/内視鏡的止血術/食道静脈瘤結紮術/食道静脈瘤硬化療法/内視鏡的胃瘻造設術/食道・胃・十二指腸・大腸粘膜下層剥離術(ESD)/内視鏡的狭窄拡張術/内視鏡的胃瘻造設術/バルーン小腸内視鏡による止血術/ポリプ切除術/術後腸管に対するバルーン小腸内視鏡を使用した載石術

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	1名
専任講師	1名
助教（専修医を除く）	2名

*専任・常勤のみ（有期を含む）

<院内役職者>

センター長	緒方 晴彦
副センター長	細江 直樹

2 主な診療実績

上部内視鏡	9,174件
うち食道ESD	90件
胃ESD	122件
十二指腸ESD	92件
下部内視鏡	4,820件
うち下部EMR	656件
下部ESD	99件
小腸内視鏡	159件
胆道内視鏡	459件
超音波内視鏡	692件

カプセル内視鏡

40件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ COVID-19蔓延下における検査体制

2020年3月末に起こったCOVID-19院内感染をきっかけとし、2020年4月より、患者の安全を確保するため、緊急検査を除く全ての内視鏡検査を中止した。そのため、4月の内視鏡センターの稼働は前年比6.6%となった。2020年5月中旬から、感染対策を十分に行い、少しずつ内視鏡検査を再開していった。患者間の感染対策は、問診、病院窓口における検温によるスクリーニング、患者動線の見直し、患者の密を避ける等の工夫を行った。医療従事者側の対策としては、検温の徹底、PPE（個人用防護具）の標準化、マニュアル化を行った。内視鏡施行時のPPEはキャップ、N95マスク、アイガード、グローブ、ガウンを標準とした。以上により、5月の稼働は9.5%、6月47.4%、7月73.2%、8月82.4%と徐々に前年と同様の体制に戻すことができ、年度半ばには前年とほぼ同等の検査数となった。

■ ミーティング、カンファレンス、教育等

本年度は、中断した内視鏡検査を再開する際の2020年4-5月には内視鏡に関連する全ての科と、スタッフがWeb会議を毎週行い、検査体制や検査件数を話し合った。その結果、安全かつ効率的に内視鏡検査を再開することができた。検査が安定した後も、毎月一回のWebによるミーティングを継続している。教育についても月に一回各科のエキスパートから若手医師、スタッフに向けたレクチャーを行っている。内視鏡センター部門内では毎週ミーティングを行い、翌週の検査体制等について話し合いを行っている。

腫瘍センター

1 診療体制

■ 対象疾患

消化器癌/肺癌/乳癌/原発不明癌/その他診断や治療が困難な癌/がんゲノム診断/希少癌

■ 専門外来

がん専門初診外来

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
准教授	1名
専任講師	1名
助教 (専修医を除く)	7名

*専任・常勤のみ (有期を含む)

<院内役職者>

センター長 (代行)	大家 基嗣
副センター長	浜本 康夫

2 主な診療実績

化学療法実施件数 11,357件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ 部門としての目標

当センターは、“がん患者さんの満足度を高める”ことを最大の目標として、患者中心のチーム医療を実践するための診療科横断的なクラスター組織である。各種がんに関連した専門家が集結し正確な診断のもと、最適な治療戦略を策定し、個別化治療・集学的治療を実践している。

■ 外来化学療法ユニットでの取り組み

当センターでは COVID-19 感染拡大の中でも安心して治療を継続できる環境を整えるため様々な対策を実施した。①朝の「密」回避のための事前採血の推奨、②院内クラスター発生時における診療制限および院内クラスター解除時に関係スタッフ PCR 実施、③病棟と外来業務を分離することを目的に一部の外来において外来診療スタッフの連続勤務などの体制を作りあげ、コロナ禍であっても種々の感染防止策を行うことにより様々な悪性疾患に対して十分な治療を受けていただけるよう取り組んでいる。

■ がんゲノム医療ユニットでの取り組み

当院は、2018年2月16日付けで厚生労働省により、がんゲノム医療を牽引する高度な機能を有する医療機関として「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定された。がんゲノム外来においては、全てのがん患

者が医学的に意義のある遺伝子パネル検査に基づくがんゲノム医療を受けられる体制を推進し、全国に展開する連携病院と共に、これまでに600症例以上の遺伝子パネル検査を実施し、患者申出療養や先進医療の制度を活用したがん個別化治療を推進している。

■ がん低侵襲療法開発ユニットでの取り組み

内視鏡検査、治療はエアロゾル発生手技であるため COVID-19 感染拡大により診療の影響を受けた。特に4月は防護具の確保が難しく、一時的に内視鏡治療の延期を余儀なくされたが、種々の感染防止策を行い、その後は症例の改善が認められた。

当センターの特徴として高度の技術を活かし十二指腸の内視鏡的粘膜下層剥離術 (Endoscopic submucosal dissection:ESD)をはじめとする高難度の内視鏡治療を行なっているが、最終的に2020年度の十二指腸病変は249件となり、2019年度の238件を上回った。また、幸いなことに内視鏡を介した COVID-19 のスタッフ、患者への感染は1件も起こらなかった。引き続き、消化管腫瘍に対する安全で高水準な内視鏡診療を提供していく。

輸血・細胞療法センター

1 診療体制

■ 概要

当センターは、輸血と細胞療法の業務を担う中央診療部門で、院内のすべての輸血用血液製剤と血漿分画製剤、そして再生医療等製品と臨床試験に用いる特定細胞加工物を一括管理している。

輸血については、輸血に関連する血液型や交差適合試験などの検査、輸血用血液製剤の管理、手術前の自己血の採取・管理などを行っている。

細胞療法については、造血幹細胞移植やキムリア (CD19-CAR-T 療法) を初めとする免疫細胞療法用の細胞採取・処理・凍結保存、造血細胞数の測定、そして再生医療の細胞調整・管理保存等を行っている。また、臨床研究推進センターと連携

して、1号館5階の細胞プロセッシングセンター「KHCCPC」を利用して、学内外の治験や臨床研究を、原料細胞の採取・製造調整から臨床試験までシームレスに支援している。

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
専任講師	1名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

センター長	田野崎 隆二
副センター長	山崎 理絵

2 主な診療実績

輸血申込件数	24,440 件
輸血使用量	
赤血球製剤	14,211 単位
新鮮凍結血漿	10,854 単位
血小板製剤	26,295 単位
自己血製剤	1,378 単位
アルブミン製剤	30,459 単位
貯血式自己血採血	235 件
末梢血造血幹細胞採取	35 件
自家末梢血幹細胞移植	24 件
同種末梢血幹細胞移植	8 件
骨髄移植	4 件
臍帯血移植	19 件
ドナーリンパ球採取	2 件
チサゲンレクルユーセル採取・凍結	7 件
チサゲンレクルユーセル投与	5 件
テムセル HS 保管管理・溶解	64 件
その他の再生医療等製品保管管理・投与	2 件
治験・臨床研究関連細胞採取	5 件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ COVID-19 への対応

COVID-19 蔓延下においては、手術数の減少とともに輸血製剤使用量は減少したが、必要な患者には滞りなく輸血製剤を提供できた。

COVID-19 の蔓延を受け、COVID-19 既往のある

医療従事者を対象とした回復者血漿採取を臨床研究として実施する体制を整え、2021年3月に倫理委員会の承認を得た。

■ 部門としての目標と振り返り

<輸血部門>

医療現場で発生する輸血に関するあらゆるニーズに対応できる体制を構築し、学会や日本赤十字社と連携して最新の情報の下に適正かつ安全な輸血医療を提供することを目標としている。当年度も6回の輸血療法適正化委員会を開催し、各部門と輸血の実施状況に関する情報共有を行った。また、厚生労働省「輸血療法の実施に関する指針」の2020年3月の一部改正および日本・輸血細胞治療学会からの見解を踏まえ、輸血後感染症検査は医師が必要と認めたと時のみ行う方針とし、輸血実施マニュアルの改訂を行った。

<細胞療法部門>

昨今急速に臨床導入が進んでいる再生医療等製品・細胞加工製品をいち早く患者に届けられるよう、治験、臨床研究を含め、原料細胞採取から細胞調製・処理、検査・保存管理、投与に至るまでスムーズに実施できる一元管理体制の構築を目標としている。年6回細胞療法適正化委員会を実施し、現在の細胞療法の実施状況、再生医療等製品の使用状況の共有、新規再生医療等製品の採用審議を行っている。当年度は、脊髄性筋萎縮症に対する遺伝子治療薬「ゾルゲンスマ」の採用が決定し1例に投与した。また、昨年度採用が決定した「コラテジェン」も1例に投与された。従来の末梢血幹細胞採取に加え、CD19-CAR-T製剤「キムリア」のためのリンパ球採取(7例)および投与も増えてきている。臨床研究としては、先進医療B(婦人科)子宮頸癌に対するTIL療法のための健常人ドナーからの末梢血単核球採取(5例)が行われた。現在進行中のiPS関連の細胞製剤についても着々と臨床応用に向けた準備が進んでいる。

■ 対外的活動

献血事業2020年11月12日に病院敷地内にて献血協力を実施し、40名にご協力いただいた。

スポーツ医学総合センター

1 診療体制

■ 対象疾患

<整形外科的疾患>

肘関節：野球肘/上腕骨小頭離断性骨軟骨炎/内側副靭帯損傷/テニス肘・ゴルフ肘/変形性肘関節症/尺骨神経障害/関節内遊離体(関節ねずみ)/肘関節脱臼・骨折

手関節：TFCC(三角線維軟骨複合体)損傷/腱鞘炎/手指循環障害/キーンベック病/靭帯損傷/手舟状骨骨折/有鉤骨鉤骨折/疲労骨折/手指骨折・脱臼

肩関節：肩甲帯/胸郭出口症候群/野球肩/腱板損傷/反復性肩関節脱臼

股関節：関節唇損傷/関節内遊離体/骨軟骨損傷

膝関節：前十字靭帯損傷/膝関節靭帯・半月板損傷/膝蓋骨脱臼/離断性骨軟骨炎/オスグッド・シュラッター病/ジャンパー膝/ランナー膝

大腿・下腿：肉離れ/シンスプリント/疲労骨折/アキレス腱断裂・付着部症

足関節：靭帯損傷/足関節不安定症/後脛骨筋機能不全/腓骨筋腱脱臼/外反拇趾/足根管症候群/有痛性三角骨/足底腱膜炎/足根骨癒合症/外脛骨/モートン病

その他：スポーツに伴う四肢外傷全般/スポーツ障害後のリハビリテーション/サルコペニア/ロコモティブシンドローム/変形性膝関節症/骨粗鬆症

<内科的疾患>

メタボリック症候群/糖尿病/高血圧症/肥満/心不全/虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)/スポーツ貧血/運動誘発性喘息/その他のスポーツに伴う内科的疾患全般/アンチ・ドーピング相談

<その他の診療科>

スポーツに関連した心理サポート/小児の運動療法

■ 検査

呼吸ガス分析器を用いた最大酸素摂取量測定/筋力・筋パワー評価/柔軟性評価/バランス機能評価/歩行能力の評価

■ 専門外来

アスリート外来/メディカルフィットネス・ランニング外来(自由診療)/運動器ドックアドバンスコース(自由診療)/ストレスマネジメント外来(自由診療)

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

教授	1名
専任講師	1名
助教(専修医を除く)	3名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

センター長	佐藤 和毅
副センター長	勝俣 良紀

2 主な診療実績

■ スポーツ外傷・障害の手術(手・肘)	121件
■ 心肺運動負荷検査(CPX)	
総数	149件
循環器疾患	109件
小児	14件
スポーツ糖尿病など	26件

3 その他の活動実績・取り組み等

■ スポーツ整形外科

スポーツ選手の手術実績としてはコロナ感染の影響はあったものの、選手生命に関わるもの、シーズンとの兼ね合い等の事情もあり概ね例年と遜色ない件数となった。またリハビリテーションに関しても感染対策を徹底した上で継続した。

スポーツ現場帯同としてはプロスポーツ選手に対する毎月のPCR検査を委託され、現地で立ち会いや感染予防のための指導を行った。学生スポーツにおいてはクラスターが発生したこともあり例年と比べて帯同件数は減少した。毎年2回開催している慶應スポーツ医・科学研究会ではコロナの影響で中止となった。

■ 運動療法

COVID-19 感染拡大の影響は大きく、とくに心肺運動負荷検査（CPX）は呼気ガス分析装置であるために感染対策の兼ね合いから 4,5,6 月はほぼ実施を見送った。以降はフェイスシールドの着用などの感染対策を徹底することで運営し、例年の約半数程度の件数を実施した。

■ その他

医局会を 11 回（8 月を除く毎月）開催した。主な議題は以下のとおり。

- ・ 毎月の病院決算報告、人事報告
- ・ COVID-19 への対応に関する事項
- ・ 医療安全に関する事項
- ・ 医局内プロジェクトの進捗状況
- ・ 研究経過報告

COVID-19 への対応として、塾内および病院内の周知事項を確認するとともに局員への意識を徹底させた。

毎年一定数受け入れを行っていた国外留学生は、COVID-19 の影響で本年は受け入れを見送った。反対に、夏季や冬季の大型連休を利用した国内医学生による当科見学は、例年と大きく変わらず応募があり、短期間ではあるもののスポーツ医学のエッセンスを学んで頂いた。

東京 2020 オリンピック・パラリンピックが 2021 年へと延期になったが、引き続き推薦メディカルチェック協力医療機関として従事した。また医局員の多くが同イベントの執行部や選手村でのドクター業、各会場帯同ドクター業を引き続き行う予定となっている。

漢方医学センター

1 診療体制

■ 対象疾患

- <消化器系>胃腸障害(胃炎・胃痛・吐き気など)
/逆流性食道炎/過敏性腸症候群/便秘下痢症など
- <皮膚系>アトピー性皮膚炎/じんま疹/皮膚そ

う痒症/にきび/尋常性乾癬など

<婦人科系>月経困難症/月経不順/続発性無月経/不妊症/更年期障害など

<整形外科系>腰痛/肩こり/下肢のしびれ・痛み/関節痛など

<生活習慣病>高血圧/糖尿病/肥満など

<精神疾患系>不眠症/パニック障害/不安神経症/うつ病など

<小児科系>虚弱体質/夜泣き/癩癩/おねしょ/腹痛など

<その他>頭痛/易疲労/がん術後の免疫療法/花粉症/気管支喘息/冷え症/前立腺肥大症/膠原病/認知症に伴う症状など

■ 専門外来

漢方アトピー外来

■ スタッフ構成（2021 年 3 月時点）

助教（専修医を除く） 1 名

*専任・常勤のみ。

<院内役職者>

センター長 三村 将

医局長 堀場 裕子

2 主な診療実績

初診患者数 130 人

再診患者数 6,581 人

3 その他の活動実績・取り組み等

COVID-19 の拡大により、通常の外来診療に併せて、電話診察を多く行った。

週 1 回行っている勉強会、研究発表会、また月 1 回行っている生薬勉強会は zoom で行い、勉強へのモチベーションを維持した。

院内活動としては、職員食堂で漢方煎じ（葛根湯）を飲んでいただくことで、職員へのサポートを行なった。

他科と連携して漢方勉強会を年 2 階程度行っているが、本年度も呼吸器内科と COVID-19 をテーマにした勉強会を zoom で開催した。zoom で行うことにより、遠方や慶應関連施設の医師などにも視聴して

いただくことができた。

臨床遺伝学センター

1 診療体制

■ 対象疾患

<先天性疾患>

遺伝性疾患全般(5,000以上の疾患について遺伝学的検査が可能)/染色体異常症/先天異常症候群/診断不明等

<出生前診断・着床前診断>

染色体異常症/単一遺伝子疾患(Duchenne型筋ジストロフィー/筋強直型筋ジストロフィー/福山型筋ジストロフィー/先天性水頭症/オルニチントランスカルボミラーゼ欠損症等)/習慣流産/ミトコンドリア病/不妊症/男性の乏精子症/無精子症/性分化異常/不育症等

<遺伝性腫瘍>

遺伝性乳癌・卵巣癌/リンチ症候群/マイクロサテライト不安定性陽性腫瘍/家族性大腸腺腫症/リ・フラウメニ症候群/ポイツ・ジェガース症候群/遺伝的素因が疑われる癌および遺伝性腫瘍等

<皮膚疾患>

遺伝性皮膚疾患全般/表皮水疱症/レックリングハウゼン病/白皮症/結節性硬化症/基底細胞母斑症候群等

<耳鼻科疾患>

先天性難聴等

<神経筋疾患>

筋強直性筋ジストロフィー/ハンチントン病等

<循環器疾患>

不整脈/心筋症/肺高血圧症等

■ 検査

遺伝性疾患の遺伝学的検査(遺伝子検査)

■ スタッフ構成(2021年3月時点)

教授	1名
専任講師	1名
助教(専修医を除く)	2名

*専任・常勤のみ(有期を含む)

<院内役職者>

センター長	小崎 健次郎
副センター長	村田 満
外来担当医長	田中 守

2 主な診療実績

初診患者数 63人

再診患者数 600人

診断のつかない患者に対して、多数の遺伝子を同時に解析することで診断をつけようとする国のプロジェクト「未診断疾患イニシアチブ」の拠点施設となっている。

がんゲノム医療中核拠点病院として遺伝性腫瘍の遺伝カウンセリングに取り組んでいる。

3 その他の活動実績・取り組み等

詳細な病歴聴取・診察・遺伝学的検査(全ゲノム解析を含む)を通じて、個別の患者の疾患の原因を判断し、診療に役立てようとしている。遺伝性疾患にかかわる相談(遺伝カウンセリング)を提供している。

■ 先天性疾患に対する遺伝学的検査

小児慢性特定疾病や指定難病などの稀少疾患の多くは遺伝子変異により発症する。保険診療で実施が可能な検査と自費で行われる検査に分けられる。保険で実施が可能な検査はまだ種類が限られている。

■ 遺伝性腫瘍患者の遺伝学的検査

がん患者の数%は、がんになりやすい体質をもっている。家族に複数の罹患者がいる場合や若い年齢で発症した患者には、このような体質を持つ可能性があり、希望により専門的な説明や遺伝子の検査を提供している。最近、がん組織の遺伝子を調べた結果、がんになりやすい体質を持つことが判明する場合もあり、外科系診療科と連携している。

■ 出生前遺伝学的検査・着床前遺伝学的検査

倫理的に配慮し、十分な時間をかけて、NIPTを含む出生前診断を提供している。

患者・家族の状況に応じて着床前遺伝学的検査も提供している。なお、遺伝性疾患に対する着床前遺伝学

的検査は、倫理委員会による承認が必要になる。

■ 診断不明の患者のゲノム解析

体の設計図ともいわれる DNA の配列（遺伝子）を最先端の分析機器を使って幅広く調べることで、従来の医学的検査で診断のついていない患者の診断の手がかりとする全国プロジェクトを主導している。この方法で現在までで当センターで診断がついた患者は 500 名を越えた。小児科や内科などの各診療科から「診断不明」として紹介を受け、カンファレンスにより研究参加の適否について判断を行っている。

免疫統括医療センター

1 診療体制

■ 対象疾患

関節リウマチ/クローン病/潰瘍性大腸炎/ベーチェット病/乾癬/強直性脊椎炎/キャスルマン病/発作性夜間ヘモグロビン尿症/全身性エリテマトーデス/スティル病/乾癬性関節炎/掌蹠囊胞症/多発血管炎性肉芽腫症/顕微鏡的多発血管炎/難治性ネフローゼ症候群/慢性特発性血小板減少性紫斑病

■ 専門外来

リウマチ専門外来/クローン病潰瘍性大腸炎専門外来/皮膚免疫疾患専門外来/整形外科専門外来

■ スタッフ構成

<院内役職者>

センター長 金子 祐子

2 主な診療実績

外来患者数 1,533 人

センター治療室治療実績総数 14,200 人

(専門科外来での生物学的製剤治療もセンター治療室が一括して実施)

3 その他の活動実績・取り組み等

本年度は、COVID-19 の流行の中でも、継続的に自己免疫疾患における安全な診療を進めた。当センターは、リウマチ・膠原病内科、消化器内科、皮膚科、

整形外科など多診療科が参画し、医師、看護師、薬剤師による免疫疾患に対する治療をチームで実践している。特に関節リウマチ、炎症性腸疾患、乾癬などの自己免疫疾患においては、診療科領域を超えた臨床症状と病態を呈するため、合同勉強会を開催するなどの密なコミュニケーションを通じて、最新の医療知識と多角的な診療体制の共有に努めた。新規標的生物学的製剤の登場と、剤形の多様化に伴って、薬剤師による有効性と安全性を含めた治療薬情報管理と効率的かつ安全で確実な調剤、看護師による点滴管理および患者に対する自己注射指導を継続した。持続可能な感染予防対策と安全管理、アドヒアランスの向上を可能にするため、患者一人一人に対する病状把握、生活環境に合わせた治療を行えるよう、今後も日々の診療を継続する。

緩和ケアセンター

1 診療体制

■ 対象疾患

当センターでは、病気や治療に伴う痛み・しびれ・息苦しさなどのからだの症状や、不眠、不安、抑うつなどの精神症状に対する診療を行っている。また、在宅療養支援、公的サービス、緩和ケア病棟、ホスピスの紹介についても、専門の看護師がサポートを行っている。主にごがん患者を対象としているが、心不全や呼吸不全などの重症慢性疾患への対応も行っている。

■ 専門外来

家族外来：がん患者のご家族・ご遺族のカウンセリングを実施している。

■ スタッフ構成（2021年3月時点）

専任講師 1名

助教（専修医を除く） 1名

*専任・常勤のみ（有期を含む）

<院内役職者>

センター長 橋口 さおり

2 主な診療実績

緩和ケアチーム依頼数	448 件
外来初診件数	62 人

3 その他の活動実績・取り組み等

- がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催

COVID-19 への対策として参加人数を制限し、対面形式で集合研修を開催した。

2021 年 11 月 17 日：4 名修了

2020 年 12 月 19 日：12 名修了

- がんプロフェッショナル養成プラン・インテンスコース「高齢がん患者に対する緩和医療実践コース」の実施

本学大学院博士課程在籍中の医師 4 名が参加した。

- 緩和ケアリンクナース研修の実施

講義 75 分×6 回

実地研修 半日

院内の看護師計 8 名が参加し、緩和ケアリンクナースとして認定された。

- 第 11 回城西緩和ケア講演会

新型コロナ感染症への対策として、はじめての Web 開催となったが、多数の参加者があった。

手術・血管造影センター

1 診療体制

- 概要

当センターは、入院・外来患者の定期・緊急手術、血管造影・IVR（カテーテル治療）が行われる施設である。手術室は 25 室、血管造影・IVR 室が 5 室あり、手技が多種多様で必要とする部屋の機能が様々であるためそれぞれが少しずつ異なる機能を持っている。

当センターでは、医師（外科系、麻酔科、内科系、放射線科）、看護師、薬剤師に加え、臨床工学士、放射線技師、その他滅菌・清掃技術員・物流業者などのメディカルスタッフが協力し、セン

ターを利用する患者により安全で質の高い治療、看護を提供できるよう体制を整えている。

- スタッフ構成

<院内役職者>

センター長 松本 守雄

副センター長 陣崎 雅弘

第 1 ユニット長 山田 高成

第 2 ユニット長 佐藤 和毅

第 3 ユニット長 中塚 誠之

第 4 ユニット長 林田 健太郎

2 主な診療実績

総手術件数	12,280 件
入院	10,146 件
外来	2,134 件
全身麻酔	6,755 件

3 その他の活動実績・取り組み等

- COVID-19 への対応

4-5 月は COVID-19 の影響が非常に大きかった。医療資材の供給不足により予定手術を大幅に縮小せざるを得なかったが、延期のできない症例や当院でしかできない治療を限られたリソースを駆使して継続診療した。感染症例の手術では陰圧手術室を活用し、スタッフ教育も拡充して安全な体制で診療を実施できた。6 月以降は徐々に診療体制も整い、通常通りの手術診療が可能となった。

- 高難度手術の増加

一般の他施設では対応困難な高難度の手術症例が増加した。複数診療科が関与して協同で治療に当たる機会が大幅に増加したが、web カンファレンスを活用して事前協議を綿密に実施することができるようになり、難度の高い手術も安全に実施できる体制が整った。

- ハイブリッド手術の拡大

多軸血管造影装置を搭載したハイブリッド手術室の稼働が増加。3D 血管造影装置を駆使し、カテーテルによる血管内治療と外科手術を組み合わせた世界最先端の手術を展開している。従来困難であった心

臓や脳疾患への先進的な治療では、外部からの見学希望にも多く対応した。

■ ロボット手術

手術用ロボットの稼働率が100%となり、増台予定。各種の疾患に対して、精細で低侵襲のロボット手術は適応も増えたばかりか、新たな術式への応用も期待されており、引き続いての実施増が見込まれる。

集中治療センター

1 診療体制

■ 対象疾患

当センターは、「疾患あるいは外傷等により単一あるいは複数重要臓器機能が低下あるいは低下の危険性にある状態が継続している患者を収容し、迅速かつ持続的に観察並びに治療することにより健康を回復し合併症の発症を防ぐこと」が主たる目的である。そのため治療対象の疾患群は多岐に及び、具体的には意識障害または昏睡、急性呼吸不全または慢性呼吸不全の急性増悪、急性心不全(心筋塞を含む)、急性薬物中毒、ショック、重篤な代謝障害、大手術後、心肺蘇生後、その他外傷、破傷風等で重篤なものとなり、日々様々な事由により生命危機の危険性のある患者治療に当たっている。

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

<院内役職者>

センター長 森崎 浩

副センター長 長田 大雅

2 主な診療実績

ICU 入室患者	932 件
非手術	168 件
予定手術	702 件
緊急手術	62 件
人工呼吸管理	426 件
ECMO	4 件
IABP	10 件
血液浄化療法	73 件

3 その他の活動実績・取り組み等

当センターは、ICU12床、HCU26床で構成されており、麻酔科医が専従医として常駐し、主治医と協力して265日24時間体制で患者管理を行っている。2020年8月からはICUを2床増床(10床→12床)し、重症患者の受け入れ態勢を強化した。コロナ重症チームの一員として、COVID-19感染患者の増減に応じて通常診療とコロナ対応のバランスをとることで予定手術や緊急患者対応を減らすことなくコロナ患者の対応も行った。ICUでは1年間に延べ1171名の患者を受け入れ、内コロナ重症患者46名の管理を行った。

ICUにおいては、早期リハビリ加算、早期栄養加算を満たす体制をとっており、ICU専従医、リハビリ科医師、ICU看護師、臨床工学技士、理学療法士、管理栄養士、ICU担当薬剤師によるカンファレンスを連日行い、患者の病態に応じて適切に対応できる体制をとっている。

■ 呼吸ケアチーム

院内一般病床の人工呼吸患者を集中治療専門医、集中治療認定看護師、臨床工学技士、理学療法士による呼吸ケアチームで診療している。本年度は72名の患者の人工呼吸管理を行い、呼吸器離脱や転院・在宅管理の促進に寄与した。

■ Rapid Response Team

院内急変を減らす目的で、Rapid Response Systemを導入しており、急変のリスクを検知し早期対応を行っている。今年度は、小児病棟を除く全病棟で導入し、ICU/HCUでの早期治療や病棟での管理アドバイスを行うことで急変を予防し回復につなげた。

救急センター

1 診療体制

■ 概要

通常診療時間内は、救急科が救急搬送される中等症(二次救急)および重症患者(救命救急センターの

適応となる三次救急)に対して初期対応を行っている。通常診療時間外である休診日・夜間は全科当直もしくはオンコール体制になっており、自力受診可能な軽症患者(一次救急)を各診療科が、救急搬送患者(二次・三次救急)は救急科が中心となり診療を担当する。このように、当院救急センターは主に三次救急患者の診療を行う「救命救急センター」と異なり、重症度の区別なく全ての救急患者の診療を行う「全次型救急」を基本方針とする北米型 ER スタイルを導入している。

また、東京都災害拠点病院として、災害時には医療救護活動の拠点となるとともに、災害派遣医療チーム(DMAT; Disaster Medical Assistance Team)を編成し、日本全国の災害地へも迅速に医療支援を行う体制を整えている。

■ スタッフ構成 (2021年3月時点)

<院内役職者>

センター長 松本 守雄

2 主な診療実績

自力受診患者数 7,706 人

救急車搬送患者数 5,883 人

<救急センター経由>

入院患者数 1,834 人

緊急手術 17 件

緊急心臓カテーテル 3 件

緊急消化管内視鏡 2 件

血管造影 2 件

3 その他の活動実績・取り組み等

当センターは1号館1階の1Eエリアに位置し、外苑東通りからのアクセスがよく、救急車および休日夜間の walk in 患者は正面受付を通らず直接来院可能である。当センターは12室の初療室(うち重症処置室3室、陰圧室6室)と5床の経過観察ブース、CTスキャン室、レントゲン室(一般撮影、歯科パノラマ撮影)で構成され、眼科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科が専門処置を行える設備も整えている。また、手術室やICU/HCUへ直通のエレベーターが

あり、重症患者への迅速な対応が可能となっている。

■ 院内救急対応

院内急変患者が発生すると当センターに連絡が入り、常駐する救急医が現場に駆けつけ対応する体制が整っている。本年度は124件の院内救急に対応した。

■ COVID-19への対応

本年度はCOVID-19の影響で診療が大幅に制限されたが、感染制御部の協力のもと受診患者のスクリーニング、ゾーニングやPPEを適正に使用することで通常の救急診療を行いつつ、コロナ患者の受け入れを開始し、当センターを経由して多くの中等症～重症の患者が入院した。

< 診療支援部門 >

看護部

1 概要（組織目的）

看護部は、建学の精神に則り、「患者を尊重し、患者の QOL を高める看護実践」を通じて、大学病院の社会的役割遂行に協力・協働する。

■ 基本方針

- (1) 私たちは、チーム医療の中で切れ目のない患者中心の看護を提供します
- (2) 私たちは、高い倫理観を持ち自ら考える看護師を育成します
- (3) 私たちは、お互いの看護観を認め共に成長できる環境を築きます

2 スタッフ構成

看護部長	加藤 恵里子
看護部次長	4 名
師長	33 名
主任	58 名
副主任	42 名
臨床指導ナース	12 名
看護師	885 名 (臨時・嘱託 40 名を含む)
准看護師	1 名
専門看護師：5 領域	11 名
認定看護師：16 領域	32 名
ナースアシスタント	83 名
クラーク	47 名

3 業務内容

- (1) 保健師助産師看護師法等法令に基づき、安全・安心を担保した質の高い看護の提供
- (2) 安全管理体制の確保・推進
- (3) 各部門・診療科との連携を通じたチーム医療の推進および患者サービスの提供
- (4) 診療報酬制度を踏まえた看護提供、病床稼働向上等による病院経営への貢献

- (5) 専門性を有する人材育成
- (6) 大学病院の使命としての臨地実習生教育ならびに学会・研究活動
- (7) 地域医療施設および外部機関等との適切かつ良好な関係維持・向上
- (8) 専門性を活かし対外的な情報発信と社会貢献
- (9) その他、診療目的の達成に必要な業務

4 活動実績・取り組み

■ 感染制御に留意した「COVID-19」ショックからの体制立て直しと機能回復

重症度に合わせた COVID-19 受け入れ体制を構築し、患者数の増減に合わせて専用病棟の管理を実施。19 年度末に発生した院内感染による診療機能制限から感染管理を徹底し復興、病床稼働率 77%まで回復した。更に ICU を 2 床増床し COVID-19 を一定数受け入れながら、HCU との連携で手術患者へのケアを行い一般床の安全な環境を確保した。

■ 看護職員の満足度が向上し、働き続けることができる労働環境整備

長期化する COVID-19 対応に対し看護スタッフのストレスを面接で把握し、「心のケアチーム」と看護管理者で支援した。ハラスメントのない職場づくりに取り組み、診療機能の制限の影響はあるが、応援支援体制の構築等により、有給休暇取得率前年度より 29.1%アップし、退職率 1.7%低下した。

■ 安全で質の高い看護提供に向けた体制整備と業務効率化、及びタスクシェアの推進

夜間看護補助者の導入により、夜間帯の周辺業務、日勤帯での直接ケアにおいて、看護補助者との協働を推進した。医師とのタスクシェアにおいては、CV ポートの穿刺、外来 CT・MRI 室での造影剤のライン確保を開始した。超過勤務時間は前年比 32%減。

■ 患者目線での環境整備の推進

IC への参画と受け止めを確認するなど、意思決定支援での役割発揮を推進した。退院支援、地域との連携にも取り組み、医療連携推進部と地域の看護・介護

施設の方とフォーラムを開催した。病院棟の工事において、患者目線での動線の確保や、コロナ禍での面会制限において、遠隔面会を実施。更に、荷物の受け渡し窓口の整備や、クリーニングの見直し、入院に必要な物品のセットレンタル等、入院環境整備を実施した。

■ 専門性の高い看護職の人材育成体制整備、及び看護医療学部との連携推進

オリンピック要員を派遣するにあたり、研修を実施し23名を育成した。また、治験コーディネーター1名、アドバンス臨床指導ナース1名、放射線看護・透析看護領域の認定看護師各1名が新たに誕生した。特定行為研修活用の方向性を明確にし、次年度1名が研修受講する準備を整えた。看護研究の活性化においては、外部講師による研究支援活動を継続した。

薬剤部

1 概要（組織目的）

薬剤部は、調剤、服薬指導、医薬品情報の収集・評価と提供、医薬品管理、院内製剤、注射薬混合調製等、薬剤に関する様々な業務を展開し、院内外の他の医療スタッフと連携しながら、患者に信頼される質の高い安全で安心な医療を提供することを目的としている。また、薬学部と連携し、実務実習生の受け入れを通じ、医療の高度化に対応した薬剤師の育成にも力を注いでいる。

2 スタッフ構成

部長代行	三村 将
副部長	青森 達
次長代理	村松 博
課長	山吉 康子（調剤）
課長	津田 壮一郎（注射・製剤）
課長	早川 智久（情報・管理・治験）
主任	小谷 宙（調剤）
主任	松尾 健介（調剤）
主任	櫻井 洋臣（注射・製剤）

主任	島村 奈緒美（注射・製剤）
主任	磯上 一成（情報・管理・治験）
その他	
専任職員	65名
嘱託職員	22名
臨時職員	14名
事務員	3名

3 業務内容

- (1) 処方せん調剤業務
- (2) 注射薬混合調製業務
- (3) 薬品管理業務
- (4) 医薬品情報業務
- (5) 治験業務
- (6) 薬剤管理指導業務
- (7) 入院前持参薬鑑別業務
- (8) 薬事委員会事務局業務
- (9) 製剤業務
- (10) 診断用放射性医薬品の検定業務
- (11) 学校薬剤師業務

4 活動実績・取り組み

■ 活動実績

- (1) 処方せん調剤業務
 - ア 外来患者
院内処方/調剤：318,421枚/927,212件
 - イ 入院患者
処方/調剤：217,912枚/441,203件
- (2) 注射薬混合調製業務
 - ア 外来患者
腫瘍センター：11,838枚/21,795件
(一般薬7,242件、抗がん剤14,553件)
免疫統括医療センター：10,794枚/15,343件
 - イ 入院患者 124,348枚/86,392件
(一般薬75,489件、抗がん剤10,903件)
- (3) 医薬品情報業務
問い合わせ件数：1,042件
TDM解析件数：2,475件
- (4) 治験業務

172 治験 2,157 件

(内服 900 件、注射 1,257 件)

(5) 薬剤管理指導業務

ア 入院

薬剤管理指導料 1+2 : 28,390 件

イ 外来

外来化学療法加算 A : 10,617 件

外来化学療法加算 B : 8,836 件

(6) 入院前持参薬鑑別業務 5,959 件

(7) 院内製剤業務 1,249 件

(8) 診断用放射性医薬品の検定業務 5,374 件

■ 取り組み

(1) 2020 年 4 月、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム「AI ホスピタルによる高度診断・治療システム」の研究の一環として、PTP シート自動払出ロボット、搬送ロボットを導入した。

(2) COVID-19 感染拡大の影響により、2020 年 4 月 14 日から 5 月 9 日の期間は職員を 2 チームに分けて輪番体制とした。

(3) 2020 年 4 月、薬剤部にて抗癌剤の調製時にプライミングまで行うことにより職業性暴露対策の強化に取り組んだ。

(4) 2020 年 5 月、医師働き方改革の一環として業務のタスクシェア・タスクシフティング検討 WG にて検討し、以下 3 つのプロトコルを開始した。

「疑義照会後の処方修正における薬剤師代行修正プロトコル」

「院外薬局からの疑義照会簡素化プロトコル」

「抗菌薬の TDM に関する PBPM」

(5) 2020 年 7 月、抗癌剤業務の効率化を目指した新たな閉鎖性器具を導入し、これに伴い登録済みのレジメン全てを整備した。

(6) 2020 年 8 月、HCU 病棟にて病棟薬剤業務実施加算 2 の算定を開始した。

(7) 2020 年 9 月、薬剤部は 2 号館 1 階へ移転し、部門システムのバージョンアップ、アンプルピッカーによる注射薬 1 施用毎の払出、散薬調剤ロ

ボットの導入を行った。

(8) 2020 年 11 月より一部の病棟で休日入院患者に対する持参薬面談業務を開始した。

(9) 2020 年 12 月より外来化学療法連携充実加算の算定を開始した。(初年度 213 件)

(10) 2021 年 2 月より薬剤師外来として妊娠・授乳と薬相談業務を開始した。

(11) 2020 年 4 月より、慶應義塾のすべての一貫校において理科室の薬品確認を開始した。

(12) 2021 年 2 月より薬剤師外来として妊娠・授乳と薬相談業務を開始し、4 月よりオンラインでの相談も開始した。

(13) 2021 年 3 月、職員接種用に COVID-19 ワクチンを調製した。

滅菌管理部

1 概要 (組織目的)

院内の診療および手術に必要な医療器材に対し、適正な消毒・滅菌を行い、感染源にならないよう完全滅菌による感染防止に努め、安全な滅菌器材を供給する。

2 スタッフ構成

部長 尾原 秀明

課長 小原 佐之 (2020 年 6 月 30 日まで)

課長 尾崎 友博 (2020 年 7 月 1 日から)

主任 那須田 宏文

技術員 3 名

3 業務内容

(1) 管理業務

ア 委託業務の管理・監督

イ 器材の購入、修理、代替器手配に関すること

ウ 借用器械の受付、払い出しに関すること

エ 持ち込み器械の受付、払い出しに関すること

オ 貸出し器材 (院内・院外) の受付、払い出しに関すること

カ インプラント資材、特殊資材 (高額資材) の発

注、資材票記入に関すること

キ 消耗品管理

(2) 委託業務

ア 委託業務・委託スタッフの管理・監督に関する
こと

イ 手術器材の洗浄、組立、滅菌処理に関すること

ウ 手術器材の供給、回収に関すること

エ 病棟、外来使用の器材洗浄、滅菌処理に関する
こと

オ 手術器材の定数管理に関すること

カ 病棟、外来器材の供給搬送・回収搬送に関する
こと

キ 院外滅菌処理器材の検品に関すること

4 活動実績・取り組み

■ 洗浄滅菌委託業務のコンペ実施

2020年12月に実施。コンペには、サクラヘルスケアサポート(株)、日本ステリ(株)、ワタキューセイモア(株)の3社が参加した。書類選考・プレゼンテーションを経て、2021年1月にワタキューセイモア(株)に決定、委託業務開始は2021年7月1日。

■ 洗浄滅菌委託業務の引継ぎ業務開始

2021年2月、院内滅菌業務を委託していたサクラヘルスサポート(株)、院内搬送・院外滅菌業務を委託していた日本ステリ(株)からワタキューセイモア(株)へ業務引継ぎを開始した。これにより、洗浄滅菌委託業務は2社から1社に変更となる。

■ コンペ実施の効果と今後

2020年12月のコンペでは、トレーサビリティシステムの導入とさらなる業務効率化の提案を必須とした。委託会社を2社から1社に変更したことで、従来の委託業務の経費が圧縮され、この圧縮経費により、トレーサビリティシステムの初期投資費用を約10年で回収する計画である。このシステムは2023年7月から一部の運用が開始される予定である。今後、洗浄滅菌の工程管理ができるようになることで、器材のより安全な運用が可能となる。

食養管理室

1 概要(組織目的)

治療の一環として、入院患者の病態に適した食事提供を行い、栄養状態の維持改善を目指す。また、栄養食事指導の実施やチーム医療の一員として多職種と連携した栄養管理を実践する。

2 スタッフ構成

室長代理	大木 いづみ
副主任	3名
管理栄養士	9名
調理師	1名

3 業務内容

(1) 給食管理業務

- ア 入院患者の食事提供
- イ 委託会社の管理監督

(2) 栄養管理業務

- ア 入院患者の栄養管理
- イ 個人栄養食事指導
- ウ 集団栄養食事指導
- エ 食物アレルギー情報の管理

4 活動実績・取り組み

(1) 入院患者の食事提供数

一般治療食 335,249食
特殊治療食 245,004食

(2) 栄養食事指導件数

個人指導 外来1,527件 入院1,410件
集団指導 0件
糖尿病透析予防指導 135件
緩和ケア 個別栄養食事管理加算 61件

(3) 給食管理業務

- ア COVID-19感染症に伴う病棟閉鎖や入院患者の減少により、食事提供数は前年度に比べ1日平均約350食減少した。
- イ COVID-19病棟への食事提供においては、特に下膳時の感染対策に配慮し衛生手順の徹底

を強化した。感染制御部や管財課とも協働し、4月からはディスプレイ食器を導入した。

- ウ 患者サービスの向上や定期的な質の改善を目的として、管財課と協働し、一般患者食の業務委託コンペを実施した。

(4) 栄養管理業務

ア 栄養相談

- ① COVID-19 感染症の影響による内科系受診患者や初診患者数の減少に伴い、栄養食事指導件数は前年度に比べ、外来で 303 件、入院で 578 件減少した。
- ② 入院栄養相談は病棟、外来栄養相談は外来エリアで実施する運用を継続し、感染対策をさらに強化した。
- ③ 感染対策による密回避のため、対面での集団指導は中止し、糖尿病教室はオンデマンド動画による配信を行った。
- ④ 栄養相談は、9月に2号館1階へ移転し、医療連携推進部との共用相談室の利用を開始。多職種と連携しやすい環境となった。
- ⑤ 12月より情報通信機器 (MeDaCa) を活用した栄養相談を糖尿病から開始した。

イ 早期栄養介入管理加算

8月下旬から、2020年度に新設された早期栄養介入管理加算の算定を開始した。2020年度は約7ヶ月で650人に介入し、うち301人(46%)が早期に経腸栄養または経口栄養を開始し、COVID-19感染症重症患者を含む集中治療室における栄養管理の介入拡大を行った。

ウ 栄養サポートチーム(NST)

COVID-19感染症の行動指針に則り、回診はカルテ回診としたが、6月中旬からは感染対策に配慮しながら、対象者を限定して回診を再開。8月から通常回診とした。NST活動開始以降、過去最多の回診件数となり、今まで依頼の少なかった診療科にも拡大できた。

医用工学室

1 概要 (組織目的)

医用工学に係る専門知識と医療技術に基づき、病院内に設置されている医療機器の適切かつ安全な運用に寄与するとともに、効率的な運用を目指すことを目的とする。

2 スタッフ構成

部長	大家 基嗣
副部長	長田 大雅
課長	平林 則行
主任	富永 浩史
副主任	3名
室員	24名
事務員	2名

3 業務内容

- (1) 手術センター業務・心臓血管外科の人工心肺業務
- (2) 心臓カテーテル
- (3) 不整脈業務
- (4) 血液浄化透析センター業務
- (5) 集中治療・人工呼吸器管理業務
- (6) 医療機器管理室業務

4 活動実績・取り組み

- (1) 病棟管理医療機器管理担当を新設し、テレメーターやセントラルモニターの保守管理や故障対応の開始
- (2) 幹細胞採取業務の対応
- (3) 血管造影室の増室対応の実施 (これまで2列を3列並列まで対応)
- (4) COVID-19のため、ECMOなどの循環装置や人工呼吸器を含めた呼吸療法の運用及び関連資材の管理

<実績>

- (1) 手術センター業務・心臓血管外科の人工心肺業務

術中誘発電位検査	700 件
人工心肺件数	194 件
(2) 心臓カテーテル	
心臓カテーテル検査	514 件
心臓カテーテル治療	340 件
(3) 不整脈業務	
不整脈治療	216 件
ペースメーカー（新規・交換）	76 件
(4) 血液浄化透析センター業務	
血液透析件数	3758 件
(5) 集中治療・人工呼吸器管理業	
人工呼吸器点検台数	634 台
PCPS（ECMO 含む）	2 件
(6) 医療機器管理室業務	

放射線技術室

1 概要（組織目的）

放射線技術室は、画像検査および放射線治療業務の適切な管理、運営、環境整備等を行い、患者等に質の高い医療サービスを提供する。また、大学病院の経営効率化および医療安全の確保に資することを目的とする。

2 スタッフ構成

室長	田原 祥子	
課長	岡部 幸司	中島 清隆
	布川 嘉信	中村 祐二郎
主任	6 名	
副主任	8 名	
スタッフ	68 名	
計	87 名	

3 業務内容

- (1) 安全・安心を担保し、精度の高い画像検査・放射線治療技術の提供
- (2) 法令に基づく放射線診療における医療被ばくの線量評価と適正化の実施
- (3) 法令に基づく医療用放射線関連機器の安全な取

- り扱いと保守管理
- (4) 診療ニーズを考慮した画像検査・放射線治療の実践と病院経営への貢献
 - (5) 各部門・部署との連携を通じたチーム医療の推進および質の高い患者サービスの提供
 - (6) 日々進歩する先進的な高度医療技術の実践に必要な業務
 - (7) 専門性を有する人材の育成
 - (8) 大学病院の使命としての臨地実習生教育ならびに学会・研究活動
 - (9) 他施設に対する専門性を活かした情報発信と教育指導・社会貢献
 - (10) その他、診療目的の達成に必要な業務

4 活動実績・取り組み

- (1) COVID-19 対策
 - ア 4 月から 5 月中旬まで感染拡大防止を目的として、BCP に基づくシフト勤務を実施。
 - イ 一般撮影部門：外来・入院患者の動線ならびに撮影室のゾーニングを徹底し、看護部と連携して病棟撮影業務の平準化を推進した。
 - ウ COVID-19 に関する補正予算により CT 装置を更新した。感染対策を徹底し、新型コロナ陽性患者の画像検査を実施した。
- (2) CT・MRI における業務改善

大学病院として必要とされる画像検査の実施、スタッフの負担軽減を目的として CPM(Clinical Performance Management)を利用して課題解決となるデータ分析を開始した。
- (3) 放射線部門のペーパーレス化にむけて

AI ホスピタルプロジェクトにおいて教職員健診、一般撮影における依頼票等のペーパーレス化を立案し、実現に向けて関連部門と検討を開始した。
- (4) 医療安全管理活動への参画

医療安全管理部、放射線診断科と連携して画像検査要対応症例に対し、依頼医への通知、対応確認体制を構築した。

<検査実績>

単純撮影	135,362 件
------	-----------

一般造影	6,356 件
骨密度	5,178 件
乳腺	3,651 件
超音波	27,949 件
MRI	26,903 件
CT	51,154 件
血管造影	3,056 件
PET	5,374 件
SPECT	4,464 件
放射線治療	12,906 件

臨床検査技術室

1 概要（組織目的）

臨床検査技術室は臨床検査科、輸血・細胞療法センター、病理診断科、産科（胚培養士が関わる業務）、また、感染制御部および医療安全管理部に臨床検査技師、胚培養士等を配属し、円滑な業務を遂行する。

2 スタッフ構成

室長	横田 浩充
課長	荒井 智子
課長	大野 明美
課長	深町 茂
主任	山方 純子
主任	野口 昌代
主任	羽鳥 泰子
主任	谷田部 陽子
主任	猪瀬 里夏
主任	五十嵐 靖浩
主任	吉田 由紀子
主任	宇津野 宏樹
その他	臨床検査技師および技術員 154 名

3 業務内容

- (1) 臨床検査および輸血製剤・細胞療法等にかかわる業務の確実かつ安全な実施
- (2) 診療ニーズを考慮した臨床検査業務の実践と病院経営への貢献

- (3) 各部門・部署との連携を通じたチーム医療の推進および患者サービスの提供
- (4) 日々進歩する先進的な医療展開に必要な業務の実施
- (5) 専門性を有する人材の育成
- (6) 臨地実習生教育と学会・研究活動
- (7) 他施設に対する専門性を活かした情報発信と教育指導・社会貢献
- (8) その他、診療目的の達成に必要な業務

4 活動実績・取り組み

■ コロナ禍において安全性を考慮した業務運営の実践

患者の密を回避した外来採血・心電図検査の運営を目指した。特に午前 8 時～11 時における患者待ち時間の短縮が課題であったため、午前 8 時～9 時半の時間帯における採血者を 17 名に増員し、対応した。その後、患者待ちが解消された時間帯の 10 時過ぎには各検査室への要員配置を行った。会議および研修・教育、カンファレンスにおいては Web 会議を活用し、職員の密の回避に努めた。つぶさな業務管理を行い、患者および職員の安全を確保し、合理的な業務運営を行った。また、臨床検査科および輸血・細胞療法センターは 24 時間の業務対応を継続した。

■ 他部門との連携

看護部や事務部門、感染制御部と協働し、感染対策、迅速なコロナ PCR 検査の運用を継続した。接触者対応における突発の検体採取にも対応し臨床検査技師を派遣した。また、コロナ PCR 検査の増加（300～400 件/日、4 月および 8 月）にも、要員の業務工面を行い対応した。新規事業（予防医療センターの移転）については、課長・主任・副主任を総動員して計画立案を行った。今後は本事業に対応できる要員の採用と業務研修が課題である。輸血細胞療法センターについては先端的な細胞療法（再生医療等製品）への対応を行った。病理診断・産科（胚培養）の業務運用については、医療サービスに対応した人員配置を実践した。

■ 質を確保した臨床検査の提供

ISO15189 の要求事項に基づき、技術室全体の品質管理システムに沿った組織運営を行った。具体的には品質管理者の育成、ならびに毎月の教育カンファレンスを実施した。また、2021年2月にはISOサーベイランスを受審し、是正箇所の対応を行い、更新試験に合格した。

■ 職務品質の向上と職員の育成プログラムを策定、実践

臨床検査技術室全体を通じて、次の課長候補の育成、室長候補の育成が課題である。職員の管理能力の向上を図ることを目標とした育成プログラムを実践した。具体的には10月以降、毎月の主任連絡会を通じて横断的な職務の理解、2021年1月には「新たな臨床検査技術室の構築、運営」としたテーマで、今後の方向性を確認、討議した。

<実績>

検体検査	院内検査	7,480,031 件
	微生物検査	118,349 件
	外部委託検査	199,875 件
生理機能検査	心機能	55,071 件
	小児心機能	4,874 件
	肺機能	6,386 件
	神経機能	5,636 件
	血管	3,284 件
病理検査	組織診断	18,801 件
	細胞診	19,956 件
	輸血検査	62,384 件
外来患者採血者数		223,911 件
不妊治療外来業務	採卵	316 件
	融解胚移植	317 件
	人工授精	318 件

< 臨床研究・教育部門 >

臨床研究推進センター

1 概要（組織目的）

臨床研究推進センターの社会的使命（Mission）は「社会のニーズに応じた最適な医療が提供できるよう、より優れた医療技術を常に探求し、人類の健康増進に寄与する」であり、それを実現するための体制（Vision）を「専門的スキルを磨き続ける構成員が一体となって、新たな医療技術を創出するために理想的な拠点を形成する」としている。

2 スタッフ構成

センター長	佐谷 秀行	
副センター長	副島 研造	
ネットワーク支援部門		1名
トランスレーショナルリサーチ部門		21名
再生医療等支援部門		4名
臨床研究支援部門		20名
生物統計部門		4名
臨床研究実施部門		17名
バイオバンキング支援部門		2名
臨床研究企画推進部門		9名
教育研修部門		4名
広報部門		1名
臨床研究事務部門		33名
センター長付		5名

* 人事上の所属が臨床研究推進センター以外のセンター員は除く。

3 業務内容

- (1) 医薬品・医療機器・診断薬・再生医療など、様々な分野の研究開発をサポートする。
- (2) アカデミア・企業を問わず、基礎・非臨床・研究のどのステージも受け入れる。
- (3) 最適な知財戦略、産学官連携、非臨床試験および臨床試験計画のデザイン、規制当局対応などの支援パッケージを提案、基礎研究の成果を戦

略的に臨床試験まで橋渡しする。

- (4) 早期・探索段階も含む ICH-JCP 対応の医師主導治験および企業試験の実施を支援する。
- (5) 早い段階で積極的に企業へ導出し 1 日も早い実用化を目指す。

4 活動実績・取り組み

■ 橋渡し研究支援

研究シーズ段階毎のシーズ開発支援状況

(2021年3月31日現在)

シーズ A：関連特許出願を目指す基礎研究課題	54件
シーズ B：非臨床 POC(概念実証:Proof of Concept)取得および治験届出を目指す課題	58件
シーズ C：治験又は高度医療等を実施し、臨床 POCを目指す課題	24件
シーズ H：医学・歯学・薬学系以外の異分野領域からの医療応用に向けた研究開発課題	16件
橋渡し研究支援による主要な研究領域	
がん	56件
免疫	18件
再生医療	19件

■ 治験・臨床研究

- (1) 治験審査委員会で承認された新規治験契約件数 41件
うち、医師主導治験件数 5件
- (2) 当院で許可した臨床研究法下の新規研究課題件数 25件
- (3) 医学部倫理審査委員会で承認された新規研究課題件数 361件

当センターでは、基礎研究から臨床研究・治験、さらに実用化まで各研究開発プロセスを一貫して支援する体制により、日本発の革新的な医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術の開発につながるよう、上記の主要な研究領域を含め幅広く研究課題の支援を実施している。

■ 首都圏 AR コンソーシアム (MARC)

慶應義塾大学（臨床研究推進センターが主体）は MARC 代表機関として、首都圏に集積するアカデミアの優れた研究成果をもとに革新的な医療技術や医

薬品等を効率的かつ持続的に創出する研究体制の構築や、教育、多施設臨床研究や異分野研究の発掘・支援を行うため、「体制整備」「シーズ発掘」「教育・人材交流」「臨床研究」「領域融合」の5つのワーキンググループを中心にMARC加盟24機関(2020年度末時点)と共に連携・相互支援体制を構築しながら活動を継続している。

臨床研究監理センター

1 概要(組織目的)

臨床研究監理センターは、当院の理念および臨床研究実施方針に基づく、臨床研究・治験の適正な実施を確保するため、病院長の責務として適用規制(法令および倫理指針等)に規定された業務の実施を補佐することを目的として、2019年8月設置された。

2 スタッフ構成

センター長	1名
副センター長	1名
研究基盤部門員	4名(専従)
ライセンス教育部門員	2名(兼務)

3 業務内容

- (1) 臨床研究に係る倫理等の教育研修計画の策定および教育・研修の実施
- (2) 臨床研究の信頼性保証に係る監査等の実施
- (3) 臨床研究に係る有害事象・疾病等の安全性情報への対応
- (4) 臨床研究に係る法令および倫理指針等への適合に必要な業務
- (5) その他、病院長の指示する業務

4 活動実績・取り組み

- (1) 臨床研究に係る倫理等の教育研修計画の策定および教育・研修の実施
6月、全教職員向けe-learningとして「臨床研究・治験と安全管理」を制作し、年度末までに全員受講完了を達成した。また6月と12月、臨床研究推進

センターと共同で開催した臨床研究講習会において、「臨床研究倫理-実践編」として計96名を対象に教育研修を実施した。

(2) 臨床研究の信頼性保証に係る監査等の実施

通年実施した「法・倫理指針適合性監査」により、計36課題を対象に適用規制への適合状況に関する調査を行い、認められた所見計73件について、CAPA対応(是正措置、再発予防措置)に関するフォローアップを行った。

また臨床研究中核病院として、臨床研究・治験の基盤的機能を担う部門を対象とするシステム監査を、3部門(特定認定再生医療等委員会、治験審査委員会、臨床研究推進センター臨床研究支援部門企画運営ユニット(PMO))を対象に実施した。

(3) 臨床研究に係る有害事象・疾病等の安全性情報への対応

倫理指針(人医学系指針、ゲノム指針)、臨床研究法、再生医療等安全性確保法に基づく各種臨床系研究において認められた重篤有害事象(SAE)報告61件、疾病等報告61件について評価を行い、病院長による対応を支援した。

(4) 臨床研究に係る法令および倫理指針等への適合に必要な業務

各種臨床系研究において提出された定期報告1350件、終了・中止報告269件、逸脱・不適合報告208件について評価を行い、病院長による対応を支援した。

(5) その他、病院長の指示する業務

「臨床研究ライセンス制度」の運用を担当し、慶應義塾大学医学部の方針、及び慶應義塾大学病院の理念ならびに臨床研究実施方針に沿った臨床研究の積極的推進のため、延べ2,919名(2021年3月時点)の医学部・病院教職員の研修および資格認証を担当した。

また、医学部・病院臨床研究委員会(CMoC)の事務局を担当し、運営会議(月次:年12回)および全体会議(年2回:6月、2月)の開催を通じて、各種臨床系研究の研究対象者保護、科学的妥当性と

信頼性の確保、及び法令・諸規則の遵守に関する研究者等の適正な資質の涵養、また医学部の方針ならびに病院の理念及び臨床研究実施方針に沿った臨床研究の積極的な実施を図った。

卒後臨床研修センター

1 概要（組織目的）

卒後臨床研修センターは、慶應義塾大学病院卒後臨床研修制度（研修医課程）に関する内規に基づく臨床研修体制を整備・管理し、臨床研修に関連する業務を円滑に遂行することを目的とする。

2 スタッフ構成

センター長	平形 道人
副センター長	内田 浩
副センター長	本間 康一郎
副センター長	堀口 崇
センター員	10 名
課長	岡本 純一
主任	北村 悦子
事務員	4 名

3 業務内容

- (1) 各関係機関との調整により研修プログラムを企画・立案すること
- (2) 研修医を募集・選考すること
- (3) 研修医の在籍状況を管理すること
- (4) 慶應義塾大学病院初期臨床研修管理委員会（以下「研修管理委員会」という。）と協力の上で、臨床研修が滞りなく実施されるよう研修実務全般に関わる調整を行うこと
- (5) 研修指導医を養成すること
- (6) 各研修施設における研修内容を評価すること
- (7) 病院長の指示に基づいて、研修業務の運営のために必要な事項を企画・立案すること
- (8) その他研修業務を円滑に実施するために必要な事項について検討し実施すること

4 活動実績・取り組み

- (1) 次年度研修プログラムを企画・立案、東京都へ年次報告、プログラム変更届を提出。
- (2) リクルート活動として各コースのプログラム説明会を 2 回開催、医科研修医採用試験を 2 回実施。
 - 第 1 回試験 2020 年 8 月 1 日
 - 第 2 回試験 2020 年 9 月 12 日
- (3) 研修医の出退勤・検温状況を各システムにより管理。
- (4) 会議体の開催
 - ア 研修管理委員会をメール審議含め 3 回開催、研修医の修了認定、中断・休止、採用等を審議。
 - イ 卒後臨床研修センター会議を 10 回開催、主な議題は、研修プログラム・入職者オリエン・研修診療科ローテーション・リクルートに関する行事企画・採用・医療安全・感染対策・研修医の労務管理に関する事項等
- (5) 臨床研修協議会主催のプログラム責任者養成講習会へセンター員 2 名を派遣。
- (6) 本年度は COVID-19 感染拡大のため、研修協力施設における地域医療研修を実施できなかったが、各施設と緊密に連絡を取り情報共有を行った。
- (7) 病院長の指示に基づき、厚生労働省令の 2022 年度から研修を開始する基礎研究医プログラムについて、基幹型臨床研修病院である大学病院として届出申請。定員 2 名が承認され、2021 年度に募集開始となった。
- (8) COVID-19 感染拡大の中、研修を安全・円滑に実施するために、研修開始前スタンダードプリコーション試験合格を必須とし、合格後に研修開始。多数が参集する会議や研修は Web、動画配信、e-learning 等を利用し、円滑に遂行した。

< 管理部門 >

医療安全管理部

1 概要（組織目的）

医療安全管理部は「質の高い医療の提供」を目指し、組織横断的に院内各部署・各職種と連携して医療に係る安全の向上に取り組み、支援していくことを目的とする。

2 スタッフ構成

部長	長谷川 奉延
副部長(専従医師)	藤澤 大介
副部長(医師)	2名
次長	市川 二葉
課長	梅田 光代
主任	松前 拓己
薬剤師	2名
看護師	1名
事務員	4名
派遣	1名

3 業務内容

- (1) 医療安全管理体制の構築
- (2) 医療安全に関する職員への教育・研修
- (3) 医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価
- (4) 院内ラウンドを行い現場環境、医療安全管理マニュアルの遵守状況及び策定した改善対策の実施状況の確認及び指導
- (5) 医療事故発生時の対応

4 活動実績・取り組み

- (1) 医療安全管理委員会（年間12回）
- (2) セーフティマネージャー会議（年間6回）
- (3) インフォームドコンセント委員会（年間4回）
- (4) 薬剤に関する医療安全検討委員会(年間10回)
- (5) 特定機能病院監査委員会（年間2回）
- (6) 医療安全相互ラウンド

- (7) 医療安全講習会（e-learning）（年間3回）
- (8) 必須研修の実施（e-learning）（年間3回）
- (9) 院内医療安全ラウンド
- (10) 医療安全に関するマニュアルの改訂
- (11) インシデント・アクシデント報告の対策立案
- (12) 医療法に基づく検証委員会
- (13) 臨床倫理委員会
- (14) 虐待防止委員会
- (15) 教職員ポケットハンドブックの作成
- (16) 画像等未読防止対策
- (17) 未承認等新規医薬品・医療機器評価委員会

■ インシデント・アクシデント報告件数

2020年度報告件数	4,868件
------------	--------

<内訳>

看護系職員	3,317件
医師	872件
うち研修医	69件
その他職員	679件

感染制御部

1 概要（組織目的）

感染制御部は、病院感染対策の整備・充実をはじめ広く医学部・大学病院の危機管理に貢献するとともに、感染症に関わる診療・研究・教育体制を推進する事を目的とする。

2 スタッフ構成

部長	長谷川 直樹
副部長	医師 3名
スタッフ	医師 6名
	看護師 3名
	薬剤師 1名
	臨床検査技師 1名
	事務課長 1名
	事務員 3名

3 業務内容

- (1) 感染制御部内規に基づく業務
- (2) 感染症外来における診療
感染症（NTM、HIV など）診療ワクチン外来、
渡航外来

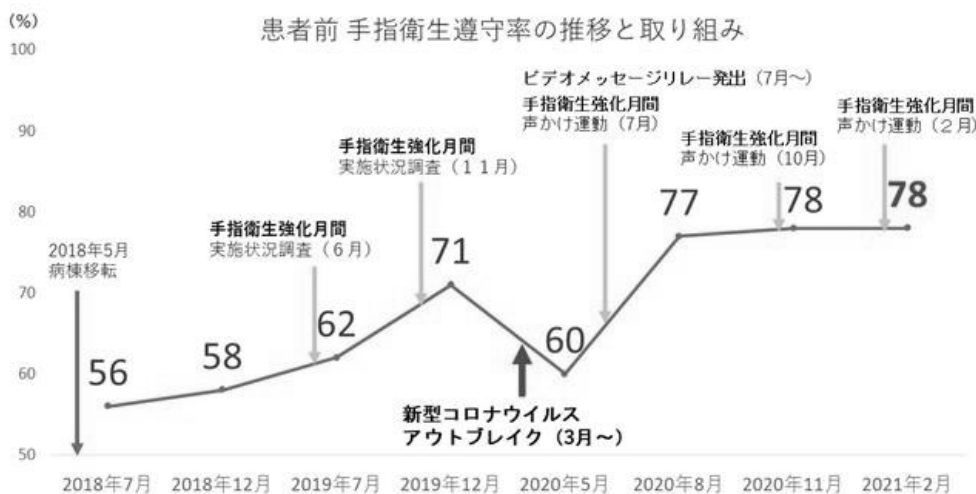
4 活動実績・取り組み

- (1) 必須研修-1
- (2) 第1回感染対策講習会
当院の COVID-19 対策
- (3) 第2回感染対策講習会
私たちに必要な COVID-19 対策と
教職員の心得
- (4) サーベイランス
薬剤耐性菌、血液培養陽性検出菌、医療器関連
感染、抗酸菌、アスペルギルス、血液曝露、手指
衛生遵守率（図1）、手術部位感染、その他の感
染症
- (5) ラウンド
下記資料（表1）
- (6) 他施設連携
 - ・ 加算2施設との年4回のカンファレンス
 - ・ 慈恵会医科大学附属病院 相互ラウンド
- (7) COVID-19 対策

表1 ラウンドの種類と実績

ラウンド名	ラウンド参加者	ラウンド実績
ICT/AST ラウンド (診療コンサルテーション 抗菌薬・血液培養陽性・薬剤耐性菌)	ICD・ICN・ 薬剤師・臨床検査 技師	診療人 数 1823 人 278 回
施設環境ラウンド	ICD・ICN・薬剤 師・ 事務員・ハウスキ ーパー	毎週木 曜日 年 22 回 42 部署
発生ラウンド	ICD・ICN・薬剤 師・ 臨床検査技師	適宜
医療器具関連感染ラ ウンド	ICN・他	部署 週 1～月 1
感染予防策関連ラウ ンド	ICN・他	年 3 回
ターゲットラウンド	ICD・ICN・臨床 検査技師・他	年 2 回 (検査 室)
網羅的ラウンド	ICD・ICN・薬剤 師・臨床検査技 師・他	年 2 回 (検査 室)

図1 手指衛生遵守率調査結果



病院情報システム部

1 概要（組織目的）

病院情報システム部は、電子カルテを中心に診療に必要な様々なシステムを提供し、大学病院としての高度な医療・運営を支援することを目的とする。

2 スタッフ構成

部長 陣崎 雅弘
課長 山本 幸二
主任 西沢 敏之
事務員 4名

3 業務内容

- (1) 医療情報システムの構築・設計に関すること
- (2) 医療情報システムの稼働、運用に関すること
- (3) 大学病院内の部門システムの運用支援に関すること
- (4) 所掌する外部委託業務従事者の指導に関すること

4 活動実績・取り組み

- (1) 電子カルテ端末のリプレース
2700 台の電子カルテ端末を新しい端末へ置き換えを実施
- (2) セキュリティ強化
SOC(Security Operation Center)との契約を行い、外部からの攻撃の監視を実現
- (3) 患者向けサービスの充実
 - ア 患者用 Wi-Fi の拡充
 - イ スマートフォンを用いた患者向けサービスの拡充
 - ウ デジタルサイネージを用いた情報提供基盤の構築

患者総合相談部

1 概要（組織目的）

患者総合相談部は、当院の理念に則した、患者との

信頼関係の維持向上と安心して安全な医療の提供を組織横断的に推進するために、患者またはその家族からの相談を受け、対応すべき専門部署との連携を図り、患者等を支援する体制の充実に務める。

2 スタッフ構成

部長 三村 将
部員 貴志 和希
部員 藤澤 大介
課長 岩田 光晴 月岡 澄子
主任 津田 いづみ
ソーシャルワーカー 1名
看護師 2名
保健師 1名
事務員 2名

3 業務内容

- (1) 相談業務
 - ア 対面相談
 - イ 電話相談
 - ウ web 相談
 - エ 投書（用紙・web）
- (2) 相談の1次対応並びに必要なに応じた2次対応に関する支援部門との連携・協働
- (3) 相談ならびに対応記録作成
- (4) 患者の声または患者視点での病院改善に向けた取組
 - ア カンファレンス（週1回）
 - イ 患者サポート運営委員会（月初1回）
 - ウ 支援部門と連携・協働した改善行動
 - エ 患者やその家族への情報周知（おたより作成・病院HP・調査結果等掲示）
 - オ 接遇・マナー講習会企画ならびに実施
- (5) 調査・統計
 - ア 相談記録統計
 - イ 患者調査・統計

4 活動実績・取り組み

(1) 活動実績

患者相談件数	合計	6,170 件
--------	----	---------

内訳	相談	2,015 件
	問い合わせ	2,375 件
	苦情	762 件
	意見	393 件
	要望	353 件
	感謝・礼状	123 件
	その他	149 件
	対応方法	窓口
電話		3,318 件
投書		995 件
Web 投書		69 件
Web 相談		805 件
その他		43 件

(2) 取り組み

- ア 新型コロナウイルス専用ダイヤル設置 (4 月)
- イ おたより発行 (8 月・3 月)
- ウ 総合相談窓口、患者総合相談部 2 号館 1 階 1R へ移転 (9 月)
- エ 患者調査実施
入院患者 (10 月 1 日～25 日)
外来患者 (10 月 8 日～24 日)
- オ 要確認者情報電子カルテマーク運用規定制定 (10 月)
- カ Web 投書開始 (12 月)
- キ 「すゝめ 12 号」患者調査結果を掲載 (3 月)
- ク 患者の声からの改善取組 4 件
* 支援部門と協働して取り組んだ事案

医療連携推進部

1 概要 (組織目的)

医療連携推進部は、地域医療機関との良好な関係を維持し、効果的な連携を図ることで、新規外来患者の紹介数の増加、入院患者数の増加を図ると共に、病床の効率的かつ効果的運用により全体最適化を図ることで当院の経営に貢献する。

2 スタッフ構成

部長	大家 基嗣
副部長	加藤 恵里子
次長	片岡 美樹
課長 (師長兼務)	田村 雅子
主任 (看護師)	大倉 美紀
	齋藤 八重子
	遊佐 由美
	(社会福祉士) 林 聖純
副主任 (看護師)	野崎 祥子
スタッフ職員	
看護師	18 名
社会福祉士*	6 名
管理栄養士	1 名
事務員	17 名
	(うち嘱託 7 名 派遣 2 名)
	* 2020 年度事務員から技術員へ変更

3 業務内容

■ 医療連携室

- (1) 医療機関との関係強化、協定に係る業務
- (2) 医療機関からの患者の円滑な受け入れ (前方連携) 体制の構築
- (3) 医療機関からの新規外来患者紹介の増加
- (4) 上記項目(1)(2)の業務を円滑に運用するために必要となる診療科等との調整・支援、ならびに事務管理
- (5) 医療連携を目的としたセミナー等の企画・運営ならびに支援

■ 入退院管理室

- (1) 病床の一元的管理による患者の円滑な入退院と効率的な病床運用の実現
- (2) 患者の入院から退院までの一連の業務の全体最適化
- (3) 上記各号の業務を円滑に実施するための病棟や関連部署との調整
- (4) 転退院等に関する相談ならびに調整 (後方連携)

4 活動実績・取り組み

本年度は、コロナ禍の影響により活動方法を見直し、

医療連携活動及び入退院管理について新たな運用を行うことになった。

■ 医療連携活動

2018年度より顔の見える連携の強化を目指してきたが、対面での対応が困難となったため、2020年度は地域の医療看護介護機関を招いて病院初のWEB医療連携推進フォーラムを7月30日、看護と介護の意見交換会を10月30日に開催した。また病院として地域医療機関へ季節のご挨拶や、各診療科から医療連携協定契約締結の依頼を地域医療機関に対して行い、12診療科が新たに契約を開始するとともに、総契約機関数は1,065件から1,156件へ（2020年度末時点）増加した。その他診療科単位での広報活動案内配布の補助業務を開始した。また、オンラインでのセカンドオピニオン相談を開始した。

■ 病床管理活動

COVID-19感染症患者への地域のニーズにこたえるため、東京都及び保健所、近隣医療機関との窓口となった。また外部からの要請応需のため、24時間対応可能な院内フローを作成し運用を開始した。COVID-19対策本部メンバー及び感染制御部、診療科及び看護部との協働により感染対策をふまえた高度急性期医療の提供が必要な患者の入院病床確保のため、緊急入院及び転院受け入れ対応フローを作成、運用を開始した。

■ 転退院支援

コロナ禍の影響により、年度前期は退院先を調整することが困難な状況があったが、転退院チーム（看護師、SW）間での情報共有ツールの見直しを行い、退院支援看護師の病棟活動の強化、転退院フローの作成と運用（脳卒中）、WEBによる地域との退院カンファレンス促進など行い、患者のニーズに応じた転退院調整のための体制整備を行いながら活動した。また、看護専門領域看護師は、専門性を活かして入院前から退院後の外来、地域関連機関との密な連携を行い、切れ目のない支援を行う医療チームとしても横断的に活動を行った。

<活動実績データ> *括弧内は前年度比

入院前情報収集実施件数	12,824件	(-3,215件)
転退院支援件数	1,848件	(+37件)
入退院支援加算2算定	1,217件	(+100件)
介護連携等指導料	80件	(+9件)

<患者転帰>

自宅退院 98.4%

放射線安全管理室

1 概要（組織目的）

放射線安全管理室は、放射性同位元素（RI）や放射線による事故の防止および安全文化の熟成のため、第三者の立場から、放射線業務従事者等に対する安全教育や各種法令の遵守状況の確認、個人ならびにRI使用施設等の放射線防護上の安全確認や環境の放射線防護等を行い、公共の安全を確保することを目的としている。

また、当室が独立的存在で病院全域の放射線安全に取り組み、院内だけでなく、当院周辺の公共の安全性の確保に取り組んでいる。

2 スタッフ構成

室長	茂松 直之
スタッフ	
室長補佐	1名
主任	1名
技術員	3名
臨時職員	1名

3 業務内容

放射線安全に関する全般的な業務を行う。

- (1) 放射線業務従事者の教育訓練
- (2) 放射線業務従事者の被ばく管理
- (3) 各種委員会の開催
- (4) 監督官庁への許認可申請等
- (5) 放射線使用施設の作業環境測定
- (6) 放射線使用施設(排気排気設備を含む)の維持管理

(7) 放射線の使用に関わる種々の業務等

4 活動実績・取り組み

(1) 放射線業務従事者の教育訓練

- ア 放射性同位元素等の規制に関する法律に基づく立ち入る前の研修を5回開催
- イ 放射性同位元素等の規制に関する法律に基づく立ち入った後の研修を2回開催+web研修

(2) 放射線業務従事者の被ばく管理

- ア 放射線業務従事者の登録、中止、再開の対応
- イ 個人被ばく線量計の配布、回収、発送
- ウ 個人被ばく線量の確認、配布、集計、保管

(3) 各種委員会の開催

- ア 病院放射線障害予防委員会を1回開催
 - ① 病院放射線障害予防規程の改訂に関する件
 - ② その他
- イ 特定放射性同位元素防護委員会を1回開催
 - ① 原子力規制委員会原子力規制庁の立入検査結果に基づく対応について
 - ② 特定放射性同位元素防護規程の改訂について
 - ③ 特定放射性同位元素防護管理者の追加選任について
 - ④ その他

(4) 監督官庁への許認可申請等

- ア 許認可申請
 - ① 原子力規制委員会：1件
 - ② 東京都：12件
 - ③ 労働基準監督署：8件
- イ 立ち入り検査対応
 - ① 原子力規制委員会原子力規制庁
 - ② 放射性同位元素等の規制に関する法律に基づく

(5) 放射線使用施設の作業環境測定

- ア 放射線診断科核医学部門：毎月
- イ 放射性医薬品製剤部門：毎月
- ウ アフターローディング室：毎月
- エ 前立腺癌組織内照射治療室：毎月
- オ リニアック室1・2：6ヶ月毎
- カ 診療用X線装置室：6ヶ月毎

キ 病室、居住区域、事業所境界：毎月

(6) 放射線使用施設(排気排水設備を含む)の維持管理

- ア 点検
 - ① 放射線使用施設の点検を2回実施
 - ② 放射線モニタリング装置等の点検を1回実施
- イ 改修工事等
 - ① R I 排水設備R I 貯留槽水位計交換
 - ② R I 排水設備R I 貯留槽清掃
 - ③ R I 排気設備排気ファンモーターベアリング交換

(7) 放射線の使用に関わる種々の業務等

- ア 法定帳票の作成、確認、保管
- イ 放射線測定器等の保守点検及び校正
- ウ その他

医療保険指導部

1 概要(組織目的)

医療保険指導部は、健康保険法その他の保険医療各法、保険医療機関及び保険医療費担当規則に基づき、保険診療および診療報酬請求業務を円滑かつ適正に実施することにより、大学病院の運営に寄与することを目的とする。

2 スタッフ構成

部長 石井 誠
副部長 平形 道人
課長 荒川 和美

3 業務内容

- (1) 各診療科の医師・研修医に対する保険診療に関する教育および指導
- (2) 社会保険診療報酬支払基金、国民健康保険団体連合会や官公庁との連携・調整
- (3) 診療報酬明細書の記載・点検および整備に関すること
- (4) DPC(診断群分類)のコーディングに関すること

(5) その他、保険診療に関すること

4 活動実績・取り組み

(1) 保険委員会の開催

毎月1回(8月は休会)委員会を開催し、保険診療および保険請求の適正化や診療報酬請求業務の質向上を図る。

(2) DPC コーディング委員会の開催

年4回委員会を開催し、診断群分類において標準的な診断および治療方法の周知、適切なコーディングを図る。

(3) 医薬品の適正使用促進

医薬品の適正使用を目的に、7種逡減対策を講じる。

< 病院事務局 >

病院経営企画室

1 概要（組織目的）

経営企画室は、病院がその社会的な使命を果たすとともに、経営の健全性を確保・維持・向上させていくために、大学病院の高度な判断や意思決定を支援することを目的とする。

2 スタッフ構成

課長 森岡 大智

主任 雨木 洋

事務員 3名

3 業務内容

病院内外の情報を戦略的・集中的に管理し、大学病院の経営業務に関連する企画、立案、事業計画、予算、調整に係る業務を行う。

- (1) 業務監督ボードに関すること
- (2) 病院執行部の判断や意思決定を支援すること
- (3) 大学病院の経営に関する企画、立案、事業計画、予算、調整に関すること
- (4) 組織編成に係る企画、調整、支援に関すること
- (5) 病院長選出手続きに関すること
- (6) 立入検査や病院開設許可に関すること
- (7) 室料差額等の料金設定に関すること

4 活動実績・取り組み

- (1) 病院業務監督ボード会議を11回（8月を除く毎月）開催した。主な議題は、以下のとおり。
 - ア 2019年度 病院決算報告
 - イ 高額医療機器・備品等の購入に関する事項
 - ウ 医療安全に関する事項
 - エ COVID-19への対応に関する事項
 - オ 信濃町キャンパス構内の工事状況に関する事項
 - カ 病床の適切な配分と運用に関する事項
 - キ 2021年度病院事業計画・予算に関する事項

(2) COVID-19への対応

感染症対応（外来・病棟の稼働制限等）による収支への影響を分析し、病院執行部の病院経営上の意思決定に関する支援と復興計画の立案を行った。

(3) 医療法に基づく立入検査への対応

(4) 2021年度病院事業計画・予算の編成

医事統括室

1 概要（組織目的）

医事統括室は、総合案内にはじまり、受付、診療費の請求、会計、診療記録の管理等、患者に直接的・間接的に関わる多くの業務を行っている部門である。円滑な診療を患者に提供すると共に、健康保険法その他の保険医療各法、保険医療機関及び保険医療養担当規則に基づき、診療報酬請求業務を円滑かつ適正に実施することにより、大学病院の運営に寄与することを目的とする。また、予防医療センターでは、人間ドックの事務を担い、医療従事者と連携しながら安心・安全で質の高い人間ドックを提供・運営することを目的とする。

2 スタッフ構成

(1) 医事統括室

課長 荒川 和美
主任 瀧澤 里奈 小原 昭浩
田村 智史

専任 13名

嘱託 7名

派遣 35名

委託 311名

(2) 予防医療センター

課長 阿部 淳志

和田 哲

専任 3名

嘱託 13名

派遣 10名

3 業務内容

- (1) 診療の受付・予約業務に関する事
- (2) 外来診察室等の運用に関する事
- (3) コールセンターの運営に関する事
- (4) 診療報酬等の計算・請求に関する事
- (5) 診療報酬等の会計・収納・債権管理に関する事
- (6) 診療記録の登録・管理・監査・開示に関する事
- (7) 診療情報を用いた統計・分析に関する事
- (8) 保険診療の施設基準・先進医療等の届出に関する事
- (9) 各種文書・証明書等の発行に関する事
- (10) 予防医療センターの運営に関する事
- (11) 医師等の当直・オンコール表に関する事
- (12) 所掌する外部委託業務従事者の指導に関する事
- (13) その他、医療事務に関する事

4 活動実績・取り組み

- (1) 2020年診療報酬改定
- (2) COVID-19関係
 - ア 電話診療による院外処方箋郵送
 - イ 各ブロック受付ダイヤルイン設置
 - ウ 入院前PCRスクリーニング検査対応
 - エ 診断書オンライン申込
 - オ 正面玄関検温トリアージ対応
 - カ ブロック受付アクリル板設置
 - キ 衛生検査所登録手続き
 - ク ワクチン接種対応
 - ケ 補助金申請
- (3) 受付窓口移転
- (4) 入院医療費保証サービス提供開始
- (5) LINEによる外来待合呼出しサービス開始
- (6) 患者調査・受療行動調査実施
- (7) デジタルサイネージでのサンタ企画

秘書課

1 概要(組織目的)

秘書課は、大学病院担当常任理事、病院長、事務局長の秘書業務を行い、院内各組織とのコミュニケーション支援を行うことを目的とする。

2 スタッフ構成

課長 秦英作
 事務員 4名
 事務嘱託 1名

3 業務内容

大学病院担当常任理事、病院長、事務局長の秘書業務全般を担当し、病院運営会議等の会議の事務局業務、外部からの各種要請対応、その他特命事項を行う。

- (1) 大学病院担当常任理事、病院長、事務局長の秘書業務全般に関する事
- (2) 病院長・事務局長当直ならびに当直日誌に関する事
- (3) 病院執行部会議に関する事
- (4) 病院運営会議に関する事
- (5) 外部からの各種要請などの渉外に関する事

4 活動実績・取り組み

- (1) COVID-19への対応

昨年度末より発足し、新型コロナウイルス感染症対応について病院長と関係責任者が議論を行う、新型コロナウイルス対策コアミーティングの事務局業務を担当し、病院執行部の意思決定の支援、教職員向けの病院長からのビデオメッセージの撮影・配信、および教職員の行動規範の周知等を行った。
- (2) 慶應義塾大学病院・三四会・慶應医学会 100年合同記念式典・シンポジウムの検討

当初、2020年11月21日に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症流行のため、2021年9月11日に延期となり、感染症対策も含め、引き続き検討を行った。
- (3) 各種会議の事務局業務

病院執行部会議を23回、病院運営会議を11回開

催し、この事務局業務を行った。

総務課

1 概要（組織目的）

総務課は、病院の業務が適正かつ円滑に執り行われることを目的とし、各種事務手続き、文書管理、電話交換などの業務を行う。また、法務・個人情報の担当として病院のリスクマネジメントを行うこと、広報担当として患者やそのご家族、社会全般に対して、病院の情報を正しく適切に発信することも目的とする。

2 スタッフ構成

(1) 総務担当

課長 長妻 靖子

主任 横田 明子

事務員 3名

事務嘱託 3名

(2) 電話交換担当

技術員 2名

3 業務内容

(1) 総務

文書の管理、院内周知文書の印刷配布、病院内での押印手続、郵便や配達物、調査、会議室管理、公式行事運営、弔事、会議運営、見学、実習、麻薬施用者免許届出

(2) 法務・個人情報関連

(3) 広報

(4) 公益通報窓口

(5) 電話交換業務

(6) 補助金・事業

(7) (一社) 慶應医師会の事務支援

4 活動実績・取り組み

(1) 病院 100 年記念関連

正面玄関、駐車場、3号館に病院 100 年記念装飾を行った。

(2) COVID-19 対応

ア 病院 Web サイトを部分的に改修し、新型コロナウイルスに関連するお知らせを集約して掲載した。

イ 会議室の収容人数の変更・レイアウトの変更を行った。

ウ 実習や見学において、感染拡大防止を考慮した手続きを整備した。

エ 各省庁からの要請に基づく報告を行った。

(3) 広報

予防医療センターの拡張移転に関するプレスリリースなど病院に関する情報発信や記者会見の運営ほか、COVID-19 に関する多数の取材対応を行った。

人事課

1 概要（組織目的）

人事課は、教職員の採用・任免・異動、出退勤・労務管理、研修、給与支払ならびに福利厚生等の事務を取り扱うことによって、教職員の就労環境を整えるとともに、病院の運営に資することを目的とする。

2 スタッフ構成

課長 町出 夏樹

主任 川野 広貴 宮崎 俊輔

事務員 11名

3 業務内容

主に以下の事項を分掌する。

- (1) 服務および勤務条件に関すること
- (2) 採用に関すること
- (3) 給与・報酬・賃金・旅費・災害補償等に関すること
- (4) 任免に関すること
- (5) 福利厚生に関すること
- (6) 人材育成や研修に関すること
- (7) 安全衛生管理に関すること
- (8) 労務管理に関すること

4 活動実績・取り組み

- (1) 2020年4月、大学院生にかかわる職位制度を新たに設置した。診療を主とする常勤の形態を助教(臨床実習)(乙)、研究を主とする非常勤の形態を助教(臨床実習)(丙)とし、勤務形態の整備と処遇の適正化を図った。
- (2) 医師の働き方改革への取り組みとして、2020年11月より、医師勤務管理システムを本稼働させた。
- (3) 教職員のCOVID-19対応に伴い、特殊勤務手当や診療特別手当の支払い、新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業による慰労金の振込業務等を行った。

管財課

1 概要(組織目的)

管財課は、病院運営に必要な物品の調達や支払、敷地における施設・設備の整備、およびそれらの管理を行うとともに、防災防犯の体制確保・強化に努めることを以って病院の円滑な運営に資することを目的とする。

2 スタッフ構成

(1) 用度担当

課長 鈴木 淳 山木 洸二
主任 瀧村 邦浩 菅生 真史
事務員 13名

(2) 環境担当

課長 前田 宗慎 濱中 義明
主任 片平 英一
技術員 6名
事務員 2名

(3) 防災防犯担当

課長 鈴木 淳
主任 三澤 容士
事務員 2名
嘱託 4名

3 業務内容

- (1) 物品調達や検収に関すること
- (2) 財産の管理に関すること
- (3) 工事、委託、賃貸借、物品購入の契約事務に関すること
- (4) 支払に関すること
- (5) 防災・防犯に関すること
- (6) 施設・駐車場の整備・管理に関すること
- (7) 清掃・廃棄物処理に関すること
- (8) 所掌する外部委託業務従事者の指導に関すること

4 活動実績・取り組み

(1) 用度担当

ア コロナ感染症に関わる対応

- ① 機器・備品購入、物品等調達
- ② 各種契約手続・宿泊施設確保
- ③ 寄贈品受入等

イ 2号館整備に伴う機器・備品等の購入及び移転作業

ウ 経常費・各種外部資金・補助金等による機器備品購入・委託契約等の管理

エ 支出予算管理・決算処理

(2) 環境担当

ア 大学病院1号館(新病院棟)新築工事に関わる計画および工事監理業務を行った。

イ 大学病院2号館整備工事に関わる計画および工事監理業務を行った。

(3) 防災防犯担当

ア コロナ感染拡大に伴う対応

病院建物の入館者に対して検温および入口動線の制限を実施した。

イ 消防計画に基づく対応

- ① 自衛消防訓練(消防署届出のもの)を29件実施した。
- ② 防火防災・防犯管理委員会を9回実施した。

ウ BCP関連

院内DMAT隊員と協働し、BCPに基づいた

災害対策本部運用訓練を実施した。

経理課

1 概要（組織目的）

経理課は、病院における会計諸取引を正確かつ迅速に処理し、財政に関する各種報告書（事業活動収支計算書、資金収支計算書）を作成し、もって病院の運営に資することを目的とする。

2 スタッフ構成

課長 磯田 美穂
主任 嶋原 崇
事務員 5名

3 業務内容

- (1) 経理に関すること
- (2) 大学病院の予算総括ならびに決算に関すること
- (3) 監査に関すること
- (4) 税務申告に関すること
- (5) 金銭等の出納に関すること

4 活動実績・取り組み

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大や東京オリンピック・パラリンピック開催にともなう各種資金の受け入れ・管理
 - ア 緊急医療体制支援積立金
 - イ 慶應義塾大学病院医療支援資金
 - ウ 慶應義塾大学緊急医療体制支援特別事業
 - エ 石井緊急医療基金
- (2) 新病院棟整備関連資金（信濃町キャンパス整備資金）の受け入れ・管理
- (3) 病院予算・決算
- (4) 監査対応（監事による病院監査、監査法人監査、業務監査室監査）

キャリア開発室

1 概要（組織目的）

キャリア開発室は、メディカルスタッフの専門職キャリア開発活動を支援し、総合力を備えた専門性の高い医療人を育成することを目的とする。なお、職種ごとの専門能力の開発は、各部門の主体的な活動を尊重する。

2 スタッフ構成

室長 山澤 美樹
事務員 2名

3 業務内容

- (1) メディカルスタッフのキャリア支援に関すること
- (2) メディカルスタッフの教育・人材育成・研修に関すること
- (3) キャンパス系技術員のキャリア支援に関すること
- (4) 人事課と共同し、医師働き方改革に関すること
- (5) 経営企画室、医療安全管理部と共同し、機能評価事務局に関すること

4 活動実績・取り組み

- (1) メディカルスタッフを対象に、チーム医療の中で役割発揮できるリーダーを育成することを目的とした現場力向上ワークショップの企画運営を行なった。本年度は第7期生4名が2年間の研修を修了、累計で研修修了生は11部門45名となった。
- (2) コメディカル部門の教育プログラムの開発を支援した。
- (3) 慶應BLSプロバイダー事務局として、BLS受講管理を行なった。本年度は、COVID-19感染拡大に伴い、約8ヶ月間休講となったが、講習環境の調整などにより、208名（前年度比▲723名）が受講できた。
- (4) 医師働き方改革事務局として、労務管理担当マネージャー会議の企画運営、夜間休日診療体制検討WG、タスクシェア/タスクシフティング検討WGの活動を支援した。
- (5) 2024年度施行される医師の労働時間上限規制の準備として、2021年2月の医師の労働時間や休日に関する実態調査を実施した。

- (6) 次年度の医師業務マニュアルの作成および病棟責任医師の更新を行なった。

慶應義塾大学病院 病院年報

2020 年度

発行：慶應義塾大学病院

2022 年 7 月